

ANNUAL REPORT

2017 – 2018

No. 41



Department of Policy and Planning Sciences,
Faculty of Engineering, Information and Systems,
University of Tsukuba

まえがき

筑波大学システム情報系社会工学域は、社会問題（経済，経営，都市・地域等に関わる諸問題）を理工学的（分析的，数理的，計量的）アプローチによって解明し，政策的および計画的な意味合いを見出すという研究上の共通目標をもつ研究者の組織である。2018年4月現在の本域所属の教員は，教授19名，准教授22名，講師2名，助教9名の合計52名、連携大学院教員9名（教授6名，准教授3名）を加えると61名である。それぞれの構成員は，国際的に認められる質の高い研究成果を上げるように，また良き教育者であるように努めている。本専攻教員の2017年度中の研究・教育活動は，以下のように総括できる。

(1) 研究活動

本域の研究活動は，2017年度も全分野（社会経済，経営工学，都市計画）にわたって活発に展開した。論文・著書に関しては，最も重視している審査付論文数が高水準を維持している。競争的研究資金の積極的導入に努め，外部研究資金を着実に獲得している。2017年度の科学研究費の採択本数は16件（基盤(B)4件，基盤(C)5件，挑戦的萌芽4件，新学術領域1件，若手2件），継続27件（基盤(A)1件，基盤(B)10件，基盤(C)5件，挑戦的萌芽4件，新学術領域2件，若手4件，研究活動スタート支援1件）と合わせると43件となる。

また，研究教育活動をさらに加速させるために組織力を保持するグループ研究を促進している。2018年5月現在，リサーチユニット11件，リサーチグループ11件にて本域教員が代表者となっている。

(2) 教育

本域の教員が関連する大学院教育組織に関する大きな動きとして，2014年度より，社会システム・マネジメント専攻，社会システム工学専攻，経営・政策科学専攻を改組し，社会工学専攻が発足した。その中で博士前期課程（システム情報工学研究科）においては社会工学学位プログラムとサービス工学学位プログラムの二本柱で教育を推進し，リスク工学専攻，生命環境科学研究科環境科学専攻においても教育活動を行っている。一方，博士後期課程（システム情報工学研究科）では，社会工学専攻に加え，旧課程である社会システム・マネジメント専攻の他に，リスク工学専攻において教育活動を行っている。さらに本域では，理工学群社会工学類，および社会・国際学群国際総合学類の学類教育も担っている。

これら教育組織ではカリキュラム等教育体制を定期的に見直してきた。社会工学専攻では改組前の2007年度より，博士後期課程で「社会人のための博士後期課程早期修了プログラム」を通じて社会人を継続的に受け入れている。2008年度からは院生生活支援プロジェクトを実施し，自前の予算で学生の国内外の研究発表を経済的に支援している。さらに2017年には社会工学学位プログラム内に社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」が開設され，サービス工学学位プログラムとともに，本学に2017年4月に開設された未来社会工学開発研究センターと人工知能科学研究センターの活動に貢献する体制を整えた。

かねてより社会工学専攻ならびに社会工学類では，教育の高度化を目指し，グループ作業，フィールドワーク，インターンシップなどを積極的に取り入れている。これらの教育では卒業生による協力も大

きい。社会工学同窓会，社工都市計画同窓会等を通じた卒業生との交流も本学では最も活発である。特に，2007年から社会工学類の優秀な卒業生3名に与えられる倉谷賞は社会工学類生の研究活動を大いに鼓舞している。

(3) 国際交流などの社会貢献

教育や研究以外にも，様々な学内外貢献を行っている。本域教員が責任者となっている国際交流協定は，清華大学，浙江大学，北京航空航天大学，香港理工大学（中国），漢陽大学校，弘益大学校，韓国国土研究院，ソウル市立大学校（韓国），ウィーン経済・経営大学（オーストリア），交通通信大学（ベトナム），ルール大学ボーフム校（ドイツ），アル・アハワイン大学（モロッコ）等，多岐にわたっている。特に2016年9月にベトナムの首都ハノイにおいて開学した「日越大学」，ならびに筑波大学における世界展開力強化事業では，本域の教員が多数協力を行っている。

また実学も重視しており，国，自治体，企業などとの連携も含め多様な社会貢献，地域貢献を行っている。国における都市計画制度の改革や，茨城県内5市（北茨城市，高萩市，神栖市，潮来市，鹿嶋市）と東日本大震災からの復興に関する協定締結において，本域教員が中心的役割を果たした。また，多数の出張講義・公開講座，本学主催の高大連携シンポジウム開催など社会連携活動へ大いに貢献した。2017年4月からは社会連携講座「地域未来社会創生教育コース」も開設され，産官学連携活動もきわめて活発に行われている。

(4) 組織

本域教員の流動性が高く，それに伴い審査付学術論文を重視する採用・昇任人事が経常的に行われてきた。しかし，昨今の採用人事制度の変更に伴い，優秀な人材を確保・維持していくためには，組織力のより一層の強化が求められる。

本域教員は，様々な研究分野・職歴・国籍をもち，工学系の域としては女性比率も高い。構成員の中で助教の構成比を高めることで，若手教員の比重も高めている。多様な教員間の活発な交流が，相乗効果により研究成果の向上をもたらしている。本域の更なる成長のためには，研究・教育意欲を刺激するような環境と開かれた運営体制を整備し，中長期的視野に立ち有能な人材を確保することが必要である。同時に，研究，教育，学内外の貢献に関して定期的な記録と自己評価・点検により，社会的説明責任を果たさなければならない。特に本学に2017年4月から開設された未来社会工学開発研究センターならびに人工知能科学研究センターとの連携では，本域が伝統的に有していた強みを発揮するとともに，本域の研究・教育両面での新たな飛躍が期待されている。組織力を生かした運営を通じ，社会的知識・論理的思考力・各種の工学スキルを持って社会問題を解決できる，豊かな人間性を兼ね備えた視野の広い人材を育成していきたい。

本報告書が構成員及び関係者の意識向上に貢献するとともに，本域の活動を知っていただく上で有効に活用されれば幸いである。

2018年5月20日

社会工学域長，社会システム・マネジメント専攻長，社会工学専攻長
吉瀬 章子

大学院の歴史

1973年	筑波大学開学
1976年	大学院、経営・政策科学研究科が発足する。
1977年	学部組織、第三学群社会工学類が発足する。
1978年	大学院として、博士課程（5年一貫制）の研究科である社会工学研究科が発足する。計量計画学専攻、経営工学専攻、都市・地域計画学専攻の3専攻から構成された。
1994年	社会工学研究科の都市・地域計画学専攻で、連携大学院方式が発足する。
1997年	社会工学研究科の改編がなされ、社会経済システム専攻、システム情報数理専攻、都市・環境システム専攻、計量ファイナンス・マネジメント専攻の4専攻体制となる。
2000年	社会工学研究科がシステム情報工学研究科に編入され、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻の2専攻に改編される。社会システム工学専攻は社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野の3分野で構成される。
2001年	経営・政策科学研究科が従来の経営科学分野と政策科学分野を、MBA、ビジネス情報数理、社会経済システム、都市計画の4コース制に改編する。
2005年	5年一貫制博士課程が区分制博士課程（2年の博士前期課程と3年の博士後期課程）に移行し、社会システム工学専攻と計量ファイナンス・マネジメント専攻は博士前期課程の社会システム工学専攻と博士後期課程の社会システム・マネジメント専攻に改編される。社会システム工学専攻は、社会経済システム分野、システム情報数理分野、都市・環境システム分野、計量ファイナンス・マネジメント分野の4分野で構成されることになる。
	経営・政策科学研究科は、博士課程前期課程の1専攻としてシステム情報工学研究科に編入され、経営・政策科学専攻となる。同年度の入学から、修士（ビジネス）を取得するMBAコースまたは修士（公共政策）を取得するMPPコースのいずれかを選択することになる。
2006年	社会システム工学専攻が、社会経済システム分野、経営工学分野、都市計画分野の3分野に再構成される。
2007年	理工学群社会工学類へと改編される。
2013年	社会システム・マネジメント専攻、社会システム工学専攻、経営・政策科学専攻が、1つの専攻へと改編されることが決まる。
2014年	社会工学専攻（社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム）が発足する。
2017年	社会工学学位プログラム内に、地域未来創生教育コースが開設される。

I. リサーチユニット

筑波大学リサーチユニット・社会工学域教員代表者(2018/5/16 現在)

課題名(領域)	概要	代表者
サービス組織の経営学(人社系)	サービス提供を本業とする経営組織体の生成・成長・成功メカニズムを、戦略・組織・IT・顧客の組織化・業績評価という5つの焦点から実証的に研究する。	生稻 史彦
サービス資源の最適配分(理工系)	最適化モデル, 確率モデル等の数理モデルを用いて, サービス産業および自治体における, 人・モノ・情報等のサービス資源の最適な配分方法に関する研究を行い, サービス事業者が提供するサービスの品質とその効率性の向上を目指す。	吉瀬 章子
コンパクトシティ(理工系)	人口減少や環境問題への対応に向け、都市をコンパクト化することの必要性が広く認知されるようになってきた。本研究グループはその研究上、および実務上の課題に応えるため、本学内外の幅広い専門家より構成されている。	谷口 守
都市・地域の経営とデザイン(理工系)	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、関連研究・教育の成果の発信・共有に係る国際的拠点を形成することを目的とする。	有田 智一
空間情報科学(複合系)	地理情報科学と都市工学の空間情報解析融合技術を戦略的に活用していくことを目指して、応用志向型、かつ科学的知見の政策立案への戦略的活用を意図した空間解析手法の高度化の追求のための研究活動を行う。	鈴木 勉
都市のOR(複合系)	本ユニットは、都市のORを研究領域とする。都市現象に関する諸課題など社会的・地球規模的な課題解決にオペレーションズ・リサーチ手法を駆使して取り組む研究者に対し、研究発表の機会や議論の場を提供するのである。	大澤 義明
東アジアの伝統的民家・集落と環境(複合系)	日本を含む東アジアにおける伝統的民家・集落・環境の相互関係についての学際的フィールド研究を実施する。現状での共時的な相互関係の理解を出発点として、東アジア全域にわたる木造文化の歴史的展開過程に関する知見を得る。	藤川 昌樹

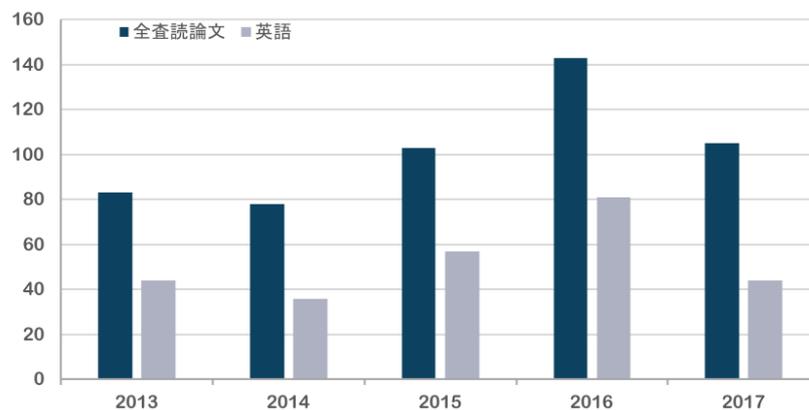
<p>経済実験・社会シミュレーション(複合系)</p>	<p>相互依存的な意思決定状況の下で生じる社会現象をどの程度予測できるかという問いは、研究の健全性を確保するために重要である。本プロジェクトの目的は、経済実験や社会シミュレーションによって、人間の経済行動とそこから生じる社会現象の予測に対するゲーム理論の適用可能性を探ることである。</p>	<p>秋山 英三</p>
<p>価値創造(複合系)</p>	<p>ビッグデータが注目される中、複数の情報を組み合わせて価値を創出するプラットフォームの構築が重要となっている。我々のグループでは、実データを用いた検証に基づき、数理的手法を駆使した価値創造のための新たな方法論の確立を目指す。</p>	<p>繁野 麻衣子</p>
<p>生態系サービス研究(複合系)</p>	<p>研究グループは社会工学域の以下の3名の教員が中心となっている。代表の吉野はリモートセンシングデータ解析による地域の環境評価、特に土地利用分析を専門としている。中核教員の村上は、緑地計画をベースに環境デザインに精通している。また、もう1名の中核教員の甲斐田は、環境の経済価値評価ならびに開発プロジェクト評価を専門としている。本研究グループは、共通の研究対象地に対して、これら3名の教員の研究専門分野と得意な研究ツールを互いにオーバーラップさせることにより、研究対象地における環境問題の解決をはかり、さらに生態系サービス水準を向上させる管理政策の提言が可能である。具体的には、本研究グループは、地域環境から我々が享受している生態系サービスの持続的維持、管理、有効利用を図るため、問題・課題の発見、現状把握、変化過程のモニタリング、様々な視点からの評価、実際的な政策提言を行う課題を研究テーマとして活動する。</p>	<p>吉野 邦彦</p>

筑波大学システム情報系リサーチグループ・社会工学域教員(2017/7/27 現在)

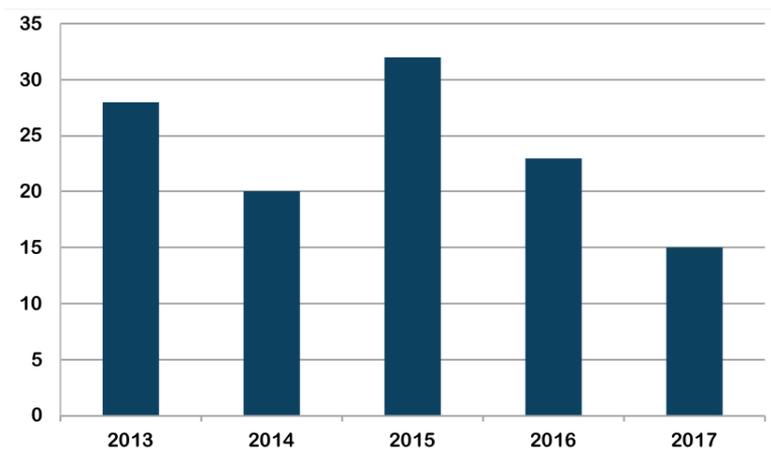
課題名	概要	代表者
マネジメント・サイエンス・経済学・心理学にわたる学際研究	社会工学域所属の6(昨年度までは4名)名の教員によるマネジメント・サイエンス(組織行動論・産業組織論・マーケティング)および経済学(ミクロ経済学・産業組織論)分野の共同学際研究	渡辺 真一郎
持続可能な社会構築のための政策	東日本大震災、ポスト京都等の様々な難題のもと、持続可能な社会構築のための政策設計は喫緊の課題である。当政策には、単なる経済効率性や環境保全の観点を越えた視点が求められている。以上の問題意識から、本リサーチグループにおいては、環境経済学、都市計画、社会基盤計画、交通計画等の立場から、持続可能な社会を実現するための政策について分析を行う。	奥島 真一郎
行動論的・社会的・心理学的アプローチによる社会経済システムの解明	本グループでは、社会的・経済システムに及ぼす様々な要因を、心理・社会実験、調査、シミュレーションなどの多面的なアプローチから明らかにし、従来の研究枠組みを超えた新しい知見や、方法論を構築する。	石井 健一
地域生態系の持続的機能維持のための地域環境政策に関する研究	開発圧力が顕在化している国内外の都市郊外地域を対象にして、その地域社会の持続発展と地域生態系機能の持続的維持を図る地域政策と環境政策を、環境影響評価、地域政策、環境政策の観点から解明する。	吉野 邦彦
ビッグデータと地理空間情報を活用した我が国の産業・企業研究	我が国の信用調査会社の企業間取引データや位置などの各種の地理空間情報を活用することで、我が国の様々な産業について、これまで見ることの出来なかった事業所間取引やその階層構造、事業所立地の動向など、経済再生・地方創生・国土強靱化に資する産業・企業研究を行う。	堤 盛人
情報ネットワーク	デジタル・コンテンツ著作権保護やグループ検査技術の開発、通信のための符号や系列の性能解析や構成法、携帯電話を利用した位置情報システムの開発と構築、無線通信ネットワークにおける効率的な経路決定と資源管理、GPS タクシー配車歴データの可視化及びその分析、モバイルクラウドにおけるデータ処理手法の開発、顧客の再試行と途中放棄を考慮したコールセンターのモデル化と性能解析、省エネ型データセンターのモデル化と性能評価を行う。	繆 瑩

都市・地域リスクマネジメントと被災地復興支援	都市リスク研究グループは、都市・地域に潜む様々なリスクを対象としてその適切なマネジメントに関する研究を行うとともに、自治体及び市民への政策提言や啓発活動を通じて被災地復興支援など都市・地域の現実問題解決のための社会貢献を果たす。	谷口 綾子
地理情報の解析と視覚化	数理学、都市計画、地理情報システムの専門家が計算幾何学、まちづくり、データマイニング、最適化などの多様な切り口から地理情報について横断的に情報交換し、研究手法の社会への普及を図る。	大澤 義明
社会メカニズム工学	複雑な社会・経済・経営現象のメカニズムを工学的にモデル化、可視化、シミュレーションし、制度設計に活かす新たな学際研究分野を創出する。 ・キーワード: マーケット・デザイン、複雑ネットワーク解析、社会シミュレーション、可視化、マネジメント・サイエンス	栗野 盛光
マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用	本研究は、大規模調査から得られた横断面データおよびパネルデータを用いて個人や家計の選好パラメータを推定する新たなマイクロ計量経済学的手法の開発と、日本のデータを用いた実証分析を行うことを目的としている。	大久保 正勝
都市・地域の経営とデザイン	分野横断的・国際的な視点から、従来までの都市計画・地域経営・まちづくり分野等の再構築を図り、都市・地域の経営・デザインに係る新たな方法論を創出するとともに、研究・教育の成果の発信に係る国際的拠点を形成する。	有田 智一

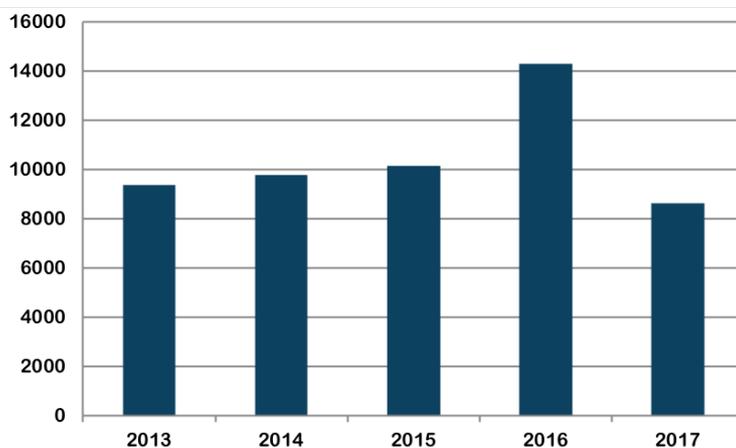
教員過去5年間の論文数



教員過去5年間の著書数



科研費合計額（単位：万円、直接+間接経費、代表者が社工教員）



II. 教員一覽

2018/3/31 現在

教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
秋山 英三	進化ゲーム論、力学系、エージェントシミュレーション、行動実験	資産市場取引におけるバブル発生機構の研究、協力行動の進化の研究、力学系としてのゲームの研究
有田 智一	地域科学、都市計画	産業集積、都市・地域政策、都市計画制度
糸井川 栄一	都市リスク管理	都市防災に関する数理化と都市の災害脆弱性評価
大澤 義明	都市計画、地域科学	IoT と都市計画、地方創生、公共施設マネジメント、震災復興・水害復興、住民投票の意義、税競争と調和、夜景、研究学園都市、立地論
岡本 直久	交通計画、観光計画	道路パフォーマンス指標の開発、コンテナ港湾機能配分に関する研究、観光交通の需要分析
川島 宏一	公共経営、オープンデータ、自治体情報戦略	公共情報共有による問題解決、都市開発分野の国際協力
岸本 一男	数理工学	デジタル幾何、立地問題と合理的選挙、株価変動解析、フラクタルの解析
イリチュ(佐藤) 美佳	多次元データ解析、統計科学	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング、ファジィクラスタリング、多相・多元データ理論
繁野 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化、ネットワーク最適化のアルゴリズム開発
鈴木 勉	立地分析、計画リスク、リスク管理型都市公共サービス	立地・輸送におけるリスク分析、都市インフラストラクチャーの維持管理、防災・防犯・救急医療システム評価、都市成長と計画における不確実性
谷口 守	都市計画・交通計画・環境計画、保全型都市計画	社会・交通基盤整備に関する研究、都市の環境に関する研究、都市・地域計画制度に関する研究
張 勇兵	分散システム、通信ネットワーク、性能評価	WDM 光通信ネットワークにおけるルーティング方式、移動エージェントによる分散処理システムの構築、移動通信システムにおける周波数資源の最適割り当て方式に関する研究
堤 盛人	空間計量経済学、空間統計学、地理情報科学、土木計画学	空間計量経済学、空間統計学、組成データ解析、不動産の価格・資料・空室率、産業立地、社会資本のストック推計、道路の維持管理、応用都市経済モデル
中村 豊	意思決定理論	測定論の基礎、不確実性下の意思決定
藤川 昌樹	日本建築史・都市史	歴史的市街地の保存、前近代東アジアの居住環境史、日本近世都市・住宅の空間構成に関する研究

繆 瑩	組合せ論、離散数学、符号理論、暗号理論、通信方式	完全差集合族とそのレーダー配列への応用、デジタル指紋符号の構成法および追跡アルゴリズムの開発、ベイジアンネットワークの遺伝子情報解析への適用、組合せデザイン理論を用いた情報通信・情報セキュリティのためのシークエンス構成問題
村上 暁信	都市計画、緑地計画、環境シミュレーション	ランドスケープ・プランニング、緑地の環境保全機能、都市化と環境変化、都市と農村の一体的整備、気候風土と景観
吉瀬 章子	数理最適化、オペレーションズ・リサーチ	錐最適化問題に対するアルゴリズムの理論と応用、サービス工学における最適化モデルの構築
吉野 邦彦	リモートセンシング、地域環境工学	生物多様性保全のための環境政策に関する研究、土地被覆・土地利用変化が地域生態系に及ぼす影響に関する研究、衛星リモートセンシングデータを用いた東南アジアにおける熱帯泥炭湿地林の環境評価、リモートセンシングによる湿原の詳細植生図の作成と景観生態学的分析
渡辺 俊	建築計画、都市計画、デザイン科学	ポスト定住化社会に関する研究、設計方法論に関する研究、地理情報システムに関する研究、建築CADシステムに関する研究
渡辺 真一郎	組織行動論	職務満足と生活満足の関係、ワーク・ファミリー間相互作用の比較文化的研究、個人－仕事環境間のダイナミック相互作用

准教授		
氏名	専門分野	研究テーマ
雨宮 護	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学	犯罪の空間統計学的分析と防犯まちづくりに関する研究、人口減少下における郊外住宅地の将来像に関する研究、環境の認知と評価・認知地図・回復環境・場所愛着・領域性など環境心理学研究全般、GIS/GPS/センシング技術を用いた人間行動や社会問題の解析
安東 弘泰	数理工学、非線形ダイナミクス	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用
生稲 史彦	製品開発論、技術マネジメント、イノベーション	コンテンツ及びサービス分野における開発活動のマネジメント、ITと企業経営、イノベーション
石井 健一	コミュニケーション、情報社会	インターネット、携帯電話など通信メディアの利用、日本メディアの海外における普及と消費行動、コンテンツ消費、広告の心理的効果、広告の内容分析、新製品の普及過程のモデル

上市 秀雄	意思決定論、認知心理学、社会心理学	個人の意思決定問題全般:後悔状況におけるメタ認知能力と適応的行動の関連性、環境保全行動、更生支援活動などの社会貢献・支援活動を促進・抑制する要因の分析、ギャンブル行動、サービス提供側と受け手側とのインタラクションに関する研究、慢性ストレスが生理・心理状態に及ぼす影響など
梅本 通孝	都市・地域の低頻度リスク対策	住民避難、災害時情報伝達、施設周辺地域の原子力災害対策、災害リスク認知
大久保 正勝	マクロ経済学、計量経済学	異時点間の消費決定に関する実証研究
太田 充	地域科学、都市経済学、都市計画	通信技術革新と都市空間構造の自己組織化
岡田 幸彦	会計学、サービス工学	サービス原価企画の理論的・実証的研究、サービス科学教育のための”知の体系”の創造
奥島 真一郎	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析	エネルギーと環境に関する脆弱性と貧困、モラルモチベーションと環境政策、環境とエネルギーに関する新たな指標の開発
甲斐田 直子	環境経済学、環境心理学	環境配慮行動・環境価値観・態度の分析、行動変容方略の検討、環境自然資源価値の経済評価
倉田 久	サプライチェーン・マネジメント、オペレーション管理	サプライチェーン・マネジメントの視点からオペレーションとマーケティングの連携の研究
栗野 盛光	マーケットデザイン、実験経済学、ゲーム理論	マッチング市場における中央集権的あるいは分権的制度のデザイン
小西 祥文	実証ミクロ経済学、応用計量経済分析	交通と環境、需給の構造推定、規制と技術変化、統計的因果推論
小林 佑輔	組合せ最適化、アルゴリズム論、離散数学	グラフ・ネットワークにおけるアルゴリズムの研究、最適化に有用な離散構造の研究
澤 亮治	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論	進化ゲーム理論を利用した社会慣習・社会制度・メカニズムの安定性分析
高野 祐一	社会システム工学・安全システム、数理情報学、統計科学、知能情報学	経営工学、OR、ファイナンス、最適化理論、統計計算・コンピュータ支援統計、モデル化・選択、データサイエンス、機械学習、知識発見とデータマイニング
高橋 正文	派生証券評価、金融リスク管理	デリバティブ等の確率モデル評価、証券価格変動解析、市場及び信用リスクモデルの評価・管理手法の研究
谷口 綾子	都市交通計画、態度・行動変容研究、リスク、コミュニケーション	都市交通計画における態度・行動変容研究、モビリティ・マネジメント、リスクコミュニケーション
Stephen John, Turnbull,	ゲーム論、情報経済、実験経済	オープンソース及びフリーソフトウェアのミクロ経済学的分析、コンピュータネットワークの経済学的効果
八森 正泰	離散数学、組合せ論	トポロジー的組合せ論におけるトポロジー的手法、組合せ的構造に関する研究

原田 信行	中小企業経済学、計量経済学	中小企業の動態および政策に関する理論・実証分析、日本経済・産業の実証分析、計量経済学
藤井 さやか	都市計画、まちづくり法制、住環境整備	計画的住宅地の持続可能性に関する研究、ICTを活用したまちづくり・地域活性化に関する研究、市民・事業者による多様な都市計画提案を活用した持続可能な空間形成手法に関する研究、住民組織による居住環境管理の実態と支援方策に関する研究
松原 康介	都市保全計画、都市計画史、地中海都市論	中東・北アフリカ地域の都市保全
山本 幸子	建築計画、地域計画	建築ストックの管理・活用手法の検討、地域施設計画、都市・農村交流によるまちづくりに関する研究

講師		
氏名	専門分野	研究テーマ
有馬 澄佳	生産システム工学、オペレーション管理、技術経営、コンピューターデバイス	QCDR モデルに基づく装置および生産ラインの設計・運用方法、超受注生産システム 技術経営と地域活性化、（経営管理 DMAIC サイクルを念頭においた IoT・ビッグデータ解析と計画最適化の応用研究を含む）
近藤 文代	時系列解析、統計解析、マーケティングデータ分析	日次 POS データの価格反応モデル分析

助教		
氏名	専門分野	研究テーマ
阿武 秀和	理論経済学	ミクロ経済学、マーケットデザイン
五十嵐 岳	数理統計学	ノンパラメトリック推定
牛島 光一	応用計量経済学、健康の経済学、教育の経済学	様々な政策や暴力紛争が人的資本（教育水準や健康）の蓄積に与える影響に関する実証研究
折原 正訓	企業金融・企業統治、税制、法と経済学	税制・法制度など公共政策と企業金融・企業統治との関係の実証分析
鬼頭 朋見	複雑ネットワーク、産業構造解析・設計、企業戦略論、生産工学、エージェントシミュレーション	
黒瀬 雄大	統計、計量経済学	ベイズ統計学、状態空間モデル

佐野 幸恵	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス	社会現象における普遍則の抽出、ソーシャルメディア分析、大規模データ解析
Tran Lam Anh, Duong	国際経済学、経済成長、所得分配	国際貿易が経済成長と富の分配に与える影響の分析
Phung-Duc, Tuan	応用確率論、確率モデル、待ち行列理論、性能評価、オペレーションズ・リサーチ	サービス・社会・情報システムの確率モデルに関する研究
三崎 広海	統計学、計量経済学、計量ファイナンス	高頻度データ解析、資産価格の分散・共分散、金融リスク管理、状態空間モデル、粒子フィルタ

氏名	秋山英三	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、エージェント・ベースド・シミュレーション		

1. 教育

2. 担当授業科目：

学類

社会工学実習／プログラミング実習／進化ゲーム理論

大学院前期課程

社会シミュレーション

3. 指導学生数：

社会工学類 4人／社会工学学位 P (前期) 5人／社会システムマネジメント専攻 1人
／社会工学学位 P (後期) 2人

4. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 基盤研究 (C) 市場参加者の異質性とその認識が資産価格変動に与える影響 (代表)
- 基盤研究 (A) 制度・認識・社会正義の経済学の構築に向けて (代表者：金子守)
- 基盤研究 (B) 帰納的学習による意思決定理論の構築と資産取引実験への応用 (代表者：石川竜一郎)
- 基盤研究 (B) 高次報酬懲罰系による社会的ジレンマの解決 (代表者：鳥海不二夫)
- 基盤研究 (B) 肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築 (代表者：栗野盛光)
- 基盤研究 (C) 地域社会の危機管理能力強化のための公共政策:公共財理論とネットワーク科学の融合 (代表者：藤本茂)

◆ 著書・論文等：

- ・ Hanaki, N., Akiyama, E., and R. Ishikawa, "Effects of different ways of incentivizing price forecasts on market dynamics and individual decisions in asset market experiments," *Journal of Economic Dynamics & Control*, forthcoming, 88, 51-69, March (2018). 査読有
- ・ Hanaki, N., Akiyama, E., and R. Ishikawa, "Behavioral uncertainty and the dynamics of traders' confidence in their price forecasts," *Journal of Economic Dynamics & Control*, 88, 121-136, March (2018). 査読有
- ・ 横手美史暢, 秋山英三, ``社会ネットワークのサイズと空間構造が文化圏形成に与える

影響の分析," The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS) 2017, 47-52 pages, (2017). 査読有.

- ・ 小塚孝卓, 秋山英三, "入札頼母子講における、出資行動と入札行動の進化: エージェント・シミュレーションによるアプローチ," The Proceedings of the Joint Agent Workshop (JAWS) 2017, 122-129, (2017). 査読有

◆ 学会発表等 :

Akiyama, E. (with T. Nishikawa, I. Okada, F. Toriumi, and H. Yamamoto),
"An Laboratory Experiment on Social Dilemmas - The Effect of 2nd Order Punishment/Sanction," Hawaii International Conference on System Sciences, January 3, 2018, Maui, Hawaii, USA. 招待講演

Akiyama, E. (with Hanaki, H. and Ishikawa, R.), "Effects of eliciting long-run price forecasts on market dynamics in asset market experiments," BEAM Kyoto International Conference, November 4, 2017, Kyoto, Japan.

Akiyama, E. (with Hanaki, H. and Ishikawa, R.), "Effects of eliciting long-run price forecasts on market dynamics in asset market experiments" 第 21 回実験社会科学カンファレンス, October 22, 2017, 関西大学.

Akiyama, E. (with T. Nishikawa, I. Okada, F. Toriumi, and H. Yamamoto),
"The Effect of Second-order Rewards and Punishment in Public Goods Game --- An Experiment," International Conference on Social Dilemmas, Taormina, Italy, 22 June 2017.

◆ その他 :

5. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

- ・ 全学 教育企画室 室員
- ・ 全学 教育推進イニシアティブ機構 アドミッション・タスクフォース リーダー
- ・ 全学 教育推進イニシアティブ機構 SF 教育・タスクフォース リーダー
- ・ 全学 教育推進イニシアティブ機構 振り分け・タスクフォース
- ・ 全学 学術情報メディアセンター運営委員
- ・ システム情報工学研究科 運営委員会委員
- ・ システム情報系 運営委員会委員

- ・システム情報系 人事委員会委員
- ・システム情報系 教員評価委員会委員
- ・システム情報系 運営委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・社会工学類長
- ・学類 運営委員会委員
- ・専攻 運営委員会委員

6. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- ネットワークが創発する知能研究会 2017 プログラム委員
- JAWS2016 (Joint Agent Workshops and Symposium 2017) プログラム委員

氏名	雨宮 護	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画、犯罪学、空間情報科学、環境心理学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：都市・地域・環境を探る I／住まいと居住環境の計画／現代まちづくりの理論と実践／社会工学実習／住環境計画実習／社会調査実習／都市計画事例講義および実習

大学院：都市と環境／プレイスメイキング／ファシリテーター育成プログラム・ファシリテーター育成プレプログラム（「多文化共生のためのコミュニティガーデンの計画と運営」）

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人／社会工学専攻（前期）9 人／社会工学専攻（後期）3 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「地理的犯罪予測の手法構築：学際研究と産官学連携による学術基盤の確立とシステム開発」, 研究代表者（2017 年度～2020 年度）
2. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（基盤 B）「高齢化・人口減少時代の近隣レベルの犯罪統制:主体間の効果的連携に向けて」(代表：小林寿一(科学警察研究所犯罪行動科学部長)), 分担研究者（2017 年度～2019 年度）
3. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 B）「「農」を用いたコンパクトシティの土地利用整序を実現する新たな中間組織の解明」(代表：横張真(東京大学工学系研究科教授)), 分担研究者（2016 年度～2018 年度）
4. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 C）「子どもの犯罪被害の前兆的事案調査法の開発と妥当性評価」(代表：原田豊(科学警察研究所犯罪行動科学部特任研究官)), 分担研究者（2016 年度～2018 年度）
5. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 A）「地域資源を基盤とする創造的復興とレジリエンス力強化に関する実践研究」(代表：逢坂卓郎(筑波大学芸術系特命教授)), 連携研究者（2015 年度～2018 年度）
6. 独立行政法人日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤 B）「都市計画と犯罪学」(代表：雨宮護(筑波大学工学系研究科教授)), 連携研究者（2015 年度～2018 年度）

盤 C)「割れ窓理論再考:秩序違反行為に影響するメソレベル環境要因の特定と実証的介入」(代表:島田貴仁(科学警察研究所犯罪行動科学部犯罪予防研究室長)), 分担研究者(2014年度~2017年度)

7. 株式会社ベストバイ「商品レイアウト変更による万引き防止の実験」, 代表, 2015年度~2017年度
8. 日本パナユーズ株式会社「警備業の最適化のための産学共同研究」, 代表, (2017年度~2018年度)
9. 守谷市共同研究(学術指導)「みずき野地区の長期ビジョン策定に向けた検討と実践に関する学術指導」, 代表, (2017年度)

◆ 著書・論文等:

(査読付学術雑誌掲載論文)

1. 大山智也・雨宮護・島田貴仁・中谷友樹(2017) 地理的犯罪予測研究の潮流, GIS 理論と応用, 25 巻 1 号, pp.33-43.

(総説・報告)

1. 雨宮護・渡辺雄太・新保奈穂美(2018) ドイツの「多文化共生ガーデン」, 農業と経済, 84 巻 2 号, pp.64-68.

(審査のない雑誌論文・紀要)

1. 雨宮護・樋野公宏・柴田久(2017) 繁華街に設置された街頭防犯カメラの効果検証: 福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー制度に基づく分析, 都市計画報告集, 16, pp.18-23
2. 樋野公宏・雨宮護(2017) 集合住宅における侵入窃盗の時空間的近接: 福岡県警察犯罪予防研究アドバイザー制度に基づく分析, 都市計画報告集, 16, pp.24-27 雨宮護・寺田徹・渡辺貴史・西辻一真・横張真(2017)「新たな農」が惹きつける都市住民の特性: 民間企業が提供する体験農園サービスの利用者アンケート調査報告, 都市計画報告集, 16, pp.36-41
3. 山村俊貴・樋野公宏・上杉昌也・雨宮護(2017) 前兆事案の発生と都市空間特性の関係性に関する基礎的検討, 都市計画報告集, 16, pp.200-203
4. 渡辺雄太・雨宮護・新保奈穂美(2017) ドイツにおける多文化共生ガーデンの取り組み実態とその社会背景, 都市計画報告集, 16, pp.240-246
5. 雨宮護・大山智也(2017) 暴露人口を考慮した性犯罪被害リスクの算出・可視化の試み: 人の流れデータを活用して, GIS 理論と応用, 25 巻 2 号, p.123
6. Naomi Shimpō and Mamoru Amemiya (2017) Designing an Open Space for Social Inclusion - An Intercultural Garden Project at the University of Tsukuba, Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, 201-204
7. 雨宮護・大山智也・島田貴仁(2018) 暴露人口を考慮した性犯罪被害リスクの分析: 誰が, いつ, どこで, 性犯罪の被害に遭うリスクが高いのか, 都市計画報告集, 16,

pp.297-301

◆ 学会発表等：

1. 雨宮護（2017）社会工学の立場から，第 54 回日本犯罪学会シンポジウム「犯罪学の更なる発展に向けて：学際的・実践的連携を考える」第一部「地域社会と犯罪防止」，國學院大學，2017.9.2
2. 雨宮護（2017）犯罪予測は可能か？地理的犯罪予測の展望と課題，2017 司法保護與犯罪預防論壇：標本兼治，締造公義關懷社會，行政院新莊聯合辦公大樓綠廊國際會議廳，2017.12.1。（梗概：2017 司法保護與犯罪預防論壇：標本兼治，締造公義關懷社會，會議手冊，p.68-69）
3. 大山智也・雨宮護（2017）日本型地理的犯罪予測手法の開発にむけて，都市の OR スプリングセミナー，慶應義塾大学，2017.4.22
4. Naomi Shimpō and Mamoru Amemiya (2017) Designing an Open Space for Social Inclusion - An Intercultural Garden Project at the University of Tsukuba, 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, Nagoya Congress Center, August 24-26. (梗概：Proceedings of 2017 International Conference of Asian-Pacific Planning Societies, 201-204)
5. 大山智也・雨宮護（2017）地理的犯罪予測の手法間比較：日本における適用可能性について，日本犯罪心理学会第 55 回大会，口頭発表，國學院大學，2017.9.3（梗概：犯罪心理学研究，55 卷特別号，pp.68-69）
6. 大山智也・雨宮護（2017）地理的犯罪予測手法の罪種間比較：日本型犯罪予測手法の構築に向けた検討，第 26 回地理情報システム学会研究発表大会，宮城大学，2017.10.28-2017.10.29（梗概：地理情報システム学会講演論文集，26，CD-ROM）
7. 大山智也・雨宮護（2017）地理的犯罪予測手法の罪種間比較：日本型犯罪予測手法の構築に向けた検討，第 26 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション，宮城大学，2017.10.28-2017.10.29
8. 雨宮護・大山智也（2017）暴露人口を考慮した性犯罪被害リスクの算出・可視化の試み：「人の流れ」データを活用して，第 26 回地理情報システム学会研究発表大会ポスターセッション，宮城大学，2017.10.28-2017.10.29
9. 齋木亮作・雨宮護（2017）GPS 推計データに基づく都市公園利用者数推計の可能性：千葉市の都市公園を対象に，日本造園学会関東支部大会ポスターセッション，日本大学理工学部駿河台キャンパス，2017.11.11
10. 山村俊貴・樋野公宏・上杉昌也・雨宮護（2017）前兆事案の発生と都市空間特性の関係性に関する基礎的検討，日本都市計画学会第 52 回学術研究論文発表会・都市計画報告会，北海道大学，2017.11.11
11. 樋野公宏・雨宮護（2017）集合住宅における侵入窃盗の時空間的近接，日本都市計画学会第 52 回学術研究論文発表会・都市計画報告会，北海道大学，2017.11.11
12. 渡辺雄太・雨宮護・新保奈穂美（2017）ドイツにおける多文化共生ガーデンの取り組み

み実態とその社会的背景, 日本都市計画学会第 52 回学術研究論文発表会・都市計画報告会, 北海道大学, 2017.11.11

13. Tomoya Ohyama and Mamoru Amemiya (2017) Applying crime prediction techniques to Japan: Comparison between Risk Terrain Modeling and other methods, Session 704, ASC Annual meeting 2017, Philadelphia, PA, November 15-18.
14. Mamoru Amemiya (2017) Time series analysis of geographic concentrations and patterns of crime in low crime rate areas: Tokyo, Japan, Poster Session, ASC Annual meeting 2017, Philadelphia, PA, November 15-18.
15. 大山智也・雨宮護 (2017) 地理的犯罪予測と人の流れデーター犯罪抑止要因としての「人の目」と Risk Terrain Modeling一, 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会「CSIS DAYS 2017」, 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト, 2017.11.30 (梗概: Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2017, p.21)
16. 藤本典志・雨宮護・大山智也 (2017) 総合リユース店舗における万引き被害の空間的特徴, 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会「CSIS DAYS 2017」, 東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライト, 2017.12.1 (梗概: Research Abstracts on Spatial Information Science CSIS DAYS 2017, p.46)
17. 大山智也・雨宮護 (2018) 地理的犯罪予測と人の流れデーター犯罪抑止要因としての「人の目」と Risk Terrain Modeling一, IEICE HPB 第 18 回研究会, 東京電機大学, 2018.2.21
18. 唐曼・讚井知・雨宮護 (2018) 混住型学生宿舎における異文化交流に影響を与える要因ー空間を共有する学生の生活スタイルとルール作りに着目してー, 第 11 回日本環境心理学会 (口頭発表), 東京都市大学, 2018.3.24
19. 盧西祥・大山智也・雨宮護 (2018) 中国鄭州市におけるゲーテッドコミュニティのゲートが担う機能の地域差, 第 11 回日本環境心理学会 (口頭発表), 東京都市大学, 2018.3.24
20. 藤本典志・大山智也・福嶋進・雨宮護 (2018) 総合リユース店舗における万引きに関連する要因の解明ー一般化線形混合モデルを用いた分析ー, 第 11 回日本環境心理学会 (口頭発表), 東京都市大学, 2018.3.24
21. 高橋あい・雨宮護・島田貴仁 (2018) 女性・子供を対象とした軽微な性犯罪における近接反復被害仮説の検証, 第 11 回日本環境心理学会 (ポスターセッション), 東京都市大学, 2018.3.24

◆ その他:

著書

報告書

1. 警視庁子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会 (2017) 「警視庁子ども・女性

の安全対策に関する有識者研究会提言書」, 178pp.

2. 福岡県警察 (2017) 「犯罪予防研究アドバイザー制度研究成果報告書 No.1」, 報告書, 概要版

2. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 1. システム情報工学研究科広報委員 (委員長)
 2. 大学の世界展開力強化事業 (中南米との大学間交流形成支援) プログラム実施委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 1. 大学院社会工学専攻広報委員
 2. 社会工学類広報委員
 3. 都市計画主専攻 3 年担任

3. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

(学会活動)

1. 日本都市計画学会社会連携委員会研究交流事業「実務と研究の連携のための研究会」メンバー (2017 年度～)
2. 日本都市計画学会「会長アドバイザー会議」委員 (2017 年度～)
3. 日本都市計画学会社会連携委員会委員 (2016 年度～)
4. 日本都市計画学会査読委員 (2008 年度～2010 年度, 2014 年度～)
5. 日本造園学会論文集委員会委員 (幹事) (2017 年度～)
6. 日本造園学会総務委員会委員 (2011 年度～2012 年度, 2017 年度～)
7. 日本造園学会研究論文集校閲委員会委員 (2007 年度～)
8. 日本環境心理学会運営委員会委員 (2017 年度～)

(学外組織からの委嘱委員等)

1. 北区「景観審議会」委員 (2017 年度～)
2. 足立区「防犯まちづくり推進アドバイザー」(2017 年度～)
3. 市川市「空家等対策協議会」委員 (2017 年度～)
4. 八潮市「都市計画審議会」委員 (2017 年度～)
5. 神栖市「総合計画審議会」委員 (2017 年度)
6. 公益財団法人日工組社会安全研究財団「防犯性に優れた大規模商業施設の普及促進に係る調査研究」委員 (2017 年度)
7. 大阪府警察「防犯対策高度化協働研究会」委員 (2017 年度～)
8. つくば市「生活安全推進協議会」副会長 (2016 年度～)

9. 警視庁「子ども・女性の安全対策に関する有識者研究会」委員（2016年度～）
10. つくば市「都市計画審議会」委員（2016年度～）
11. つくば市「明るいまちづくり協議会」副会長（2015年度～）
12. つくば市「研究学園中心地区の街路灯設置に向けた協議会」副会長（2015年度～）

（一般向け招待講演）

1. 雨宮護（2017）子供・女性の被害防止に向けて自治体ができること：前兆事案に焦点をあてた対策の可能性と課題，東京都・警視庁「子供・女性の安全対策に関するシンポジウム：犯罪の起きにくい社会づくりの実現に向けて」ディスカッション，東京都議会議事堂都民ホール，2017.10.6
2. 雨宮護（2018）「持続可能な」防犯活動を考える，市川市市民部市民安全課「いちかわ市民防犯講演会」，市川市市民会館，2018.2.9.
3. 雨宮護（2018）効果的・持続的な安全・安心まちづくりのすすめ方，沖縄県子ども生活福祉部消費・暮らし安全課「安全・安心まちづくり講習会」，沖縄県庁4階講堂，2018.3.7.
4. 雨宮護（2018）（パネラー），つくば市都市計画部都市計画課「つくば市景観条例制定10周年事業景観シンポジウム.：これからのつくばの景観を考えよう」，イーアスホール，2018.3.17.

氏名	有田 智一	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市・地域政策，都市計画制度、産業集積		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類：社会工学実習、都市と地域の経営行政論、都市計画マスタープラン策定実習、現代まちづくりの理論と実践、都市・地域・環境を巡るⅡ（総合科目）、建築関連法規（世話人教員）

社会工学学位プログラム：制度・政策決定論、都市開発プロジェクトマネジメント/地域経営論、社会工学ワークショップ、社会工学ファシリテーター（国際交流ワークショップ）、美しい国土づくりへの挑戦Ⅰ（世話人教員）

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（修士） 8名

社会工学専攻社会工学学位プログラム（博士） 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費補助金基盤研究 B「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」（研究分担者）
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」（研究分担者）
- ・ 奨学寄附金「都市開発・都市再生関連政策の実態と今後の展開に関する研究」（日本住宅建築センター）（研究代表者）

◆ 著書・論文等：

- ・ 瀬島由実加、村上暁信、有田智一「民有地緑化誘導における協議調整プロセスの実態と課題」都市計画論文集 52(3), 1256-1261, 2017-10
- ・ 金崎健太郎、川島宏一、有田智一「マイナンバー導入に伴う自治体業務情報システム改

修事例に見るオープン化・標準化及び共同化の現状に関する研究」、情報システム学会誌 Vol. 13, No. 2, pp1-13.

- ・有田智一「葬儀場等の立地に対する自治体の対応：背景・実態と課題（特集：「多死社会」を見据えて）」都市問題 108(7), 80-90, 2017-07、後藤・安田記念東京都市研究所
- ・有田智一「独・英における新たな都市・地域マネジメントの試みと課題(4)イギリスの広域マネジメント施策：West of England Local Enterprise Partnership の事例調査」中部圏研究: 調査季報 (199), 62-73, 2017-06、中部産業・地域活性化センター

◆ 学会発表等：

瀬島由実加、村上暁信、有田智一「民有地緑化誘導における協議調整プロセスの実態と課題」都市計画論文集 52(3), 1256-1261, 2017-10

◆ その他：

「葬儀場・墓地・納骨堂等の自治体対策」セミナー講演会講師
2017年11月15日、東京、地域科学研究会

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学つくば連携推進室室員
地球規模課題学位プログラム運営委員会委員
日越大学公共政策プログラム担当
全学入試実施委員会
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類入試実施委員会副委員長
建築士受験資格運営委員会委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
東京都住宅政策審議会委員
東京都建築審査会委員
東京都江戸川区都市計画審議会委員
川崎市建築等紛争調停委員会委員
埼玉県八潮市まちづくり・景観推進会議委員
千葉県松戸市建築審査会委員
守谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議座長

守谷市空家等対策協議会座長

取手市国土交通省所管公共事業再評価委員会委員長

取手市桑原地区土地区画整理事業事業協力者選定委員会委員長

土浦市行財政改革推進委員会委員長

土浦市公共施設等総合管理計画策定委員会委員長

土浦市空き家等審議会委員長

古河市空き家等審議会委員長

神栖市都市計画マスタープラン策定委員会委員

桜川市都市計画マスタープラン策定委員会委員

日本建築学会建築法制委員会近代建築法制100周年記念活動支援小委員会主査

日本建築学会建築法制委員会人口減少時代のゾーニング検討小委員会委員

日本建築学会都市計画委員会創造的地域文脈小委員会幹事

都市住宅学会関東支部常議員

都市住宅学会学術委員会委員

都市住宅学会学会賞委員会委員

応用地域学会学術委員会委員

財団法人再開発コーディネーター協会試験講習委員会委員

「これからの都市開発・再開発についての研究会：大都市部会」委員（全国市街地再開発協会、株式会社日本建築住宅センター）

Journal:” Planning Theory and Practice (Royal Town Planning Institute),”

Editorial Board(Taylor & Francis)

氏 名	有馬 澄佳	職 名	講師
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生産システム工学、地域活性化、技術経営とビジネスモデル・イノベーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 生産・品質管理， マネジメント実習， 経営の科学 III， 問題発見と解決

大学院： 生産・品質管理， ビジネス戦略－理論と実践

◆ 指導学生数：20名

大学院：社会工学専攻 8名， サービス工学専攻 1名、 研究生 4名

学類：社会工学類 7名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

産学共同研究等：

- 「IoT を活用した生産進捗モニタリングによる定量解析と業務効率の改善提案」（有馬澄佳， H29.10月3日～H30.2月28日， 375.1万円）， 茨城県工業技術センター.
- 「生産管理システムと超受注生産の研究」(研究代表者:有馬澄佳, H28～30年度, 100万円/年×3, 太洋電機産業（株） .
- 平成28年度補正革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助事業(1356万円) (代表:太洋電機産業株)代表取締役社長 横田勤， 大学研究者代表:有馬澄佳).
- 「半導体工場の生産管理最適化手法」(研究代表者:有馬澄佳， H28.10月～H29.6月， 41万円)， 旭化成マイクロシステム(株).
- ダイバーシティ推進「育児等との両立のための研究補助者雇用経費助成制度」(H28年10月～H29年2月， 15万円)

◆ 著書・論文等：

査読付学術雑誌掲載論文

- S. ARIMA, Y. ISHIZAKI, H. BU, "Sparse Modeling for Automatic Extraction of Variables to build accurate Virtual Metrology Models," Proceedings of AEC/APC symposium Asia 2017, DA-O-34, pp.1-6, Nov. 2017.
- S. Arima, B. Huizhen, Y.-F. Wang, Y. Ishizaki, "Real-time Scheduling of HMLV Productions using the Optimum Production Cycle extended by ATSP Solver," Proceedings of 2017 Joint

International Symposium on e-Manufacturing and Design Collaboration (eMDC) & Semiconductor Manufacturing (ISSM), pp.1-4 (P0009), IEEE, Sep. 2017.

- S. Arima, H. Bu, Y. Akiyama, H. Motomiya, "Real-time Resource Allocations and Scheduling of Product-mix Production Systems with Multi-type jigs," Proceedings of 2017 Joint International Symposium on e-Manufacturing and Design Collaboration (eMDC) & Semiconductor Manufacturing (ISSM), pp.1-4(P0012), IEEE, Sep. 2017.
- S. Arima, Y. Zhang, Y. Akiyama, Y. Ishizaki, "Dynamic Scheduling of Product-mix Production Systems of MTS and MTO, "Proceedings of 2017 Joint International Symposium on e-Manufacturing and Design Collaboration (eMDC) & Semiconductor Manufacturing (ISSM), pp.1-4(P0022), IEEE, Sep. 2017.
- ◆ 学会発表等：
 - (招待講演) 有馬澄佳: 「IoT 活用による現場改善」, 第3回 IoT・ロボット研究会, 茨城県, pp.1-68, 2017年07月28日.
 - S. ARIMA, Y. ISHIZAKI, H. BU, "Sparse Modeling for Automatic Extraction of Variables to build accurate Virtual Metrology Models," Proceedings of AEC/APC symposium Asia 2017, DA-O-34, Nov. 2017. (一橋講堂@東京)
「Best student Award」を受賞.
 - S. Arima, B. Huizhen, Y.-F. Wang, Y. Ishizaki, "Real-time Scheduling of HMLV Productions using the Optimum Production Cycle extended by ATSP Solver," 2017 Joint International Symposium on eMDC & ISSM, P0009, Sep. 2017 (Conference Location: Hsinchu, Taiwan).
 - S. Arima, H. Bu, Y. Akiyama, H. Motomiya, "Real-time Resource Allocations and Scheduling of Product-mix Production Systems with Multi-type jigs," 2017 Joint International Symposium on eMDC & ISSM, P0012, Sep. 2017 (Conference Location: Hsinchu, Taiwan).
 - S. Arima, Y. Zhang, Y. Akiyama, Y. Ishizaki, "Dynamic Scheduling of Product-mix Production Systems of MTS and MTO, "2017 Joint International Symposium on eMDC & ISSM, P0022, Sep. 2017 (Conference Location: Hsinchu, Taiwan).
- ◆ その他：

国際特願(台湾) 01151072/発明 I594100 (2017年8月1日登録) 「最適指標生成装置、最適指標生成方法、最適指標生成プログラム及び最適指標生成サーバ」(発明者: 畠(有馬)澄佳、山崎雄大, 出願人: 筑波大学).
- ◆ 研究会オーガナイザー(産学官交流)
 - 2017年度教育研究実践プログラム(第1回「見る」)「つくば産学官交流セミナー～共創プラットフォーム見学会」(2017年)
 - ①PLY/富士通(株)@蒲田 ②みらい DOORS/富士通 SSL(株)@武蔵小杉タワープレイス ③共創ラボラトリー/富士ゼロックス R&D スクエア@横浜みなとみらい21

- 2017教育研究実践プログラム（第2回「実践する」）「産学官技術フォーラム &ハッカソン～」
 - ・ いばらき IoT ラボ/IoT・ロボット研究会(県内中小企業4社×{筑大, 県工技セ})
 - ・ 3/8 第5回 IoT・ロボット研究会 成果報告会 (UT有馬研2件4名)
- 2017教育研究実践プログラム（第2回「共有する」）「産学官技術フォーラム &ハッカソン～」 (主催：筑波大学システム情報系社会工学域・茨城県, 於：筑波大学 3E404-3E406, 2018年3月9日～10日).

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) : 4年次クラス担任, 卒業論文梗概集編集委員

4. 学外の社会貢献

- (ア) 茨城県「中小企業 IoT 等自動化技術導入促進事業」専門家 (H28年度～)
- (イ) 茨城県「IoT 推進ラボ」メンバー (H28年度～)
- ◆ 論文査読－IEEE: ジャーナル3件, 国際会議論文63件
- ◆ IEEE International Symposium on Semiconductor Manufacturing 日本プログラム委員
- ◆ AEC/APC symposium Asia プログラム委員会 副委員長

氏名	安東弘泰	職名	准教授
専攻（博士後期課程）			
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	生体システムに倣った複雑ネットワークモデルの構築とその社会システムへの応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学実習／社会工学専門英語／シミュレーション／

大学院：社会工学のための数学

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名 社会工学専攻：2名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

【受託研究】 SIP 次世代パワーエレクトロニクス「SiC パワーデバイス応用による低容量小型パワー集積回路開発およびパワープロセッシング技術の研究開発」（代表機関：京都大学）（再委託）

【受託研究】 深層学習による音声変換に関する研究，[代表]

NTT 共同研究

【科研費】 2型糖尿病における人工的膵臓刺激装置設計のための数理モデル研究,[代表]
挑戦的萌芽研究

◆ 著書・論文等：

【1】 H. Ando, K. Takehara, M. U. Kobayashi, Time-delayed feedback control of diffusion in random walkers, *Physical Review E*, Vol. 96, Issue 1, 012148, July 2017.

【2】 K. Oyamada, H. Kameoka, T. Kaneko, H. Ando, K. Hiramatsu, and K. Kashino, non-Native Speech Conversion with Consistency-Aware Recursive Network and Generative Adversarial Network, *Proceedings of the Asia Pacific Signal and Information Processing Association Annual Summit and Conference 2017*, 7 pages, KL, Malaysia, December 12-15, 2017.

【3】 K. Fujiwara, H. Ando, T. Ikeguchi, M. Yoshida and M. Kakei, Mathematical Model of TRPM2 Activation in Pancreatic β -cells, *Proceedings of the 2017 Symposium on Nonlinear Theory and its Applications*, pp. 387--390, Cancun, Mexico, December 4-7, 2017.

【4】 H. Ando, M. Hasegawa, T. Hikiyara, A bio-inspired pattern dynamics of power flow in consensus networks, *Proceedings of the 2017 Symposium on Nonlinear Theory and its Applications*, pp. 108--111, Cancun, Mexico, December 4-7, 2017.

◆ 学会発表等：

【1】 小林幹, 安東弘泰, 山田道夫, 時間遅れフィードバックを用いた拡散制御 2, 第 60 回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 東京, 2017 年 11 月 10~12 日.

【2】 古城知祥, 安東弘泰, 藤原寛太郎, 吉田昌史, 加計正文, 膝 β 細胞の数理モデルにおけるノイズの影響について, 複雑コミュニケーションサイエンス研究会, 電子情報通信学会 技術研究報告 CCS2017-25(2017-11) 25-28, 大阪, 2017 年 11 月 9~10 日.

【3】 藤原寛太郎, 安東弘泰, 池口徹, 吉田昌史, 加計正文, TRPM2 チャネルの膜電位特性の数理モデル解析, 第 60 回日本糖尿病学会年次学術集会論文集, III-P-557, 名古屋, 2017 年 5 月 18~20 日.

【4】 須田雄士, 山中健雄, 安東弘泰, 岡田幸彦, オンラインニュースサイトにおけるネットワーク中心性尺度の活用, 日本応用数学会 2017 年度年会, 東京, 2017 年 9 月 6~8 日.

【5】 松林道雄, 野口宇宙, 小山田圭佑, 村山透, 安東弘泰, 高原勇, 大澤義明, ブロック玩具によるプロジェクトマッピング模型を用いた地域設計の検討, 第 40 回情報・システム・利用・技術シンポジウム, pp. 307-310, 東京, 2017 年 12 月 14~15 日.

【6】 安東弘泰, 小林幹, 時間遅れフィードバックによる多粒子系の拡散制御, 第 59 回自動制御連合講演会, システム制御情報学会, 北九州, 2016 年 11 月 9~12 日.

その他：

【招待講演】

【1】 安東弘泰, 時間遅れフィードバックによるゆらぎの拡散制御, マクロ経済動学の非線形数理 RIMS 共同研究, 京都, 2017 年 8 月 8 日.

【2】 安東弘泰, 時間遅れフィードバック制御による確率的システムの拡散制御~理論的考察, 平成 29 年度第 1 回非線形系・複雑系理論応用研究会, 仙台, 2017 年 7 月 2 日.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

なし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

コンピュータ委員（社会工学類、社会工学専攻）

入試実施委員会（社会工学類）

4. 学外の社会貢献

- ◆ 高大連携

米軍子弟への研究室紹介

氏名	阿武 秀和	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ミクロ経済学、マーケットデザイン		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：ミクロ経済学
- ◆ 指導学生数：0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 特別研究員奨励費「マッチング市場の理論的研究」（研究代表者）
 - 科学研究費 基盤研究(B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」（研究分担者）
- ◆ 著書・論文等：
 - Dual Organ Markets: Coexistence of Living and Deceased Donors, Discussion Paper Series, University of Tsukuba

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：なし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：社会工学研究科入試監督員(8/24,2/1)

4. 学外の社会貢献

- ◆ レフリー活動：International Journal of Game Theory
- ◆ 茨城県高校生科学研究発表会審査員(3/17)

氏名	五十嵐 岳	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 計量経済学／統計 II
 - 大学院： 統計分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類： 0人
 - 社会工学専攻： 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費 若手研究(B)「裾・境界バイアス問題のないノンパラメトリック直接型密度比推定量とその応用について」(代表).
- ◆ 著書・論文等：
 - Kakizawa, Yoshihide and Igarashi, Gaku "Inverse gamma kernel density estimation for nonnegative data", *Journal of the Korean Statistical Society*, Vol.46, Issue 2, pp.194-207, June 2017.
- ◆ 学会発表等：
 - 2017年度統計関連学会連合大会, 南山大学, 2017年9月.
 - 研究集会「第19回ノンパラメトリック統計解析とベイズ統計」, 慶應義塾大学, 2018年3月.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 社会工学類1年クラス担任, 社会工学類・専攻広報委員会, 社会工学類計算機仕様書策定委員会

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：

氏名	生稲史彦	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会システム・マネジメント		
専攻 (博士前期課程)	社会システム工学		
担当学類	社会工学類		
研究分野	経営学、技術経営(MOT)、イノベーション		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 経営学、マネジメント実習
大学院 技術経営、ビジネス戦略—理論と実践
- ◆ 指導学生数：
学類 5名
大学院 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金（基盤研究(B)）「京都ものづくり企業のソーシャルキャピタルとブランド生成の調査分析」（課題番号：26285093）（研究分担者）
平成 29 年度文化庁メディア芸術連携促進事業連携共同事業「ゲーム産業生成におけるイノベーションの分野横断的なオーラル・ヒストリー事業」（研究分担者）
グローバルビジネスリサーチセンター コンテンツ産業研究会幹事
- ◆ 著書・論文等：
生稲史彦(2017)「書評：『ジェネラル・パーパス・テクノロジーのイノベーション—半導体レーザーの技術進化の国際比較』」『企業家フォーラム』14 巻, 106-108.
- ◆ 学会発表等：
生稲史彦(2018)「経営学における進化概念」第 22 回進化経済学会九州大会年次大会「進化経済学とはなにか? を若手で考える(実践編)」セッション, 2018 年 3 月 29 日. 九州大学箱崎キャンパス.
- ◆ その他：
生稲史彦「「研究するとは?」を考える素材【私のこの一冊】」『一橋 ビジネス レビュー』一橋大学イノベーション研究センター, 65 巻, 3 号, pp.195, 2017 年 12 月.
生稲史彦, 井上 明人, 嶋原 盛之, 山口 翔太郎 (2018)「仁井谷正充第 1 回インタビュー前半：数学とコンピュータ」(WP#18-08). 一橋大学イノベーション研究センター.

生稲史彦, 井上 明人, 嶋原 盛之, 山口 翔太郎 (2018) 「仁井谷正充第 1 回インタビュー後半: コンパイルの創業」(WP#18-09). 一橋大学イノベーション研究センター.

生稲史彦, 嶋原盛之, 山口 翔太郎 (2018) 「岩谷徹第 5 回インタビュー前半: エンターテインメント企業としてのナムコ」(WP#18-12). 一橋大学イノベーション研究センター.

生稲史彦, 嶋原盛之, 山口 翔太郎 (2018) 「岩谷徹第 5 回インタビュー後半: ゲーム開発から大学教育へ」(WP#18-13). 一橋大学イノベーション研究センター.

生稲史彦, 嶋原盛之, 山口 翔太郎 (2018) 「石井ぜんじ第 1 回インタビュー前半: ゲームの魅力を発信する仕事」(WP#18-14). 一橋大学イノベーション研究センター.

生稲史彦, 嶋原盛之, 山口 翔太郎 (2018) 「石井ぜんじ第 1 回インタビュー後半: ゲーム産業におけるゲーム雑誌の役割」(WP#18-15). 一橋大学イノベーション研究センター.

江藤学, 生稲史彦, 金東勲, 木村めぐみ, 中村彰憲, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 1 回インタビュー前半: 中学時代までの生い立ち」(WP#18-22). 一橋大学イノベーション研究センター.

江藤学, 生稲史彦, 金東勲, 木村めぐみ, 中村彰憲, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 1 回インタビュー後半: 高校時代からパシフィック工業への入社まで」(WP#18-23). 一橋大学イノベーション研究センター.

江藤学, 生稲史彦, 金東勲, 木村めぐみ, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 2 回インタビュー前半: 「スカイファイター」の開発」(WP#18-24). 一橋大学イノベーション研究センター.

江藤学, 生稲史彦, 金東勲, 木村めぐみ, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 2 回インタビュー後半: メカゲームからビデオゲームへ」(WP#18-25). 一橋大学イノベーション研究センター.

福田一史, 生稲史彦, 井上 明人, 金東勲, 木村めぐみ, 中村彰憲, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 3 回インタビュー前半: 「スペースインベーダー」開発の経緯」(WP#18-26). 一橋大学イノベーション研究センター.

福田一史, 生稲史彦, 井上明人, 金東勲, 木村めぐみ, 中村彰憲, 嶋原盛之, 清水洋, 山口翔太郎 (2018) 「西角友宏第 3 回インタビュー後半: 「スペースインベーダー」のゲームデザインとマーケティング」(WP#18-27). 一橋大学イノベーション研究センター.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:
AC 入試委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):
社会工学類 3 年生クラス担任
社会システム情報研究科 論文委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

特定非営利活動法人組織学会 総務委員 (2013年9月～2017年8月)

公益財団法人大学基準協会 デジタルコンテンツ系専門職大学院認証評価委員会 評価委員・分科会委員 (2017年7月1日～)

特定非営利活動法人組織学会 広報委員 (2017年9月～)

同志社大学創造経済研究センター「創造産業の持続的発展に関する研究会」研究会メンバー (2014年度～2017年度)

東京大学 政策ビジョン研究センター「文化を基軸とした融合型新産業創出研究ユニット」研究会メンバー (2017年度～)

九州大学ロバート・ファン/アントレプレナーシップ・センター 非常勤講師 (イノベーション・マネジメント)

東京大学大学院経済学研究科 非常勤講師 (ICT マネジメント II)

県立広島大学 大学院経営管理研究科 非常勤講師 (イノベーション戦略)

氏名	石井健一	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	消費者行動論・社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：社会調査実習、文化行動論
大学院：消費者行動論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人 /社会工学学位(前期) 5人 (後期) 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
SNS 利用の心理的効果に関する研究および国家ブランディングに関する最近数年の研究を著書・論文にするため執筆をおこなった。
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ A Comparative Study between Japanese, US, Taiwanese and Chinese Social Networking Site Users: Self-Disclosure and Network Homogeneity, Ana Serrano Telleria (Editor) Between the Public and Private in Mobile Communication (Routledge Studies in New Media and Cyberculture) Routledge pp.156-174
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
理工学群総合政策室室員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
学群運営委員、専攻運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
日中社会学会理事(2016年6月より)

氏名	糸井川 栄一	職名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
担当学類	専 社会工学類	兼	なし
研究分野	都市災害リスク管理、地区安全計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分 II／都市計画実習／都市防災計画
大学院前期課程 都市リスク管理特論／都市リスク分析演習／リスク工学概論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／リスク工学専攻前期課程 9人／リスク工学専攻後期課程 0人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
・市街地火災時の安全な避難を目指した住民の初期消火活動効果とその限界に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
(1)齋藤貴史, 糸井川栄一, 地区防災計画の策定が地域コミュニティの防災力に対する成果と課題に関する研究, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.31, 2017.11, pp.97-106
(2)松賀信行, 糸井川栄一, 防災教育施設での児童の防災体験学習が児童とその保護者に与える効果に関する研究—本所防災館を対象として—, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.31, 2017.11, pp.125-135
(3)野貴泰, 糸井川栄一, 犯罪多発地点の予測に基づく防犯パトロール経路に関する提案, 地域安全学会論文集, 地域安全学会, No.31, 2017.11, pp.194-204
- ◆ 学会発表等：※国内外学会発表などの実績
(1)鈴木 雄太, 糸井川 栄一, 大震火災時における出火時刻分布を考慮した避難リスク評価, 地域安全学会梗概集, No.40, 2017.6, pp.15-18
(2)岡本弘暉, 糸井川栄一, 夜間の津波避難に対する住民の意識及び避難行動意図に関する研究—茨城県神栖市を対象として—, 地域安全学会東日本大震災特別論文集, 地域安全学会, No.6, pp.63-68
(3)田中皓介, 梅本通孝, 糸井川栄一, 茨城県常総市を対象としたヒアリング調査に基づく水害時の住民の行動意思決定要因の探索, 地域安全学会梗概集, No.41, 2017.11, pp.71-74
(4)濱中理紗子, 梅本通孝, 糸井川栄一, 鈴木雄太, 防災カードゲーム「アレがない! どう

する？」の開発とその効果の計測, 地域安全学会梗概集, No.41, 2017.11, pp.79-82

(5) Yuta SUZUKI and Eiichi ITOIGAWA, Stochastic Evaluation Model of Inhabitants' Evacuation Risk in Real Time Response under Post-Earthquake Fires, Tsukuba Global Science Week, Tsukuba International Congress Center, September, 2017.

(6) Yuta SUZUKI and Eiichi ITOIGAWA, Safety Evaluation Model of Evacuation Guiding in Real Time Response under Post-Earthquake Fires, 4ACUDR, RIDES of Tohoku University, November 2017.

- ◆ その他： ※受賞、特許等などの実績なし

3. 学内運営

- ◆ 系や全学組織等の業務への貢献：

本部全学リスク管理室員／本部 50 年史編纂専門委員会委員／システム情報系コンプライアンス推進委員会委員長／システム情報系施設・安全衛生管理委員会委員／システム情報工学研究科早期修了プログラム実施委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 4 年生クラス担任

リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会委員／GP アクション委員会委員／大塚キャンパス対策委員会委員長／教育企画委員会委員長／施設委員会委員長／カリキュラム委員会委員／将来戦略 WG コアメンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動（役員/委員、論文査読等）、学外から委嘱された委員、兼業など.

(1) 地域安全学会 理事／会長／査読

(2) 日本建築学会 広域避難小委員会委員／査読

(3) 日本都市計画学会 査読

(4) 国土交通省 「建築防火基準委員会」委員(2011～)

(5) 独立行政法人建築研究所 客員研究員 (2008～)

(6) 東京都 「避難場所調査検討委員会」委員、「第 8 回地域危険度測定調査委員会」委員

(7) 東京消防庁 「第 23 期火災予防審議会」委員・地震防災部会長

(8) 茨城県 「茨城県地震被害想定の見直しに係る減災対策検討会議(仮称)委員」副会長

(9) 神栖市 「神栖市総合計画審議会」委員長

(10) 鹿嶋市 「鹿嶋市学校防災教育推進委員会」委員長(2012～)

(11) (一社)地域安全学会 「文部科学省平成 28 年度リスクコミュニケーションのモデル形成事業に係る特別委員会」委員 (2016～)

(12) (一社)日本都市計画コンサルタント協会 「認定都市プランナー口頭審査試験官」

- (13) (一社)日本建築防災協会 「市街地防火規定に関する調査検討部会」 委員
- (14) (株)パスコ 「地震時の火災避難における地域リスク評価手法に関する検討委員会」
委員
- (15) 応用地質(株) 「東京消防庁受託業務『飛び火火災評価手法に関する調査研究委託』
委員会」 委員
- (16) (株)イオタ 東京都受託事業 「東京防災学習セミナー」 講座 「木密地域の防災対策」
講師

氏名	イリチュ（佐藤）美佳	職名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	統計科学, データマイニング		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理統計学／統計 I/ 卒業研究

大学院前期課程 データマイニング/リスク工学前期特別演習 I/リスク工学前期特別演習 II/リスク工学前期特別研究 I/リスク工学前期特別研究 II/リスク工学グループ演習（分担）/社会システム工学特別演習 I（分担）/社会システム工学特別演習 II/社会システム工学特別研究/特定課題研究（分担）

大学院後期課程 リスク工学後期特別演習（分担）/リスク工学後期特別研究

◆ 指導学生数：

社会工学類 6人 / リスク工学専攻博士前期課程 5人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C))

「高次計量による高次元小標本型ビックデータ解析とその社会的応用」（代表）

◆ 著書・論文等：

(1) M. Sato-Ilic, Knowledge-based Comparable Predicted Values in Regression Analysis, Procedia Computer Science, Elsevier, Vol. 114, pp. 216-223, 2017 (1st Runner-Up Theoretical Paper Award 受賞)

(2) M. Sato-Ilic, P. Ilic, Cluster Identification and Scaling Methods based on Comparative Quantification for Dissimilarity Data, The 2017 IEEE International Conference on Fuzzy Systems, 2017

(3) イリチュ美佳、高木英明、分かるために分けるクラスター分析（第3章）、サービスサイエンスの事記—データサイエンスと数理科学の融合に向けて—、高木英明（編著）、筑波大学出版会、2017

◆ 学会発表等：

基調講演：

M. Sato-Ilic, Modeling New Complex Data Structures, Complex Adaptive Systems 2017, October 30, 2017, Chicago (USA)

招待研究発表：

- (1) M. Sato-Ilic, A Fuzzy Clustering based Data Fusion Method, 11th International Conference on Computational and Financial Econometrics and 10th International Conference of the ERCIM Working Group on Computational and Methodological Statistics, CFE-CMStatistics 2017, pp. 23, 2017, London (UK)
- (2) M. Sato-Ilic, Cluster-Scaled Forecasting Method for High-Dimension Low-Sample Size Data, The 6th Japanese-German Symposium on Classification, pp. 16, 2017, Tokyo (Japan)

一般研究発表：

- (1) M. Sato-Ilic, Asymmetric Clustering Methods based on Orthogonal Projector to the Intersection of Subspaces, 2017 年度統計関連学会連合大会講演報告集, pp. 304, 2017
- (2) 矢吹健二、佐藤美佳、3元マルチソースデータに対する同時ファジィクラスタリング手法、第33回ファジィシステムシンポジウム講演論文集、pp. 441-446、2017

◆ その他：

1st Runner-Up Theoretical Paper Award 受賞, M. Sato-Ilic, Knowledge-based Comparable Predicted Values in Regression Analysis, Complex Adaptive Systems 2017, November 1, 2017, Chicago (USA)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- ・ 学生生活支援室員
- ・ 研究科内部進学制度入学試験書面審査員
- ・ 研究者倫理検討委員会委員
- ・ ダイバーシティ・アクセシビリティ担当委員

◆ 専攻・学群・学類組織の業務への貢献（委員会等）：

- ・ リスク工学専攻達成度評価実施委員会委員長

- ・専攻長賞表彰選考委員会委員長
- ・リスク工学専攻 M2 担当教員
- ・リスク・レジリエンス工学学位プログラム準備ワーキンググループメンバー

4. 学外の社会貢献

- ・独立行政法人 統計センター 理事（研究担当）
- ・公認会計士試験出題委員（金融庁）

海外業務：

- ・ Editor in Chief of International Journal of Knowledge Engineering and Soft Data Paradigms, Published by Inderscience Publishers, UK
- ・ Vice Chair of the Fuzzy Systems Technical Committee (FSTC) of the IEEE Computational Intelligence Society
- ・ Publicity & Public Relations Chair, IEEE WCCI2018
- ・ Associate Editor of the IEEE Transaction on Fuzzy Systems (TFS), USA
- ・ Regional Editor of International Journal on Intelligent Decision Technologies, IOS Press, Netherlands
- ・ Associate Editor of Neurocomputing, Elsevier, Netherlands
- ・ Associate Editor of Information Sciences, Elsevier, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Source Code for Biology and Medicine, BioMed Central, UK
- ・ Member of Editorial Board for the International Journal of Hybrid Intelligent Systems, IOS press, Netherlands
- ・ Member of Editorial Board for Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics (JACIII)
- ・ IEEE Senior Member
- ・ Member of IEEE Women in Computational Intelligence Committee
- ・ Board Member of International Society of Management Engineers

その他：

- ・ 日本知能情報ファジィ学会評議員
- ・ 日本分類学会運営委員・幹事（渉外担当）

氏名	上市 秀雄	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	意思決定、認知心理学、社会心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 経済行動論／社会経済システム情報演習
 - 大学院 消費者心理分析
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2名
 - 社会工学専攻博士前期課程 3名
 - 研究生 2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 感情、特に後悔が意思決定に及ぼす影響の検討、裁判員制度参加意向を規定する要因の分析、更正支援活動を促進する要因の解明、環境保全行動、ストレスなど
 - 科研費補助金
 - 挑戦的萌芽（研究代表者）
 - リアルタイム場面におけるサービス・インタラクション理論の構築と実証
 - 基盤研究（C）（研究分担者）
 - 慢性ストレスが生体リズムに影響を与えるまでのタイムラグの検討
- ◆ 学会発表等：
 1. 上市秀雄・渡辺涼介・織田弥生・岡田幸彦（2017）.
 - 販売員の対応および接客タイミングが販売員・店舗評価や購買意図に及ぼす影響
 - 日本心理学会第81回大会発表論文集. 2B-060
 2. 讃井知・上市秀雄・楠見孝（2017）.
 - 一般市民の更生支援に対する認識：性別、未婚・既婚、子供の有無に着目して
 - 日本心理学会第81回大会発表論文集. 2C-007.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 大学院入試実施委員、大学院カリキュラム委員、卒論梗概集委員長、学類4年クラス担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
- ◆ 学術論文・国際会議査読
 - 心理学研究
 - 実験社会心理学研究

氏名	牛島 光一	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	教育の経済学、健康の経済学、開発経済学、応用計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：統計Ⅱ、都市経済学、地域科学演習
大学院：公共政策論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類：1名
社会工学専攻：(実質指導) 博士2名、修士2名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - (1) 科学研究費 若手研究 (B) 「公共政策が子供への健康投資行動に与える影響に関する実証研究」(代表)
 - (2) 科学研究費 基盤研究 (B) 「子どもの人的資本の蓄積メカニズムに関する実証研究－足立区の挑戦から学ぶこと－」(分担者)
- ◆ 著書・論文等：

(査読有り論文)

 - (1) The Impact of a High-speed Railway on Residential Land Prices (with Hiroshi KANASUGI), *Papers in Regional Science*, DOI: 10.1111/pirs.12293. *forthcoming* (online published (2017): <http://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/pirs.12293/full>)
 - (2) 東京オリンピック・パラリンピックの開催決定で住宅地地価は上昇するか？(香川 涼亮、小倉利仁、太田充共著), 『都市住宅学』, 97号, pp.126-135, 2017.
- ◆ 学会発表等：
 - (1) 「近代日本における鉄道の敷設が財の市場間の価格差をどの程度収束させたか」, 第12回「実証的なモラル・サイエンス」研究集会, 於 阪南大学, 2018
近代日本における鉄道の敷設が財の市場間の価格差をどの程度収束させたか
年3月5日.
 - (2) 「人々はディーゼル車排出ガス規制にどれくらいの便益を感じたか?」, 課題

設定型 WS (ミクロ・マクロ経済分析：理論と実証)，於 名古屋大学，2017
年 4 月 19 日．

- ◆ その他：
 - (サークル顧問)
 - FreeEducation (教育ボランティアサークル)

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - 数学プレースメントテスト委員
 - 2年生第都市計画主専攻クラス担任
 - 教職実践演習担当

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - 守谷市行政改革推進委員
 - 足立区との研究協力協定・職員派遣協定に基づく行政評価プロジェクト

氏名	梅本 通孝	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)			
専攻 (博士前期課程)			
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域の低頻度リスク対策		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類： 地域科学演習/都市計画事例講義および実習
 - 大学院： リスク工学基礎/都市リスク分析演習
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 0人/リスク工学専攻(前期) 4人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 災害対応体制に関するニュージーランドとわが国との比較研究
 - 河川氾濫水害時の住民の避難意思決定要因の構造分析
 - 中国の小学校教員の防災意識と児童への教育効果に関する研究
 - カードゲームを用いたワークショップによる家庭の防災対策促進に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - 梅本通孝：ニュージーランドにおける災害対応の体系とその特性，地域安全学会論文集，No.31, pp.37-47, 2017.11
 - Michitaka UMEMOTO, Analyses on Residents' Intentions to Take Prior Countermeasures against Liquefaction in Relatively High Risk Area, *Proceedings of The 4th Asian Conference on Urban Disaster Reduction*, A01, 2017.11.
 - 田中皓介, 梅本通孝, 糸井川栄一：茨城県常総市を対象としたヒアリング調査に基づく水害時の住民の行動意思決定要因探索，地域安全学会梗概集, No.41, pp.71-74, 2017.
 - 濱中理紗子, 梅本通孝, 糸井川栄一, 鈴木雄太：防災カードゲーム「アレがない！どうする？」の開発とその効果の計測，地域安全学会梗概集 No.41, pp.79-82, 2017.
- ◆ 学会発表等：
 - Michitaka UMEMOTO, Analyses on Residents' Intentions to Take Prior Countermeasures against Liquefaction in Relatively High Risk Area, *The 4th Asian Conference on Urban Disaster Reduction*, Sendai, Japan, 2017.11.
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - システム情報工学研究科長候補者意向調査管理委員会 副委員長
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 委員
 - リスク工学専攻 GP 達成度評価実施委員会 コアメンバー
 - リスク工学専攻 広報委員会 委員
 - リスク工学専攻 将来戦略構想検討 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動
 - 地域安全学会 理事
 - 日本建築学会防火委員会広域避難小委員会 委員
 - Journal of Disaster Research 誌 査読者
 - 地域安全学会論文集 査読者
 - Urban and Regional Planning Review 誌 査読者
 - 日本計画行政学会誌 査読者
 - 日本自然災害学会誌 査読者
 - 日本地震工学会論文集 査読者
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - 茨城県江戸崎地方衛生土木組合ごみ処理施設事業者選定委員会 委員
 - 茨城県稲敷市都市計画審議会 会長
 - 東京都東京防災セミナー 講師
- ◆ 講演等
 - 梅本通孝: 地域の危険を知るー地域ハザードマップの作成ー, 平成 29 年度東京防災学習セミナーコース C, 東大和市南街桜が丘地域防災協議会, 2018.1.27
 - 梅本通孝: 防災のとらえ方, 災害情報とのつき合い方ー海外の事例も踏まえてー, 第 22 回震災対策技術展横浜セミナー, 横浜市西区, 2018.2.8

氏名	大久保 正勝	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	マクロ経済学、計量経済学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類： マクロ経済学、マクロ計量分析、情報リテラシー演習
大学院： 資産価格理論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0人
社会工学専攻（前期）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「モデル不確実性回避度の計測と異質性の国際比較」
(研究代表者)
筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「マイクロ計量経済学的分析手法の開発と応用」
(研究代表者)
筑波大学システム情報系リサーチ・グループ「ビッグデータと地理空間情報を利用した我が国の産業・企業研究」(サポートメンバー)
- ◆ 著書・論文等：
Masakatsu Okubo, “Appendix for On the Computation of Detection Error Probabilities under Normality Assumptions,” mimeo.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学学群教職課程委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
大学院カリキュラム委員
大学院予算委員

学類カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
なし

氏 名	大澤 義明	職 名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市計画, 地域科学, 社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 微積分 I／都市解析／都市計画マスタープラン策定実習／都市計画事例講義および実習／つくばの景観を考える／都市・地域・環境を探る I, II, III／巨大地震による複合災害

大学院： 都市地域解析学／サービス工学特別講義IV／公共インフラ設計／エンパワーメント情報学プログラムシステムデザイン／エンパワーメント情報学プログラムアドバンスチュートリアル演習

◆ 指導学生数：社会工学類 3人／社会工学専攻（前期）9人／社会システム・マネジメント専攻 1人／社会工学専攻（後期）1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

[1]戦略的イノベーション創造プログラム・道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究, 科学技術振興機構. 研究開発責任者.

[2]まちなか再生事業に関する研究. 共同研究（津別町）. 研究代表者.

[3]高・大・官連携による常総市まちづくり提案. 共同研究（常総市）. 研究代表者.

[4]次世代社会システムとモビリティの新価値研究. 共同研究（トヨタ自動車）. 研究代表者.

◆ 著書・論文等：

[1] 高原勇, 安東弘泰, 大澤義明 (2017) : IoT 車両情報による実測燃費の地域特性分析—豊田市実証実験の気候と速度域別の実測燃費—, 環境共生, 30, pp. 65-72.

[2] 堀龍一, 小林隆史, 高原勇, 大澤義明 (2017) : 扇形内・扇形間における直線移動の距離とその応用, 都市計画論文集, 52, pp. 1335-1340.

[3] 長晃, 石井儀光, 高原勇, 大澤義明 (2017) : 円環内移動及び円環・円盤間移動の直線距離に関する解析的研究, 都市計画論文集, 52, pp. 676-681.

◆ 学会発表等：

- [1]松林道雄, 野口宇宙, 小山田圭佑, 村山透, 安東弘泰, 高原勇, 大澤義明 (2017) : ブロック玩具によるプロジェクションマッピング模型を用いた地域設計の検討. 第40回情報・システム・利用・技術シンポジウム2017, pp. 307-310.
- [2]長晃, 野口宇宙, 石井儀光, 大澤義明 (2017) : 円盤地域の環状分割における通過交通量とその応用. ホレシヨンス・リサーチ学会2017年秋季研究発表会, pp. 64-65.
- [3]若林建吾, 長谷川大輔, 馬東来, 鈴木勉, 大澤義明 (2017) : 歩行錯綜対策による水害避難効率改善の評価. ホレシヨンス・リサーチ学会2017年秋季研究発表会, pp. 178-179.
- [4]巖先鏞, 河野裕美, 四衢深, 山村拓巳, 山本幸子, 鈴木勉, 大澤義明 (2017) : カルテ診断手法を用いた茨城県商店街の実態把握と活性化計画立案. 日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ, pp. 399-402.
- [5]長晃, 大澤義明 (2018) : ライドシェア確率と乗り換え効果. ホレシヨンス・リサーチ学会2018年春季研究発表会, pp. 96-97.
- [6]竹中太基, 仲村健, 小林隆史, 大澤義明 (2018) : 空間相関によるレーダーチャート面積の不安性. ホレシヨンス・リサーチ学会2018年春季研究発表会, pp. 256-257.
- [7]大澤義明, 飯田マリ, 鶴飼孝盛, 小林隆史 (2018) : 施設アクセス順序距離の相関とレーダーチャート面積の変動. ホレシヨンス・リサーチ学会2018年春季研究発表会, pp. 258-259.
- [8]大澤義明, 石井儀光 (2018) : 凸扇形における Sylvester の4点問題. ホレシヨンス・リサーチ学会2018年春季研究発表会, pp. 232-233.
- [9]四衢深, 川口明子, 石井儀光, 大澤義明 (2018) : Weber 問題端点解発生確率とその応用. ホレシヨンス・リサーチ学会2018年春季研究発表会, pp. 324-235.

◆ その他：

講演

- [1]産業競争力懇談会主催, COCN フォーラム2017「産業界が推進する Society 5.0, 地域未来の社会基盤」(2017/7/5, 東京:サンケイプラザ)
- [2]第30回茨城県水際線シンポジウム「豊かな牛久沼を活かして地域の未来をつくろう」(2017年10月31日, 龍ヶ崎:龍ヶ崎文化会館)
- [3]つくばロボットフォーラム2018「Society 5.0とまちづくり」(2018年1月31日, 東京:イイノホール)
- [4]関彰商事創業110周年記念, 地方が輝く時代に向けて「地方創生」への提言(2018年2月6日, つくば:つくば国際会議場)

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：

社会工学域予算委員長, 社会工学類予算委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

- [1] 応用地域学会・副会長
- [2] 応用地域学研究・編集長（応用地域学会）
- [3] 日本都市計画学会・会長アドバイザー（日本都市計画学会）
- [4] 日本オペレーションズ・リサーチ学会・代議員（日本オペレーションズ・リサーチ学会）
- [5] 土木学会・技術推進機構・上席研究員（土木学会）
- [6] 土木学会・アセットマネジメントシステム実証のための実践研究委員会・委員（土木学会）

◆ 自治体等

- [1] つくば市建築審査会・会長（つくば市）
- [2] 土浦市中心市街地活性化協議会・副委員長（土浦市）
- [3] 石岡市景観調査委員会・委員長（石岡市）
- [4] 水戸市都市景観専門委員会・委員（水戸市）
- [5] 神栖市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議・委員（神栖市）
- [6] 土浦市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長（土浦市）
- [7] 潮来市まち・ひと・しごと創生有識者会議・委員長（潮来市）
- [8] つくば市明るいまちづくり協議会・会長（つくば市）
- [9] 取手市社会資本整備総合交付金評価委員会・委員長（取手市）
- [10] 土浦港周辺広域交流拠点基本計画策定委員会・委員長（土浦市）
- [11] 土浦市総合企画審議会・会長（土浦市）
- [12] 重要文化財旧茨城県立土浦中学校本館運営検討委員会・委員長（土浦第一高等学校、）
- [13] 茗溪会・理事（一般社団法人茗溪会）
- [14] 中川育英会・評議員（公益財団法人中川育英会）
- [15] つくば市生活安全協議会・会長（つくば市）
- [16] 取手市西口A街区市街地再開発事業協力者選定委員会・委員長（取手市）
- [17] 取手市立地適正化計画策定委員会・委員長（取手市）
- [18] 潮来市振興計画審議会・会長（潮来市）

◆ 高大連携まちづくりワークショップ事業

- [1] 水海道第一高等学校，水海道二高等学校，石下紫峰高等学校（2017年8月）
- [2] つくば秀英高等学校（2017年8月）
- [3] 津別高等学校（2017年8月）
- [4] 竜ヶ崎第一高等学校（2017年9月）
- [5] 天塩高等学校（2018年2月）

氏名	太田 充	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	都市経済学, 地域科学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市経済学／地域科学演習／プログラミング実習
大学院 地域科学
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 1人／社会工学専攻 9人／社会システム・マネジメント専攻 1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
無し
- ◆ 著書・論文等：
「東京オリンピック・パラリンピックの開催決定で住宅地地価は上昇するか?」, 香川涼亮; 小倉利仁; 太田, 充; 牛島光一, 『都市住宅学』 97/pp.126-135. (査読付き論文)
「大気環境が地価に与える影響—東京都特別区の地価データを用いた検証—」, 姜 哲敏; 太田, 充; 牛島光一, 『応用地域学研究』 20/pp.67-77. (査読付き論文)
- ◆ 学会発表等：
「都市空間形状と企業の集積関数に関する一考察」, 第 31 回 ARSC 研究発表大会, 2017-11-25--2017-11-26, 第 31 回 ARSC 研究発表大会, 東京大学
“Telecommuting and Urban Spatial Structure in Metropolitan Areas”, 64th North American Meetings of the Regional Science Association International, 2017-11-08 - 2017-11-11, Vancouver, カナダ
「測度上のポテンシャルゲームとそのダイナミクス」, Polycy Modeling Workshop, 2017-09-02, 政策研究大学院大学
“Telecommuting and Urban Spatial Structure in Metropolitan Areas”, 2017 年度日本経済学会春季大会, 2017-06-24
- ◆ その他：
無し

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
附属図書館運営委員会委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学生担当教員、論文委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
都市住宅学会理事、都市住宅学会総務企画委員会副委員長
応用地域学会運営委員会委員

氏名	岡田 幸彦	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	会計学、サービス工学、社会工学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類：社会工学実習/会計学概論/マネジメント実習/社工英語

大学院：サービス会計（サービス工学学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講1（スポーツウエルネス学位プログラム）/課題解決型データ分析論特講2（スポーツウエルネス学位プログラム）

学外：京都大学大学院経営管理研究科 サービス（無形資産）会計/土浦第一高校 SGH 社会工学セミナー、産業経理協会 サービス原価会計講座など

◆ 指導学生数：

社会工学類 6 人/サービス工学学位プログラム（修士）17 人/社会工学学位プログラム（博士）4 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

・科研費（若手 B）「わが国サービス企業における原価計算・原価管理の成功モデルに関する実証的研究」（研究代表者、2014～2017 年度、総額 377 万円）

・2017 年度 NEDO 委託事業「物流サービスの労働環境改善と付加価値向上のためのサービス工学×AI に関する研究開発」（筑波大学拠点代表者・岡田幸彦、2,000 万円/年）

・2017 年度 AMED 委託事業「自治体における保健指導の施策力に応じた最適な保健指導モデルを提示できる AI の開発研究」（副代表・岡田幸彦、1,052 万円/年）

◆ 著書・論文等：

・岡田幸彦・生方裕一(2017)「サービス原価企画の実態分析の追試」『会計』。

・岡田幸彦・野間幹晴(2017)「フィンテックによる会計情報革命」『企業会計』。

・森光高大・片岡洋人・岡田幸彦(2018)「超総原価計算制度の発見とその理論的意義」『原価計算研究』（採択・採録決定）。

・鳥海航・生方裕一・久野譜也・岡田幸彦(2018)「研究ノート 地域健康政策へのベイジアンネットワークの応用」『統計数理』（採択・採録決定）。

・その他、国内学会発表論文 8 本（うち査読有 6 本、査読無フルペーパー 2 本）

◆ 学会発表等：

- ・スポーツによる地域活性と人材育成への挑戦、松田裕雄；岡田幸彦、茨城体育学会シンポジウム/2018-03
 - ・後付け容易な環境認識型屋内測位ビーコンの棚環境における推定精度比較、進林昂太；荒井大河；青木拓也；善甫啓一；岡田幸彦、サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・安全運転教習サービスにおける U-index の応用研究、萩原拓也；小川努；岡田幸彦 サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・企業向けの安全運転研修を対象としたサービス品質の研究、石井聡一；小川努；岡田幸彦、サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・小売店顧客の購買意欲による導線説明の取組み、吉澤貴拓；進林昂太；善甫啓一；岡田幸彦、サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・物流サービスにおける顧客の特性に注目した顧客参加の先行要因の検討、村江優奈；ホーバック；原辰徳；岡田幸彦、サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・Evidence-based health policy のための課題発見エンジンの研究開発、佐々木健佑；穴澤純也；塚尾晶子；千々木祥子；久野譜也；岡田幸彦、サービス学会第6回国内大会/2018-03
 - ・地域健康政策へのベイジアンネットワークの応用、岡田幸彦、C-AIR ワークショップ/2018-02
 - ・AI・データ戦略分科会、岡田幸彦、平成29年度SWC協議会中間報告会/2017-12
 - ・健幸政策におけるAIプロジェクト、岡田幸彦、日経地方創生フォーラム/2017-12
 - ・浅石梨沙「顧客志向における価格決定についての考察」に対する討論、岡田幸彦、リサーチセミナー（日本原価計算研究学会・日本管理会計学会）/2017-10
 - ・人工知能の中身は数学！？、岡田幸彦、第22回JST数学キャラバン/2017-10
 - ・わが国サービス産業における会計情報システムが会計プロセスと企業パフォーマンスに与える影響—会計情報システムの類型による比較—、山矢和輝；岡田幸彦、日本会計研究学会第76回全国大会/2017-09
 - ・販売員の対応および接客タイミングが販売員・店舗評価や購買意図に及ぼす影響、上市秀雄；渡辺涼介；織田弥生；岡田幸彦、日本心理学会第81回大会/2017-09
 - ・超総原価計算実務の発見とその理論的意義、森光高大；片岡洋人；岡田幸彦、日本原価計算研究学会第43回全国大会/2017-09
 - ・オンラインニュースサイトにおけるネットワーク中心性尺度の活用、須田雄士；山中健雄；安東弘泰；岡田幸彦、日本応用数理学会2017年度年会/2017-09
 - ・AI・データ戦略分科会、岡田幸彦、平成29年度SWC協議会総会/2017-06
- ◆ その他： なし

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

理工学群広報委員会 委員
人工知能科学センター運営委員会 委員
筑波大学サービス工学ビッグデータ CoE コーディネーター
卓越大学院検討委員会 委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類広報委員会 委員長
大学院社会工学専攻広報委員会 委員長
S F T 検討委員会 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ・統計数理研究所 客員准教授（無報酬）
 - ・インダストリアル・バリューチェーン・イニシアティブ 発起人・学会会員（無報酬）
 - ・土浦第一高校スーパー・グローバル・ハイスクール 筑波大学代表（無報酬、セミナー講演等については規定に基づく報酬有）
 - ・公益財団法人清国奨学会 非常勤理事（工学系学生への奨学事業、無報酬）
 - ・水戸信用金庫 非常勤理事（報酬有、月 10.8 万円（旅費等込））
 - ・文部科学省科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター 専門調査員（無報酬）
 - ・日本スポーツ振興センター アンチ・ドーピングに係るインテリジェンス活動推進会議委員（無報酬）
 - ・常総市 財務アドバイザー（無報酬）
 - ・つくば市指定管理者選定委員会 委員（報酬有）

氏名	岡本 直久	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 専任 (社会工学学位プログラム、サービス工学学位プログラム担当)		
担当学類	社会工学類		
研究分野	交通、観光、社会資本、プロジェクト評価、港湾・物流		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 交通運輸政策／都市計画マスタープラン策定実習／情報リテラシー・演習／社会基盤と国土

大学院 社会基盤計画学／観光の科学

◆ 指導学生数：

社会工学類 4人

社会工学専攻(博士前期課程・社会工学学位プログラム) 8人

社会工学専攻(博士後期課程・社会工学学位プログラム) 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ 科学研究費 基盤研究(B) 複数の観光交通データの融合的活用方法の開発と政策評価への展開(研究代表者)
- ・ 委託研究費 戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究 (研究分担者)
- ・ 戦略的イノベーション創造プログラム:道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究・提案するアセットマネジメントシステムの地方自治体への実装研究(科学技術振興機構、研究分担者)

◆ 著書・論文等：

- ・ GPS ログデータを用いた訪日外国人旅行者の訪問パターンの分析手法の開発:運輸政策研究, Vol.20, pp.20-29, 共著(古屋秀樹, 岡本直久, 野津直樹), 2017年, https://doi.org/10.24639/tpsr.20.0_020
- ・ 英国を事例とした我が国の空港運営政策に関する一考察:交通学研究, 第61号, pp.141~148, 共著(岡本直久, 佐藤慧一), 2018年

◆ 学会発表等：

- ・ Promote Inbound Tourism in Surrounding Destinations of Mega City: Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 11, 共著 (Takeshi KURIHARA, Satoshi WATANABE, Asaki YANASE, Naohisa OKAMOTO), 2017

- ・ Sustainability of gas stations: consideration of operational profitability and demand: Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 11, 共著 (Michimasa OHYAMA, Haruo ISHIDA, Naohisa OKAMOTO), 2017
- ・ Characteristic Comparison of Tourist Areas Using the Statistical Information: Proceedings of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol. 11, 共著(Atsushi TANAKA, Naohisa OKAMOTO, Toshihiro SUZUKI, Reiko ASANO, Yoji SHIRAKAWA), 2017

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - 学群入学試験実施委員会委員
 - 日越大学 公共政策プログラム幹事校幹事
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - 社会工学専攻 専攻入試実施委員会委員, FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
 - ・ 港湾局関係公共事業評価手法研究委員会：国土交通省港湾局：委員
 - ・ コンプライアンス・アドバイザー委員会：国土交通省関東地方整備局：委員
 - ・ 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会 第一部会 委員
 - ・ 茨城県移動性・安全性向上委員会：国土交通省関東地方整備局：委員長
 - ・ 茨城県公共交通活性化会議：茨城県：代表幹事
 - ・ 茨城県公共事業再評価委員会：茨城県：委員
 - ・ 茨城県茨城県地方港湾審議会：茨城県：副会長
 - ・ 土浦市公共交通活性化協議会：土浦市：会長
 - ・ 牛久市地域公共交通会議：牛久市：副会長
 - ・ 下妻市地域公共交通会議：下妻市：副会長
 - ・ 取手市都市計画審議会：取手市：委員
 - ・ 筑西市「道の駅」整備推進協議会：筑西市：会長
 - ・ 潮来市地域公共交通活性化協議会：潮来市：委員
 - ・ 佐野市専門委員
 - ・ 越谷市道の駅有識者懇談会 委員長
 - ・ 東日本高速道路株式会社 茨城地域技術懇談会 委員
 - ・ Eastern Asia Society for Transportation Studies：Secretary General

氏名	奥島 真一郎	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	国際総合学類 (専任)、社会工学類 (兼担)		
研究分野	環境経済学、エネルギー経済学、政策分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 環境政策論 (国際総合学類開講社会工学類共通) / 国際学概論 V (国際総合学類必修科目) / 総合科目 II (国際総合学類) / 国際学ゼミナール I (国際総合学類) / 独立論文 (国際総合学類) / 国際学ゼミナール II (国際総合学類) / 卒業論文 (国際総合学類) / 都市計画実習 (社会工学類開講国際総合学類共通)

大学院 公共政策論 (社会工学専攻)

◆ 指導学生数：

国際総合学類 10 人/社会工学専攻 2 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科研費基盤研究 (C) (代表)

ニッセイ財団環境問題研究助成 (代表)

◆ 著書・論文等：

“Gauging Energy Poverty: A Multidimensional Approach” (単著) *Energy*, 137, October 2017, pp. 1159-1166.

「エネルギー貧困」・「エネルギー脆弱性」・「エネルギー正義」：日本における現状と課題 (単著) 『科学』、Vol. 87、No. 11、岩波書店、2017 年 11 月、pp. 1019-1027.

「エネルギー正義」について (特集扉) (単著) 『科学』、Vol. 87、No. 11、岩波書店、2017 年 11 月、p. 1009.

◆ 学会発表等：

“Motivational Aspects of Energy Transitions in Japan: Some Empirical Findings” (共同発表) The 15th European Conference of the International Association for Energy Economics, Hofburg Congress Center, Vienna, Austria, September 6, 2017.

“Energy Poverty in Japan: A Multidimensional Approach” (招待講演) International Conference: Governance for Sustainable Energy Transitions: The Perspectives of the Asian-Pacific Region, Asian Energy Studies Center, Hong Kong Baptist University, Hong Kong, July 17, 2017.

“A Study of Multidimensional Energy Poverty Measurement” The 1st International Conference on Energy Research and Social Science, Meliá Sitges Hotel Congress Centre, Sitges, Spain, April 2, 2017.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - 国際総合学類三年生クラス担任
 - 国際総合学類運営委員
 - 国際総合学類カリキュラム委員
 - 国際総合学類シス情 TA 担当委員
 - 国際総合学類総合科目担当委員 (委員長)
 - 大学院運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動 :
 - Research Fellow, Asian Energy Studies Centre, Hong Kong Baptist University
 - 日本政策学生会議 (ISFJ) 論文審査員

氏名	甲斐田直子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	環境経済学、環境心理学、環境配慮行動		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 都市環境評価論／都市計画実習
 - 大学院 環境政策概論／Introduction to Environmental Policy
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2名
 - 社会工学専攻 2名
 - 環境科学専攻 7名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 科学研究費（若手研究A）「価値観に根ざした環境配慮行動の提案：東洋・西洋社会における横断・縦断研究」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
 - Kaida, K., & Kaida, N. (2017). Wake up for the environment: An association between sleepiness and pro-environmental behavior. *Personality and Individual Differences*, 104, 12-17.
 - Pham, T.D., Yoshino, K., & Kaida, N. (2018). Monitoring mangrove forest changes in Cat Ba Biosphere Reserve using ALOS PALSAR imagery and a GIS-Based support vector machine algorithm. In: Tien Bui, D., Ngoc D.A., Bui, H.B., & Hoang, N.D. (eds) *Advances and applications in geospatial technology and earth Resources*. GTER 2017. Springer, Cham
- ◆ 学会発表等：
 - Kaida, N., & K. Kaida (2017). Feel positive, and go for the next round of pro-environmental behavior: Testing the positive spiral associations using Japanese panel data, Fifth World Congress on Positive Psychology, June 2017, Montreal.

Kabango, A.N., & Kaida, N. (2017). Economic valuation of ecosystem services in Mulanje Mountain Forest Reserve, Malawi: An application of willingness to pay money and time, ESP9 Ecosystem Services Partnership World Conference, December 2017, Shenzhen.

Pham, T.D., Yoshino, K., & Kaida, N. (2017). Valuing mangrove ecosystem services using contingent valuation method in the context of climate change: A case study of Cat Ba Biosphere Reserve, Vietnam, ESP9 Ecosystem Services Partnership World Conference, December 2017, Shenzhen.

Otsuka, Y., Kaida, N., & Kaida, K. (2017). Low performance of repayment and kindness enhances altruistic behaviors in Japanese workers, 6th Conference Work Organization & Psychosocial Factors, August 2017, Mexico City.

甲斐田直子 (2017). 環境配慮行動の波及性：パネルデータによる実証分析，環境科学学会年会，2017年9月，小倉。

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
JUC 防災小委員会事務局（マレーシア日本国際工科院に新設予定の防災修士プログラムに対する日本国内支援大学コンソーシアム内小委員会）
筑波大学マレーシアオフィス運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類：入試実施委員会、学生支援委員会
社会工学専攻：留学生支援委員会、学生相談室
環境科学・持続環境学専攻：SUSTEP 英語教育プログラム委員会、MJIIT 国際共同学位プログラム検討 WG

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
茨城県鹿嶋市学校防災推進委員会委員
茨城県鹿嶋市立平井小学校学校地域防災力強化委員会

氏名	川島 宏一	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オープンデータ, 自治体情報戦略, 都市開発戦略		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

社会工学類： 専門英語（都市計画）、都市と地域の経営行政論、現代まちづくりの理論と実践、都市計画実習、都市計画インターンシップ
 サービス工学学位プログラム： 公共インフラ設計

◆ 指導学生数：

社会工学類 4 名
 社会工学専攻サービス工学学位プログラム 1 名
 社会工学専攻社会工学学位プログラム 3 名
 社会工学専攻博士後期課程（社会人）3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- ・ World Wide Web Foundation 受託調査「日本政府のオープンデータ政策評価」（2017 年度）（代表）
- ・ 国土交通省河川局受託研究「避難遅れゼロを実現するための「みんなでタイムラインプロジェクト」自治体全域展開方策に関する研究」（2017～2019 年度）（代表）
- ・ （株）AGREE「医療相談アプリ「LEBER」を用いた医療費削減効果のデータ解析に関する学術指導」（2017～2018 年度）（代表）
- ・ ケープレックス・インク「公共サービスの革新に関する研究の助成」（2017 年度）（代表）

◆ 著書・論文等：

(査読付学術雑誌掲載論文)

- ・ 川島宏一・有田智一・鈴木良介 (2018) つくば市による心肺停止傷病者発生位置情報の最寄 AED 管理者との共有が生み出す協働による救命効果に関する研究～公共部門の内部データの外部共有が産み出す協働による問題解決効果に着眼して～, 計画行政学会誌, forthcoming.
- ・ 金崎健太郎・川島 宏一・有田智一 (2018) マイナンバー導入に伴う自治体業務情報システム改修事例に見るオープン化・標準化及び共同化の現状に関する研究, 情報システム学会誌, 13 巻 2 号, 1-13, 2018 年 3 月.

◆ 学会発表：

- ・ 川島宏一 (2017) 自治体間の派遣人材マッチのための職員スキル分類の方法に関する研究～東日本大震災対応の派遣事例をもとに～, 第 40 回計画行政学会全国大会, 青山学院大学, 2017.9.9
- ・ 李善珠・川島宏一・有田智一 (2017) 教員の業務負担を軽減する校務システムの要件の提案：調査・依頼書の流通分析を中心に, 第 40 回計画行政学会全国大会, 青山学院大学, 2017.9.8
- ・ 野村敦子・川島宏一・有田智一 (2017) シビック・テクノロジーがソーシャル・キャピタルの形成・強化にもたらす影響：調査・依頼書の流通分析を中心に, 第 40 回計画行政学会全国大会, 青山学院大学, 2017.9.9
- ・ 井深廉・川島宏一 (2017) 日本における公共的データ活用の分類法に関する研究～Nickerson ら (2013) の Taxonomy Development の手法を用いて, 第 40 回計画行政学会全国大会, 青山学院大学, 2017.9.9

◆ その他：

講演等

- ・ Open by Default から Shared on Condition へ, 東京大学「情報技術によるインフラ高度化」社会連携講座シンポジウム, 東京大学, 2017.4.20
- ・ 水害リスクと不動産, 日本不動産学会 2017 年度春期全国大会シンポジウム パネルディスカッション パネリスト, すまい・るホール, 2017.6.1
- ・ オープンデータとは? 秋田市役所職員研修会, 秋田市役所, 2017.8.22

- ・ システム情報系・システム情報工学研究科における公正な研究活動の推進のための取組, 平成 29 年度システム情報系・システム情報工学研究科主催 FD 研修会, 筑波大学, 2017.12.4
- ・ オープンデータの意義と効果, つくば市職員研修会, つくば市役所, 2017.12.18
- ・ オープンデータの意義と効果, 受注者によるオンライン型電子納品システム研究会, 東京大学生産技術研究所, 2017.12.19
- ・ オープンデータの意義と効果, 京都市職員研修会, 京都市役所, 2018.1.15
- ・ オープンデータ・アイデアソンって何? 戸田市オープンデータアイデアソン, さくらパル, 2018.2.12
- ・ 品川区 地域課題を IT で解決するワークショップ成果発表会 講評, 品川区役所, 2018.2.25
- ・ 松山市におけるオープンデータの取組と地域活性化, オープンデータ利活用シンポジウム in 松山, ピュアフル松山, 2018.3.6
- ・ データがヒトを豊かにする社会の実現に向けて, オープンデータ利活用パネルディスカッション in 松山 モデレーター, ピュアフル松山, 2018.3.6
- ・ Open Data × Civic Tech × 都市住宅地の持続可能性を支える地域イノベーションシステム, 都市住宅学会シンポジウム モデレーター, 2018. 3. 20

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・ システム情報系研究倫理委員会（委員長）
 - ・ キャリアサポート部門専門委員会 委員
 - ・ 日越大学修士課程公共政策 運営委員
 - ・ 大学入試センター試験監督者
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
 - ・ 社会工学類就職委員会（委員長）
 - ・ 社会工学専攻サービス工学学位プログラム入試面接官
 - ・ 社会工学専攻社会工学学位プログラム入試面接官
 - ・ 社会工学類オリエンテーション委員（～2017. 8. 31）
 - ・ 日越大学 修士課程公共政策入試監理小委員会 委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

(学外組織からの委嘱委員等)

- ・ 内閣官房データ流通環境整備検討会オープンデータワーキンググループ委員
- ・ 総務省 ICT 地域活性化大賞審査委員
- ・ 総務省ふるさとテレワーク推進事業評価委員
- ・ 総務省テレワーク先駆者百選・同総務大臣賞審査委員会
- ・ 総務省地域情報化アドバイザー (アドバイザーリーダー)
- ・ 総務省地域情報化アドバイザー幹事会委員
- ・ 総務省地域 ICT マネージャー 富山県, 秋田市, 京都市, 福知山市, 倉敷市, 福山市
- ・ 外務省 今後の旅券申請・交付に係る手続の在り方に関する検討会 委員
- ・ 厚生労働省 臓器移植にかかる情報システム作業班 班員
- ・ 経済産業省 オープン・データ利活用検討委員会 委員長
- ・ 国土交通省 受注者によるオンライン型電子納品システム研究会 委員
- ・ 大阪市 特別参与
- ・ 水戸市 都市計画審議会会長
- ・ つくば市 顧問
- ・ つくば市 情報公開・個人情報保護審査会委員
- ・ かすみがうら市 まち・ひと・しごと創生有識者会議座長
- ・ 独立行政法人情報処理推進機構 地方創生と IT 研究会委員
- ・ (社) オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 利活用・普及委員会委員
- ・ オープンガバナンスチャレンジ 2016 審査員

(学会活動)

- ・ 地域デザイン学会特命担当理事

(以上)

氏名	倉田 久	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	オペレーションズ・マネジメント		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 経営工学概論／社工専門英語／経営情報システム

大学院： サプライチェーン・マネジメント

◆ 指導学生数：

社会工学類 1人

社会工学専攻（前期） 2人

社会工学専攻（後期） 3人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

主たる研究テーマである Marketing-Operations Interfaces の数理モデル分析の一環として、2017年度には Razor-and-blade business model における価格決定、品切れに対する消費者反応を考慮した店舗在庫管理、消費者による過剰品質認識を考慮した製品機能の決定などの研究課題に取り組んだ。その成果は学術論文誌、学会論文誌、学会発表などの形で社会に発信した。また 2018年度から開始する予定の顧客と従業員の双方の動線を RFID で追跡することで小売業での過剰サービスの削減を目指す研究（これは平成 30年度採択の科研費基盤研究（B）（代表）の研究課題である）の準備にも着手した。

◆ 著書・論文等：

[1] Berdymyrat Ovezmyradov, and Hiashi Kurata (2018), “Effects of customer response to fashion product stockout on holding costs, order sizes, and profitability in omnichannel retailing,” *International Transactions in Operational Research*, forthcoming.

[2] Kurata, Hisashi, Berdymyrat Ovezmyradov, and Yumi Meuthia (2017), “Stocking Decision and Supply Chain Coordination under the Occurrence of Backlogging, Brand Switching, and Store Switching,” *Journal of Japan Industrial Management Association*, Vol.68, No.E2, 149-160.

[3] Kurata, Hisashi, (2017), “Study on product quality design under the effects of feature fatigue

and price fairness concerns: a modeling approach” Conference proceedings of Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) meeting 2017, Yogyakarta, Indonesia, on December 3-6, 2017.

◆ 学会発表等：

倉田久，“耐久消費財向け消耗品の価格決定：ランニングコストと Price Fairness を考慮したモデル分析”，日本経営工学会 平成 29 年春季研究大会，会場：龍谷大学（京都府京都市），2017 年 5 月 27 日.

Kurata, Hisashi, “Pricing in a Razor and Blade Model When Consumers Consider Price Fairness and Cost of Operations,” Presented at the International Congress on Economy, Finance and Business (ICEFB) 2017 at International House Osaka（大阪国際交流センター），on August 9, 2017.

Kurata, Hisashi, “Product attribute design for a razor and blades business model when a customer experiences feature fatigue and price fairness concerns,” Presented at the 4th East Asia Workshop in Industrial Engineering (EAWIE) 2017 at Pacifico Yokohama（パシフィコ横浜），on November 3, 2017.

Kurata, Hisashi, “Study on product quality design under the effects of feature fatigue and price fairness concerns: a modeling approach” Presented at the Asia-Pacific Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS) meeting 2017, Yogyakarta, Indonesia on December 4, 2017.

◆ その他：

研究プロジェクト研究発表セッションの企画・運営

日本経営工学会 2017 年度秋季大会（会場：パシフィコ横浜）においてサービス研究部門の企画セッションの企画・運営 平成 29 年（2017 年）11 月 3 日.

注：当企画セッションの発表者は善甫啓一助教（筑波大学），渡辺勝利氏（東芝テック）の 2 名.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類 経営工学主専攻 3 年生クラス担任
社会工学専攻、及び社会工学類 運営委員

社会工学専攻、及び社会工学類 予算委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

公益社団法人日本経営工学会「優秀学生賞」の筑波大学社会工学類経営工学主専攻の世話人，平成 30 年（2018 年）1 月から 3 月。

日本経営工学会サービス研究部門 幹事 （2017 年 3 月より現在に至る）

日本経営工学会 学会論文誌編集委員 （2017 年 3 月より現在に至る）

Editorial Board member (学会誌編集委員)

“*International Journal of Revenue Management* (Inderscience Publisher, Geneva: Switzerland),”
April 2009-present.

Editorial Board member (学会誌編集委員)

“*Transportation Research Part-E Logistics and Transportation Review* (Elsevier, Amsterdam: Netherlands),” April 2017-present.

Ad-hoc reviewer (学会誌査読)

European Journal of Operational Research (2)

International Journal of Logistics (1)

International Journal of Production Economics (1)

International Journal of Production Research (10)

Journal of the Operational Research Society (1)

Operational Research: An International Journal (1)

Scientia Iranica Journal (1)

Transportation Research-Part E (5)

日本経営工学会論文誌：Journal of Japan Industrial Management Association (2)

サービス学会論文誌：サービスロジー (1)

注：カッコ () 内の数字は 2017 年度の査読回数。

日本経営工学会 サービス研究部門 2017 年第 1 回目講演会 企画・運営

2017 年 12 月 20 日午後 6 時より早稲田大学西早稲田キャンパスで開催

講師：野村総合研究所コンサルティング事業本部コンサルティング人材開発室 田口孝紀氏。注：サービス研究部門幹事として講演会活動の企画・運営に携わる。

日本経営工学会 サービス研究部門 2017 年第 2 回目講演会 企画・運営

2018 年 1 月 22 日（月）午後 6 時より早稲田大学西早稲田キャンパスで開催

講師：日本マクドナルド SCM 本部ロジスティクス部部长 梶野透氏.

注：サービス研究部門幹事として講演会活動の企画・運営に携わる.

氏名	近藤 文代	職名	講師
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	モバイルマーケティング、ベイジアンモデル、POSデータ解析、状態空間モデル、時系列分析		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 担当授業科目：専門英語、経営の科学、マーケティング工学、社会調査実習

大学院 担当授業科目：マーケティングサイエンス、ファイナンス：理論と実践 (野村証券提供講座)

◆ 指導学生数：

◆ 社会工学類 6人 / 社会工学専攻 (前期) 3人 / 社会工学専攻 (後期) 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費 基盤研究 (C) 「階層ベイズによるマルチデバイス状況を考慮」 (代表)
2. 科学研究費 基盤研究 (A) 「データ・理論・分析手法の統合によるマーケティングモデルの進化と理論構築」 (分担)

◆ 著書・論文等：

1. Kondo, F. N. and Ghyas, Q. M. (2017), Expanding mobile information service needs to improve quality of life: A cross-temporal comparison of Japanese students, International Journal of Service and Knowledge Management, Vol.1, No.2, pp.33-47.
2. Ghyas, Q. M. and Kondo, F. N. (2018), Factors influencing Intention to Use Mobile Information Services among Young Users: A Comparative Cross-country Study, World Journal of Social Sciences, Vol. 8., No. 1., March 2018, pp. 42 – 53.
3. Nakano, S. and Kondo, F. N. (2018), Customer Segmentation with Purchase Channels and Media Touchpoints Using Single Source Panel Data, Journal of Retailing and Consumer Services, Vol.41, pp.142-152.

◆ 学会発表等： ※国内外学会発表などの実績

1. Kondo, Fumiyo N. and Nakano, Satoshi and (2017), Which Device of Mobile or PC Would Be Used for Webrooming Before Purchasing Products in Stores or Online?, Proceedings of INFORMS Marketing Science Conference, on June 8, 2017 at University of Southern California, Los Angeles.
2. Nakano, Satoshi and Kondo, Fumiyo N. (2017), Multichannel Shopper Segments of Purchase Channels and Media Touchpoints using Single Source Panel Data, Proceedings of INFORMS Marketing Science Conference, on July 8, 2017 at University of Southern California, Los Angeles.
3. 大杉巧, 水田泰由, 片岡恵, 近藤文代 (2017), Web 上の閲覧行動が実店舗及びオンライン店舗での購買行動に与える効果の検証, 2017 年度統計関連学会連合大会, 9 月 4 日, 南山大学名古屋キャンパス.

◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 : ウィーン経済経営大学 (学術協定校) の調停教員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) : FD 委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本学術振興会 特別研究員-DC 審査会専門委員

氏名	佐野 幸恵	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	社会経済物理、計算社会科学、ウェブサイエンス、ソーシャルメディア		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：線形代数 I, プログラミング実習
大学院：社会シミュレーション
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 2人／社会工学学位 P（前期）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 1. 科学研究費 若手研究 (B)「想起効果を内在する集合的記憶モデルの開発」(代表)
 2. JST 国際科学技術共同研究推進プログラム(SICORP) 日本-イスラエル共同研究「サイバー社会ネットワークにおける噂の伝播の検出と制御」(分担)
- ◆ 著書・論文等：
 1. Y. Sano,
“Correlations and fluctuations in the word sets of collective emotions,”
NOLTA E9-N(3) (to appear). [refereed]
- ◆ 学会発表等：
 1. Y. Sano, “Quantifying and modeling collective human behaviors in online social media,” The 2nd Workshop on Self-Organization and Robustness of Evolving Many-Body Systems, Sapporo, Japan, September 8,9 (2017). [oral]
 2. Y. Sano, “Complex network of scientific contributions: A preliminary analysis,” The 3rd Workshop on Self-Organization and Robustness of Evolving Many-Body Systems, Hiroshima, Japan, December 13 (2017). [oral]
 3. H. Watanabe, Y. Sano, H. Takayasu, and M. Takayasu, “Statistical properties of fluctuations of time series representing appearances of words in nationwide blog data and their applications,” The 3rd Annual International Conference on Computational Social Sciences (IC2S2 2017), Cologne, Germany, July 10-13

(2017). [oral]

4. 佐野幸恵, 高安秀樹, 高安美佐子, “ソーシャルメディアにおける大衆感情の周期性,” 日本物理学会 2017 年秋季大会, 岩手大学, 9/21-24 (2017).
5. 佐野幸恵, “論文謝辞ネットワークの統計的解析,” 平成 29 年度 統計数理研究所共同研究集会「社会物理学の新展開」, 統計数理研究所, 3/20 (2018).
6. 佐野幸恵, Orr Levy, 高安秀樹, Shlomo Havlin, 高安美佐子, “正しい情報と誤情報における拡散ネットワークの統計的解析,” 日本物理学会 第 73 回年次大会, 東京理科大学, 3/22-25 (2018).

◆ その他 :

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :
 - ・ 筑波大学社会工学類 オープンキャンパス 模擬講義 (2017/8/6)
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等) :
 - ・ 学類・大学院 FD 委員
 - ・ 学類 就職委員、オリエンテーション委員、クラス担任(4年)
 - ・ SFT 「プログラミング入門」検討WG 社工担当委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 日本物理学会 :
 - ・ 研究費配分に関する教育研究環境検討委員会 委員
 - ・ 男女共同参画推進委員会 委員
- ◆ 男女共同参画学協会連絡会 :
 - ・ 大規模アンケート調査実行委員会/アンケート解析 WG 委員
- ◆ 新聞記事掲載 :
 - ・ 「育児と研究を両立」茨城新聞 (2017/8/25)
- ◆ 高大連携 :
 - ・ 「ネット書き込みの科学」茨城県立竹園高校 (2017/11/8)

氏名	澤 亮治	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	進化ゲーム理論、協力ゲーム、行動ゲーム理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 社会工学実習/ゲーム論/経済学入門 I

大学院： ゲーム理論/行動・実験経済学

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人/社会工学学位（前期） 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 若手研究 (B)「マルチタスク環境および協力ゲームにおける進化ゲーム理論の研究」(代表) 課題番号：15K17023

◆ 著書・論文等：

◆ 学会発表等：

国際会議発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, Society for the Advancement of Economic Theory Conference (SAET), Portugal, June 25-30, 2017

国内会議発表, R. Sawa, “Reference-dependent preferences and stochastic stability in bargaining and coordination games”, Decision Theory Workshop, 一橋大学, 2017年5月20日

招待セミナー発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”, 横浜国立大学, 2017年5月25日

招待セミナー発表, Okada, A., and R. Sawa, “An evolutionary approach to social choice problems with q-majority rules”,第155回地域科学ワークショップ, 東北大学, 2017年7月28日

◆ その他：

ゲーム理論セッション座長・討論者, 日本経済学会秋季大会, 2017年9月9-10日

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報系施設安全衛生管理委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻運営委員会委員

社会工学類運営委員会委員

社会工学域施設委員会委員

社会工学類 3 年生担任

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

茨城県立土浦第二高等学校ワンデーカレッジ 出前講義「恋の市場を設計する：ゲーム理論による経済学」

福島県立磐城桜が丘高校 出前講義「恋の市場を設計する：ゲーム理論による経済学」

氏名	繁野麻衣子	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	最適化，ネットワーク理論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 数理最適化法／数理工学モデル化実習／計算機科学／社会工学特設講義
大学院 応用最適化／離散数理

◆ 指導学生数：

学類 6人／社会工学学位(後期) 1人／社会工学学位(前期) 11人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」(代表)

科学研究費 基盤研究 (B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(分担)

科学研究費 基盤研究 (B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」(分担)

共同研究(経費無し) 産業総合研究所「リソース最適化に関する研究」

共同研究 株式会社 LIXIL「大規模データの解析による事業戦略立案の方法論」

共同研究 株式会社デンソー「相乗りのための最適アルゴリズムの開発」

◆ 著書・論文等：

繁野麻衣子, 池上敦子, スタッフ・スケジューリングにおける周期的スケジュール作成と適用の課題, オペレーションズ・リサーチ Vol. 63, No. 3, 134-138, 2018

◆ 学会発表等：

Umesha Perera, Maiko Shigeno, Ushio Sumita, Development of Segmentation Algorithm for Identifying Lifecycle of Smartphone Applications, The proceedings of International Conference on Business and Information (BAI) 2017, 122-143 (Hiroshima, 2017.7.4-6) .

Tetsuro Iwaki, Maiko Shigeno, Ushio Sumita, Development of Rating Algorithms for Establishing Daily Ranking of Smartphone Applications Based on Temporally Inhomogeneous Markov Chain Approach, The proceedings of International Conference on Business and Information (BAI) 2017, 49-61 (Hiroshima, 2017.7.4-6) .

Yuki Kimura, Kengo Shimizu, Tetsuya Tsuboi, Daisuke Hasegawa, Kouji Ishikawa, Keisuke Kimura, Miku Tanaka, Kazunori Ozeki, Jieying Zhou, Maiko Shigeno, Improvements in cooking process scheduling for family restaurants, Proceedings of International Symposium on Scheduling 2017, 121-126 (Nagoya, 2017.6.23-25).

張蓉, 平田崇博, 繁野麻衣子, 予約制タクシーの配車スケジューリング, スケジューリング・シンポジウム 2017, 福岡工業大学, 2017.9.23-24.

繁野麻衣子, 池上敦子, スタッフ・スケジューリングの数理モデル- 周期性を中心に-, RAMP シンポジウム, 筑波大学, 2017.10.12-13.

宮川穩貴, 渡部洋介, 繁野麻衣子, 石井紀代, 竹房あつ子, 吉瀬章子, エラスティック光ネットワーク上のエニーキャスト通信のための RSA 問題に対するグリーディーアルゴリズムの比較, 電子情報通信学会フォトニックネットワーク研究会, 技術報告書 117(298), 1-8 (工学院大学, 2017.11.15-16).

周潔瑩, 坪井哲也, 長谷川大輔, 石川浩司, 木村恵介, 田中未来, 大関和典, 繁野麻衣子, 調理手順スケジューリングモデルに対するルール設計と検証, 情報処理学会研究報告数理モデルと問題解決, 2018-MPS-117(4), 1-6 (指宿, 2018.3.1-2).

吉田岳人, 矢野正基, 堀川健一郎, 佐藤啓太, 南翔太, 繁野麻衣子, 共通の目的地をもつ顧客によるタクシー相乗りのためのモデル作成と評価, 情報処理学会研究報告数理モデルと問題解決, 2018-MPS-117(3), 1-6 (指宿, 2018.3.1-2).

南翔太, 堀川健一郎, 佐藤啓太, 渡辺英里, 吉田岳人, 矢野正基, 繁野麻衣子, イベント参加者のためのライドシェアサービスの支払い料金配分設計, サービス学会第5回国内大会, 明治大学, 2018.3.10-11.

李天陽, 繁野麻衣子, サイクルグラフ上の重み付き情報拡散ゲームの純粋戦略ナッシュ均衡, 日本オペレーションズ・リサーチ学会 2018年春季研究発表会, 東海大学, 2018.3.15-16.

◆ その他：

スケジューリング学会学会賞技術賞

Distinguished Paper Award (2017 International Conference on Business and Information)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

研究科 入試実施委員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院 カリキュラム委員・入試委員／学類 カリキュラム委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

数理モデル高大連携

氏名	Tran Lam Anh Duong	職名	助教
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	国際経済学、経済成長、所得分配		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：国際金融論/国際公共システム演習/フレッシュマンセミナー
大学院：国際経済分析
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 0人/社会工学学位（前期）1人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費（研究活動スタート支援）「貿易のネットワーク構造が技術の波及を通じて経済成長に与える影響の分析」（代表）
公益財団法人ヒロセ国際奨学財団（研究助成）「経済のグローバル化が市場の不完全性を通じて所得の不平等に与える影響の分析」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
Tran L.A.D. (2017). Effect of trade on wage inequality with endogenous technology choice, FIW-Research Conference in International Economics, November 2017, Vienna University of Economics and Business, Vienna, Austria
Tran L.A.D. (2017). Effect of trade on wage inequality with endogenous technology choice, Australasian Trade Workshop, March 2018, University of Auckland, Auckland, New Zealand
- ◆ その他：
受賞：平成 29 年度システム情報系 教育貢献賞

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
日越大学公共政策プログラム 派遣教員「Macroeconomics for Public Policy」
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類 広報委員会 委員
社会工学専攻 広報・新入生オリエンテーション委員会 委員
社会工学類 クラス担任（1年生）
社会工学専攻 TGSW の社会工学専攻セッションの企画・運営

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
学術誌の査読：Hitotsubashi Journal of Economics

氏名	鈴木 勉	職名	教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），社会システムマネジメント専攻（分担）		
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻（専任），社会工学専攻社会工学学位プログラム（分担），サービス工学学位プログラム（分担），環境科学専攻（分担）		
担当学類	社会工学類，地球規模課題学士学位プログラム（分担）		
研究分野	立地科学，都市空間構造，持続可能型都市形態，都市リスク分析，地理情報の都市計画への応用		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

総合科目 都市・地域・環境を探るⅡ／筑波大学から診る環境問題
 社会工学類 線形代数Ⅰ／都市計画実習／都市解析
 博士前期課程 リスク工学概論／都市機能リスク論／都市・地域解析学／
 都市リスク分析演習／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／リスク工学専攻 11人／社会工学専攻 0人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

大林財団研究助成 「自動運転社会における道路空間シェアリングと公共交通システムを考慮した総合的交通インフラマネジメントに関する基礎研究」

東京大学空間情報科学研究センター共同研究 「集約型都市における土地利用・都市施設・交通網・交通行動の関係性に関する研究」

茨城県平成 29 年度商店街実態分析調査研究委託事業

戦略的イノベーション創造プログラム(SIP) 「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」研究開発課題「道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した総括的研究」(分担)

トヨタ自動車共同研究「次世代社会システムとモビリティの在り方研究」(分担)

◆ 著書・論文等：

安成光・松橋啓介・鈴木勉：市街地形状と鉄道網の連携度に関する世界大都市間比較分析，都市計画論文集，Vol.52, No.1, pp.34-41, 2017.

三浦英俊・鈴木勉：格子状交通ネットワークモデルにおける移動経路と流動交差量の分布について，都市計画論文集，Vol.52, No.3, pp.717-722, 2017.

若林建吾・巖先鏞・鈴木勉：東京区部における建物指標と道路指標を考慮した市街地分類

に関する研究, 都市計画論文集, Vol.52, No.3, pp.711-716, 2017.

巖先鏞・鈴木勉: 空間的土地利用混合度指標を用いた住宅地地価分析による土地利用パターンの評価, 都市計画論文集, Vol.52, No.3, pp.1356-1363, 2017.

長谷川大輔・鈴木勉: 需要密度・移動距離に着目した多様な公共交通システムの優位性に関する理論的考察, 都市計画論文集, Vol.52, No.3, pp.1284-1289, 2017.

◆ 学会発表等:

長谷川大輔・呉暁東・若林建吾・鈴木勉: モバイル空間統計を活用した日常時・災害時滞在人口の動態分析~茨城県常総市を対象として~, 第13回 ESRI コミュニティフォーラム, 東京ミッドタウン, 2017年5月17-18日.

Daisuke Hasegawa, Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Effect of Zoning Strategy on the Performance of Demand Responsive Transit, presented at the International Symposium on Scheduling (ISS 2017), Nagoya, Japan, June 23-25, 2017.

Daisuke Hasegawa and Tsutomu Suzuki: An Analytical Model for Comparison of Demand Responsive and Fixed Route Transit Systems, presented at the 21th Conference of the International Federation of Operational Research Societies (IFORS 2017), Quebec City, Canada, July 17-21, 2017.

Sunyong Eom and Tsutomu Suzuki: Measures and Spatial Allocation Model for Incorporating Interaction by Land Use Mix, presented at the International Conference of Asian-Pacific Planning Societies 2017 (APPS 2017), Nagoya, Japan, August 25, 2017.

若林建吾・長谷川大輔・馬東来・鈴木勉・大澤義明: 歩車錯綜対策による水害避難効率改善の評価, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.178-179, 2017.

川西勇輔・鈴木勉: 宅配便集配拠点の導入による配送車走行距離削減効果, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.68-69, 2017.

三浦英俊・鈴木勉: 放射環状交通路網の交差点における流動交差量について, 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, pp.168-169, 2017.

山村拓巳・長谷川大輔・鈴木勉: 公共施設の商業施設との立地合致度に関する研究, 2017年度 東京大学空間情報科学研究センター全国共同利用研究発表大会(CSIS DAYS 2017), 2017.

若林建吾・鈴木勉: 道路構造の違いに着目した歩車錯綜の避難効率評価, 地理情報システム学会講演論文集, 2017.

徐千里・巖先鏞・鈴木勉: 大規模商業施設へのアクセシビリティと買い物利便性における公共交通の効果, 地理情報システム学会講演論文集, 2017.

長谷川大輔・鈴木勉: 地域内 OD フローを考慮した地域公共交通システムにおけるバス・デマンド交通併用の効果分析, 地理情報システム学会講演論文集, 2017.

Hidetoshi Miura and Tsutomu Suzuki: Modeling of Traffic Crossings in Grid-type Networks, presented at the Urban Operations Research Workshop 2017, Nanzan University, Nagoya, December 9-10, 2017.

Liling Liu and Tsutomu Suzuki: Quantifying Applicability of e-bike based on Comparative Evaluation of Convenience with Bicycle and Public Transport, presented at the Urban Operations Research Workshop 2017, Nanzan University, Nagoya, December 9-10, 2017.

嚴先鏞・河野裕美・四衢深・山村拓巳・山本幸子・鈴木勉・大澤義明：カルテ診断手法を用いた茨城県商店街の実態把握と活性化計画立案, 2017年度日本建築学会関東支部研究報告集, 2018.

陳康・鈴木勉：ハザードモデルに基づく自治体道路管理によるコスト削減効果に関する研究, 第45回土木学会関東支部技術研究発表会第VI部門, 2018.

劉俐伶・鈴木勉：Quantifying applicability of e-bike based on comparative evaluation of convenience with bicycle and public transport, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.100-101, 2018.

長谷川大輔・鈴木勉：地域内 OD フローを考慮した地域公共交通システムにおけるバス路線網構築, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.98-99, 2018.

鈴木勉：拠点配置と路線配置を組み合わせた最適都市空間構造, 日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集, pp.116-117, 2018.

◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
システム情報工学研究科企画室委員
学士オールラウンド型学士プログラム運営委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
リスク工学専攻達成度評価アクション委員会委員長
リスク工学専攻研究企画委員会委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
日本オペレーションズ・リサーチ学会表彰委員会委員, 国際委員会委員
応用地域学会応用地域学研究編集委員
土木学会技術推進機構上席研究員
国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員

茨城県県西地域公共交通確保対策協議会委員長

常総市公共交通活性化協議会会長

守谷市公共交通活性化協議会委員

神栖市地域公共交通会議委員

筑西市地域公共交通会議委員

八千代町地域公共交通会議委員

氏名	TURNBULL, Stephen John	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学学位プログラム		
専攻（博士前期課程）	社会工学学位プログラム兼サービス工学学位プログラム		
担当学類	社会工学類		
研究分野	社会経済（数理経済学、産業経済学）		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

（MSE）情報ネットワークの経済学（MPPS）社会工学のための数学（学類）専門英語、経済動学（総合科目）経済学入門 II

◆ 指導学生数：

（MSE）14（研究生）5（学類）2

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

ソフトウェア産業に関する科研を終了。統計学に関する科研（国際基督教大学教授 金澤雄一郎（代）、法政大学教授 明城聡と共同研究）が続投。「圏論によるゲームの分析として新研究テーマに取り組んだ。

◆ 学会発表等：

1. 「Where We've Been, What's Special About Now, and Where We Might Go Next」
PyCon Canada 2016, Toronto, Nov. 12-14.
2. 「You Can Help Develop Python – and You Should!」（招待）PyCon Pune 2017,
Pune, India, Feb. 16-20.
3. 「Chasing Diagrams to Equilibrium: A Speculative Application of Category
Theory to Games」 2017 Edition of Hayama Meeting, Hayama, Kanazawa, Mar.
12-14.

3. 学内運営

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

留学生支援委員会

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動

出前講座 茨城県立栄進高等学校 2016年8月4日（高大連携）

氏名	谷口綾子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
専攻（博士前期課程）	リスク工学専攻 社会工学専攻	専任 兼担	
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市交通計画，態度行動変容研究，都市リスク・コミュニケーション		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

【学類】都市計画実習，都市計画インターンシップ，交通運輸政策，都市・地域・環境を探索 I

【大学院前期課程】 都市安全管理特論，リスク工学特別演習，リスク工学基礎，

都市リスク・コミュニケーション，リスクマネジメント序論

◆ 指導学生数：リスク工学専攻 4 名 社会工学専攻 1 名 社会工学類 3 名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

1. 科学研究費(基盤 A(代表)) 健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究
2. 科学研究費(挑戦的萌芽)(代表) 道路上の異モード間コミュニケーションの生起と社会的受容
3. 科学研究費(基盤 B)(分担) 成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生 (谷口守)
4. 科学研究費(基盤 B)(分担) 子育て世帯の多様なライフスタイル実現のための都市のバリアと心のバリアの緩和策(大森宣暁)
5. 受託研究 NEDO(分担) 「戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)自動走行システム／大規模実証実験／社会の受容性に関する総合調査」のうち「海外事情を対象に，市民目線から自動運転受容性向上対策のポイントを調査」(森川高行)

◆ 著書・論文等：

■ 査読付き原著論文

- (1) 谷口綾子，佐々木洋典，藤本宣，中原慎二：交通行動と健康診断データ・心的傾向の関連分析－神奈川県大和市職員を対象として－，土木学会論文集 D3，Vol. 73 No.5, pp. I_1173-I_1182, 2017.
- (2) 崔文竹，片山茜，谷口綾子，谷口守：「食環境」と「食行動に関する意図」が主観的健康状態に及ぼす影響，土木学会論文集 G（環境），Vol. 75, No. 6, pp. II_121-II_129,

2017.

- (3) 藤村美月, 谷口綾子: 電車内マナー啓発メッセージがマナー遵守行動意図に与える影響, 土木学会論文集 D3, Vol. 73 No.5, pp. 号 I_1033-I_1042, 2017.
- (4) 崔文竹, 森英高, 谷口綾子, 谷口守: 地域環境と心身の健康状態に関する因果分析 -BMI と健康関連 QOL 指標に基づく検討-, 土木学会論文集 D3, Vol. 73 No.5, pp. I_355-I_366, 2017.ef: JTRG_2017_133_R1
- (5) 谷口綾子: 大学生の服装に交通手段が与える影響 —運動着・部屋着の服装規範と許容度に着目して—, 実践政策学, 第3巻1号(2017年春号), pp.85-90, 2017.
- (6) Waygood, E.O.D., Friman, M., Olsson, L., Taniguchi, A. (2017) Children's Incidental Social Interaction During Travel: Evidence from Canada, Japan and Sweden, *Journal of Transport Geography* (Elsevier), Vol.63, pp.22-29. <https://doi.org/10.1016/j.jtrangeo.2017.07.002>
- (7) 佐藤良太, 谷口綾子: 東日本大震災応急・復旧期におけるバス路線新設の経緯と課題に関する調査研究—仙台空港アクセスバスを対象に—, 災害情報, No.15-2, pp.197-205, 2017.
- (8) Waygood, E.O.D., Friman, M., Olsson, L., Taniguchi, A. (2017) Transport and Child Well-Being: An Integrative Review, *Travel Behaviour and Society*, T 9C (2017) pp. 32-49. DOI information: 10.1016/j.tbs.2017.04.005.
- (9) 中山昂彦, 宮川愛由, 谷口綾子, 井料美帆, 小嶋文, 藤井聡: 道路空間デザインが歩車間コミュニケーションに及ぼす影響に関する研究, 交通工学論文集 (特集号 A) 第3巻4号, pp.A_84-A_91, 2017.
- (10) Inada, H., Tomio, J., Nakahara, S., Xu, X., Taniguchi, A., Ichikawa, M. (2017) National 10-year trend of road injuries involving school children on way to and from school in Japan, 2003-2012, *Injury prevention*, vol.23, pp.297-302. doi:10.1136/injuryprev-2016-042042

■査読付きプロシーディングス

- (11) Taniguchi, A., Xu, X. (2017) The Relationship Between Transitions in Children's Travel Behaviour and Mental and Physical Health in Japan, *Proceeding of 3rd International Conference on Transport and Health (ID 1938)*, held in Barcelona, Spain, June 2017..
- (12) Sasaki, H., Fujimoto, S., Taniguchi, A., Nakahara, S. (2017) Mobility Management for Health Promotion in Cooperation with Local Government Urban Transport Planning and Public Health Departments, *Proceeding of 3rd International Conference on Transport and Health (ID 1896)*, held in Barcelona, Spain, June 2017.
- (13) Mariko Shiramizu, Ryoko Okui, Yuki Mase, Shinji Nakahara and Ayako Taniguchi

(2017) Changes in physical activity resulting from blood glucose testing at health fairs, TNMC & WANS International Nursing Research Conference 2017 Culture, Co-creation, and Collaboration for Global Health Bangkok, Thailand, October 20-22, 2017. (Submission ID: 186)

■著書： 該当無し

◆ 学会発表等：

- (1) 谷口綾子, 富尾祐作, 川嶋優旗, Marcus Enoch, Petros Ieromonachou, 森川高行：自動運転システムの社会的受容－賛否意識とリスク認知に着目して, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.56, 2017.
- (2) 藤村美月, 谷口綾子：バス車内のマナー啓発コミュニケーションと効果検証－筑波大学循環バスを対象として－, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.56, 2017.
- (3) 西堀泰英, 森川高行, 谷口綾子, 富尾祐作：自動運転車試乗体験が無人タクシーの利用意向に及ぼす要因分析, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.56, 2017.
- (4) 平間尚夏, 森英高, 谷口綾子, 谷口守：活動の制約要因とその解消に向けた一考察－活動格差社会克服のための「外出 MM」「活動 MM」の提案－, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.56, 2017.
- (5) 谷口綾子, 藤村美月, 藤田修平, 小栗康平, 板橋奈央, 伊藤将希, 小林香渚, ソルス・テイソン・慧・グナル, 橋村ちひろ, 宮谷台香純, 広田瞳子：学生街における宅配再配達問題の緩和に向けた取り組み-心理的方略と構造的方略, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.56, 2017.
- (6) 奥井良子, 白水真理子, 間瀬由記, 中原慎二, 谷口綾子, 佐々木杏子：外来通院中の糖尿病患者の身体活動の実態, 慢性看護学会抄録, 2017.
- (7) 谷口綾子, 藤本宣：モビリティ・マネジメントにおける動機付け効果の要因分析－交通行動変容ステージ・情報に対する信頼・コミットメントに着目して, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.
- (8) 富尾祐作, 谷口綾子, Marcus Enoch, Petros Ieromonachou, 森川高行：運輸事業関係者の自動運転システムに対する賛否意識-自動運転のレベルに着目して, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.
- (9) 西堀泰英, 富尾祐作, 谷口綾子, 森川高行：自動走行車に対する自動走行車体験試乗参加者の意識, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.
- (10) 許欣, 谷口綾子：日本の子どもの交通行動の変遷とその影響－幼少期の生活環境と成人後の大衆性に着目して, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.
- (11) 佐々木洋典, 藤本宣, 谷口綾子, 中原慎二：市役所職員を対象とした健康モビリティ・マネジメント, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.

- (12) 藤本宣, 佐々木洋典, 谷口綾子, 中原慎二: 国民健康保険特定保健指導におけるモビリティ・マネジメント: 一健康福祉部署と都市交通部署の連携一, 土木計画学研究・講演集(CD-ROM) Vol.55, 2017.

◆ その他:(論説)

- (1)谷口綾子: 子どものクルマ依存がもたらす社会的影響, 東京交通新聞「論壇」, 2017年9月11日.
(2)谷口綾子: 女性が切り拓く交通研究(座談会), 運輸と経済, 2017年5月号, pp. 23-31, 2017.

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

研究戦略室 URA 室員

筑波大学交通安全会 理事

管理職(大学教員)多様性推進計画構成員 委員

つくば3Eフォーラム 都市構造タスクフォース座長

つくばエコシティ推進グループ: キャンパス交通システムの利用促進

筑波大学カーシェアリングシステム「カーシェアつくば」の導入, マネジメントと利用促進

◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等):

リスク工学専攻: 広報委員, 障害学生支援委員

4. 学外の社会貢献

◆ 講演・パネルディスカッション

- (1)北海道運輸局 70才からの生活の足を考えるフォーラム in 釧路 基調講演 「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 2018年3月19日(釧路市)
(2)兵庫県庁 平成29年度第三回公共交通勉強会 基調講演「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」, 2018年2月13日(神戸市)
(3)JICA 集団研修 総合都市交通計画「Mobility Management: essence and key points」 講師 2017年11月6日
(4)交通エコロジーモビリティ財団 EST 創発セミナーin 秦野 基調講演「子どもの交通行動とモビリティ・マネジメント教育」 2017年10月31日
(5)国土交通大学校 道路計画「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 講師 2017年10月18日
(6)交通エコロジーモビリティ財団 第7回 地域の交通環境対策推進者養成研修会(金沢) 講師 2017年10月11日~13日
(7)日本交通政策研究会 講演会(基調講演) 「態度・行動変容研究の実務への応用~ モ

- ビリティ・マネジメントから景観改善，土砂災害避難まで～」2017年9月5日
- (8)土木学会全国大会_研究討論会「DIVERSITY の視点から見直そう：土木計画学における研究と教育」パネリスト 2017年9月11日
- (9)土木学会 第51回夏期講習会「かしこい交通インフラの使い方 ～社会的ジレンマに陥らないために～交通渋滞・地球環境問題・災害避難に共通する課題とは?」 基調講演 2017年8月22日
- (10)秦野市交通スリム化教育 教員研修 「学校教育における交通・環境教育(TDM 教育)の意義」 講師 2017年8月8日
- (11)筑波大学 教員免許更新講習「実習と実験による役に立つ防災教育」講師 2017年8月4日
- (12)スマエコシティ研究学園 交通安全ワークショップ 講師 2017年7月22日
- (13)中核都市 新交通システム研究会「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」 基調講演(都市センターホテル) 2017年7月20日
- (14)第37回身体活動研究会(東京医科大学) 「モビリティ・マネジメントの概要とポイント，事例」講師 2017年7月13日
- (15)一般財団法人計量計画研究所 第10回モビリティ・マネジメント技術講習会 基調講演「モビリティ・マネジメントの概要とポイント」2017年7月6日.
- (16)土木学会シニア社会貢献グループ会合 「リスク・コミュニケーションについて」 基調講演 2017年5月17日

◆ 委員会(政府・地方自治体等)

- 国土交通省 航空局 熊本空港特定運営事業等審査委員会 2017年1月～
- 国土交通省 青森国道事務所・青森県庁 奥入瀬溪流・十和田湖周辺交通マネジメント検討委員会 委員 2017年12月～
- NTTアド 東京オリンピック・パラリンピックにおける交通需要マネジメント検討業務 アドバイザー 2017年12月～2018年3月31日
- 群馬県庁 モビリティ・マネジメント施策に関するアドバイザー 2017年11月～
- 国土交通省総合政策局 エコ通勤等承認・普及促進委員会 委員 2017年8月～
- 千葉県庁 地域振興連絡協議会 成田空港周辺の公共交通のあり方検討委員会 委員 2017年11月～
- 滋賀県庁 近江の心を育む交通環境学習の普及・検討委員会委員 2017年10月～
- 東京都渋谷区 渋谷区都市計画審議会専門部会 2017年9月～
- 東京都足立区 足立区総合交通計画改定協議会委員 2017年10月～
- 防衛省 防衛施設整備に関する有識者会議委員 2017年4月～
- 国土交通省 行政事業レビュー有識者委員会 委員 2017年4月～
- 茨城県庁 政策評価委員会 委員 2017年4月～

- 国土交通省関東地方整備局 社会資本整備審議会道路分科会関東地方小委員会 臨時委員 2016年11月～
- 国土交通省北海道局 国土審議会北海道開発分科会計画推進部会 委員 2016年11月～
- 国土交通省総合政策局 地域公共交通の活性化及び再生の将来像を考える懇談会委員 2016年6月～
- 内閣府 沖縄振興審議会専門委員会 委員 2016年6月～
- 東京都大田区 大田区交通政策基本計画有識者会 委員 2016年5月～
- つくば市環境都市推進委員会 委員 2016年4月～
- 独立行政法人国際協力機構（JICA） ベトナム国ビンズオン公共交通管理能力強化プロジェクト アドバイザー 2015年8月～
- 藤沢市 藤沢市地域公共交通会議 モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）検討委員会 委員長 2015年7月～
- 国土交通省 国立研究開発法人審議会土木研究所部会 委員 2015年7月～
- 国土交通省 社会資本整備審議会 環境部会 専門委員 2015年2月～
- 国土交通省 国土審議会 北海道開発分科会計画部会 委員 2014年12月～
- 国土交通省 北海道開発局 札幌開発建設部 札幌千歳間交通円滑化懇談会 委員 2014年9月～
- 国土交通省 都市局 全国都市交通特性調査検討会 WG 委員 2014年6月～
- 国土交通省 総合政策局 交通関係環境保全優良事業者等大臣表彰選考委員会 委員 2014年6月～
- 国土交通省 国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会 委員
- 国土交通省 運輸審議会 運輸安全マネジメント部会 専門委員 2014年2月～
- 国土交通省 交通政策審議会 環境部会 臨時委員、国土交通省 2007年4月～
- 内閣府 民間資金等活用事業推進委員会委員 2012年1月～
- 茨城県 第74回国民体育大会茨城県準備委員会 輸送・交通専門委員会 委員 2014年1月～
- 静岡県 道路技術審議会 委員 2012年10月～
- 龍ヶ崎市 地域公共交通活性化協議会 副委員長
- 交通エコロジー・モビリティ財団 モビリティ・マネジメント教育普及検討委員会 委員 2009年1月～
- 茨城県かすみがうら市 総合交通会議 委員 2008年10月～
- 秦野市 TDM 計画 小学校における TDM 教育 アドバイザー・講師 2005年～
- 交通エコロジー・モビリティ財団 EST 普及推進委員会 委員 2005年～

以上

氏名	谷口 守	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市地域計画，交通計画，環境計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 都市計画実習／都市計画原論／総合科目「都市・地域・環境を探る」／
大学院前期課程 都市と環境／美しい国土づくりへの挑戦（Ⅱ）
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 3人／社会工学専攻（博士後期）3人／
社会工学専攻（博士前期）10人／

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費 基盤研究(B)「成人病化する都市の退化マネジメントによる自律再生」(代表)
科学研究費 挑戦的萌芽研究「インビジブルシティ（見えない都市）の「見える化」によるハイブリッドなまちづくり」(代表)
科学研究費 基盤研究(A)「健康に配慮した交通行動誘発のための学際的研究」(分担: 代表 谷口綾子)
科学研究費 基盤研究(B)「社会基盤計画の遂行におけるレジリエンス能力の解明」(分担: 代表 岩倉成志)
共同研究 「次世代社会システムとモビリティのあり方研究」(分担)、トヨタ自動車株式会社
- ◆ 著書・論文等：
- ★ 著書：
谷口守：都市計画の変遷と展開、日本土木史、平成3年～平成22年、－1991～2010－、pp.742-755、土木学会編、2017。
Katsuki, H. and Taniguchi, M. : Introducing Mobility Sharing with Automated Driving: Reducing Time and Space for Parking, Urban Transport XXIII, pp.319-328, 2018.
- ★ 査読付き論文：
越川知紘・森本瑛士・谷口守：コンパクトシティ政策に対する記述と評価の乖離実態、

- ー都市計画マスタープランに着目してー、都市計画論文集、No.52-3、pp.1130-1136、2017. <https://doi.org/10.11361/journalcpj.52.1130>
- 香月秀仁・東達志・谷口守：郊外間交通へのシェア型自動運転車の導入可能性、-トリップの時空間特性・個人属性の観点から-、都市計画論文集、No.52-3、pp.769-775、2017. <https://doi.org/10.11361/journalcpj.52.769>
- 都築早織・片山茜・谷口守：キーワードからみた都市計画研究の変遷、都市計画論文集、No.52-3、pp.329-335、2017. <https://doi.org/10.11361/journalcpj.52.329>
- 平間尚夏・森英高・谷口守：活動格差の実態と今後の活動喚起に向けた一考察、-外出活動・自宅内活動に着目して-、都市計画論文集、No.52-3、pp.871-878、2017. <https://doi.org/10.11361/journalcpj.52.871>
- 崔文竹・片山茜・谷口綾子・谷口守：「食環境」と「食行動に関する意図」が主観的健康状態に及ぼす影響、環境システム研究、Vol.45、pp.121-130、2017.
- 越川知紘・谷口守：都市別自動車 CO2 排出量の長期的動向の精査、-全国都市交通特性調査の 28 年に及ぶ追跡から-、環境システム研究、Vol.45、pp.169-178、2017. [環境システム研究優秀学生発表賞受賞論文]
- 杉本峻佑・谷口守：水素社会における電力地産地消の可能性、-住宅街区でのスマートグリッド導入を踏まえ-、不動産学会学術講演会論文集、No.33、pp.13-20、2017.
- 山根優生・谷口守：小さな拠点の客観的選定による農村部の地域構造分析、農村計画学会誌 Vol.36、論文特集号、pp.304-310、2017.
- 山根優生・森本瑛士・谷口守：「小さな拠点」が有する多義性と「コンパクト+ネットワーク」政策がもたらすパラドクス、土木学会論文集 D3、Vol.73, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.34)、pp.I_389-I_398、2017. https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_389
- 森本瑛士・赤星健太郎・結城勲・河内健・谷口守：広域的視点から見る断片化された都市計画の実態、-市町村マスタープラン連結図より-、土木学会論文集 D3、Vol.73, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.34)、pp.I_345-I_354、2017. https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_345
- 崔文竹・森英高・谷口綾子・谷口守：地域環境と心身の健康状態に関する因果分析、-BMI と健康関連 QOL 指標に基づく検討-、土木学会論文集 D3、Vol.73, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.34)、pp.I_355-I_366、2017. https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_355
- 越川知紘・菊池雅彦・谷口守：コンパクトシティ政策に対する意識とその変容構造、-地方自治体の都市計画担当者を対象にして-、土木学会論文集 D3、Vol.73, No.5 (土木計画学研究・論文集、Vol.34)、pp.I_379-I_388、2017. https://doi.org/10.2208/jscejpm.73.I_379
- 森本瑛士・越川知紘・谷口守：拠点間公共交通所要時間の実態分析、-コンパクト+ネットワークによる都市サービス機能の補完を見据えた基礎的検討-、交通工学論文集、4 卷(2018)1 号、pp.A_71-A_79, https://doi.org/10.14954/jste.4.1_A_71

★ 簡易審査・アブストラクト審査：

森本瑛士・越川知紘・谷口守：施設集積率の違いにみる拠点間公共交通所要時間の実態分析、－「コンパクト+ネットワーク」に着目して－、交通工学研究発表会論文集、No.37、CD-Rom、2017.

兪仕怡・三浦清洋・香月秀仁・谷口守：中国におけるバイクシェアリングの導入・運営に関する実態、交通工学研究発表会論文集、No.37、CD-Rom、2017.

★ 論説：

谷口守：智慧社区・城市類型・生活空間、S+R (Smart Urban Regeneration)、pp.120-125、Vol.4、2017.

谷口守：30年越しの宿題から、月刊建設、Vol.61、No.5、pp.4-5、2017.

谷口守：コンパクトシティの今を考える、新都市、Vol.29、No.9、pp.3-4、2017.

谷口守：コンパクトシティが築く都市の未来、建設産業新聞、2017.11.30.、6面全面、2017.

徳永幸久・谷口守・佐藤栄一・多野春光：都市のコンパクト化と交通ネットワークの連携、区画整理、2018.1.、pp.8-27、2018.

谷口守：都市自治体による持続可能なモビリティ政策、－まちづくり・公共交通・ICT－、公益財団法人日本都市センター、pp.3-9、pp.109-113、pp.225-234、2018.3.

谷口守：地域公共交通とまちづくり、都市とガバナンス、Vol.29、pp.44-49、2018.3.

◆ 学会発表等：

★ 口頭発表

平間尚夏・森英高・谷口守：新たなモビリティ・マネジメント：「外出MM」と「活動MM」の可能性、－活動格差社会の要因分析から－、第12回JCOMM(日本モビリティ・マネジメント会議)、2017.7.28-29、アクロス福岡(福岡県福岡市)

Macherie Grant and Mamoru Taniguchi, Board Scheme Concept: Prospect of Providing Tenure Security Solutions to Squatter Settlements in Jamaica, 第3回国際会議 Urban Planning and Property Development (UPPD2017), Hotel Fort Canning, Singapore, 2017.10.09-10

Macherie GRANT and Mamoru TANIGUCHI: Application of a Simple Wastewater Storage System in a Protected Environmental Area in a Squatter Area –Port Royal in Jamaica, 第45回環境システム研究論文発表会(大阪大学吹田キャンパス)、2017.10.21-22; 第45回環境システム研究論文発表会講演集、pp.153-162、2017.10.

森英高・川崎薫・谷口守：縮退に着目した地域類型にみる退化性能の検討、第56回土木計画学研究発表会(秋大会)、岩手大学上田キャンパス(岩手県盛岡市)、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P57、pp.1-9、2017.11.

崔文竹・藤井達哉・横田尚己・谷口守：健康に関する環境評価指標の比較と展望、－都市計画・公衆衛生分野に着目して－、第56回土木計画学研究発表会(秋大会)、岩手大学上

- 田キャンパス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P1、pp.1-8、2017.11.
香月秀仁・東達志・高原勇・谷口守：自動運転車によるシェア型交通導入の影響分析、—
MaaS 時代を見据えた一考察—、第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学
上田キャンパス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P39、pp.1-6、
2017.11. [優秀ポスター賞受賞]
- 越川知紘・森本瑛士・谷口守：地方自治体の行政評価からみた多様化するコンパクトシテ
ィ政策に対する評価、第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学上田キャン
パス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P11、pp.1-9、2017.11. [優
秀ポスター賞受賞]
- 杉本峻佑・藤川昌樹・川村大悟・谷口守：ソーラー充電システムを活用した駐車場集約の
可能性、—重伝建地区(真壁・吹屋)を対象として—、第 56 回土木計画学研究発表会（秋
大会）、岩手大学上田キャンパス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、
P33、pp.1-6、2017.11.
- 平間尚夏・森英高・谷口綾子・谷口守：活動の制約要因とその解消に向けた一考察、—活
動格差社会克服のための「外出 MM」「活動 MM」の提案—、第 56 回土木計画学研究発
表会（秋大会）、岩手大学上田キャンパス（岩手県盛岡市）、 [優秀ポスター賞受賞]
土木計画学研究・講演集、Vol.56、P81、pp.1-7、2017.11.
- 森本瑛士・越川知紘・谷口守：市町村間交通軸の整合性に関する一考察、—拠点間公共交
通に着目して—第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学上田キャンパス（岩
手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P56、pp.1-6、2017.11.
- 川崎薫・片山茜・谷口守：Society5.0 を見すえた農村部移住意識活性化の構造、—子育て
世代に着目して—、第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学上田キャン
パス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、P55、pp.1-6、2017.11.
- 赤星健太郎・矢部俊男・石井儀光・谷口守：都市の 3D モデルと統計データの一体的活用
の可能性、第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学上田キャンパス（岩手
県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、143、pp.1-10、2017.11.
- 河内健・赤星健太郎・大内雅博・谷口守・田中雄一・結城勲：わが国とスイスの都市構造
の特性比較に関する研究、第 56 回土木計画学研究発表会（秋大会）、岩手大学上田キ
ャンパス（岩手県盛岡市）、土木計画学研究・講演集、Vol.56、182、pp.1-7、2017.11.

◆ その他：

2017 年度 筑波大学 Best Faculty Member

指導学生受賞（片山茜：学長表彰／香月秀仁：研究科長表彰／東達志：学群長表彰／
森英高、越川知紘、平間尚夏：専攻長表彰／東達志：倉谷賞／
香月秀仁：修士論文同窓会優秀賞／宗健：不動産学会湯浅賞／
越川知紘：環境システム研究優秀学生発表賞／平間尚夏、越川知紘、

香月秀仁：土木計画学研究発表会優秀ポスター賞／
宗健：都市住宅学会最優秀博士論文賞)

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻運営委員
社会工学類運営委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：
- ◆ 学会活動（役員／委員）
交通計画協会 代表理事
日本都市計画学会 理事、都市構造可視化特別委員会委員長
運輸政策研究 編集委員会 副委員長
日本モビリティ・マネジメント会議 理事
認定都市プランナー評価委員会 委員
- ◆ 学外から委嘱された委員、兼業など
国土交通省 「国土審議会 住み続けられる国土専門委員会」 専門委員
国土交通省 「社会資本整備審議会 都市計画・歴史的風土分科会
都市計画部会 都市計画基本問題小委員会」 臨時委員
国土交通省 「全国都市交通特性調査検討会」 委員
国土交通省 「小さな拠点を核とした地域構造に関する検討会」 座長
国土交通省 「河川技術評価委員会流域計画・流域管理課題評価分科会」 委員
国土交通省 「都市計画関連ビジネスの新たな展開に関する研究会」 委員
国土交通省 「駐車場等の都市交通に関する勉強会」 委員
環境省 「中央環境審議会地球環境部会 長期低炭素ビジョン小委員会」 委員
環境省 「中央環境審議会総合政策部会 環境研究・技術開発推進戦略専門委員会」
専門委員
環境省 「CO2 排出削減対策技術評価委員会交通低炭素化技術開発分野分科会」 委員
環境省 「二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金に係る補助事業者選定のための
審査委員会」 委員
茨城県 「茨城県都市計画審議会」 委員
茨城県 「茨城県国土利用計画審議会」 委員
茨城県 「茨城県土地利用審査会」 委員
新潟県 「新潟空港アクセス改善協議会及び同ワーキング」 外部有識者

山梨県 「山梨県都市計画審議会 マスタープラン委員会」 専門委員
和歌山県 「和歌山県都市計画審議会」 会長
福岡県 「福岡県都市計画審議会 持続可能な都市づくり専門委員会」 委員
古河市 「古河市都市計画マスタープラン改定及び古河市立地適正化計画策定
懇談会」 座長
桜川市 「桜川市都市計画マスタープラン策定委員会」 委員
川越市 「川越市立地適正化計画策定懇談会」 座長
新潟市 「新潟市新バスシステム事業評価委員会」 委員長
静岡市 「静岡市立地適正化計画策定アドバイザー会議」 委員長
倉敷市 「倉敷市地域公共交通会議」 委員（議長）
北九州市 「北九州市都市計画審議会」 臨時委員
東京都市圏交通計画協議会 「東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会」 座長
日本都市センター 「都市自治体のモビリティに関する研究会」 座長
日本みち研究所 「道路空間高度化研究会」 委員
公共交通利用推進等マネジメント協議会 「エコ通勤の啓発及びエコ通勤優良事業所認証
制度の普及・促進のための方策の検討」 委員
未踏科学技術協会 「バイオミメティックス活用検討委員会」 委員
株式会社価値総合研究所 「国土情報整備に係る中期的方針検討委員会」 委員
(国土交通省委託)
常陽地域研究センター 「茨城県生活行動圏調査(消費動向調査)研究会」

氏名	張 勇兵	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	情報処理、通信ネットワーク、性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
社会工学類：フレッシュマン・セミナー／情報ネットワーク／情報技術実験／情報リテラシー・演習／社工専門英語
- ◆ 大学院：情報ネットワーク
- ◆ 指導学生数：
社会工学類生：3人
社会工学類科目履修生（交換留学生）：4人
社会工学専攻博士後期課程：2名
社会工学専攻博士前期課程：6名
社会工学専攻研究生：4名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
モバイルクラウドにおけるデータの配置に関する研究、移動端末負荷の効率的なオフローディングに関する研究、エスティック光通信ネットワークにおける波長・分波器・コア割り当て方式に関する研究
- ◆ 著書・論文等：
 - 1) K. Guo, M. Yang, Y. Zhang, and Y. Ji: An Efficient Dynamic Offloading Approach based on Optimization Technique for Mobile Edge Computing, *Proc. IEEE Int. Conf. Mobile Cloud Computing, Services, and Engineering (MobileCloud2018)*, 8 pages, Bamberg, Germany (March 2018).
 - 2) M. Yang, Y. Zhang, and Q. Wu: Routing, Spectrum and Core Assignment in SDM-EONs with MCF: Novel Node-arc ILP/MILP Methods and an Efficient XT-aware Heuristic Algorithm, *OSA/IEEE J. Optical Communications and Networking*, Vol. 10, No. 3, pp. 195-208, (March 2018).

◆ 学会発表等：

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

システム情報工学研究科情報環境委員会委員、香港理工大学との国際交流協定責任者

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学類コンピュータ委員長、社会工学類運営委員、社会工学専攻コンピュータ委員長、社会工学専攻運営委員、社会工学類専門用計算機システム仕様策定委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) **Associate Editor** (2007～), Journal of Peer-to-Peer Networking and Applications, Springer.
- 2) **Program Committee**, IEEE Conference on Smart City Innovations (IEEE SCI 2017), San Francisco, CA, August 4-8, 2017.
- 3) **Program Committee**, IEEE International Wireless Communications and Mobile Computing Conference (IWCMC2017), Calencia, Spain, June 26-30, 2017.

氏名	堤 盛人	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻, サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	空間統計学, 土木計画学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 線形代数Ⅱ 国土・地域・都市の政策評価 都市計画マスタープラン実習(共同) 社会基盤と国土(共同)

大学院 地域科学(共同)・社会基盤計画学(共同)

◆ 指導学生数：

社会工学類 2人

社会工学専攻 博士前期課程 3人 博士後期課程 4人

◆ 学生の受賞：

2017年7月 Takahiro Yoshida: Young Scholar Award: Environmental Systems Research Institute, Inc.

2018年3月 吉田崇紘 筑波大学大学院システム情報工学研究科長表彰

2018年3月 高野佳佑 筑波大学大学院システム情報工学研究科社会システム工学専攻長表彰

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

研究代表者 日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究(B) 『空間的自己相関を考慮した地域間フローの計量分析と空間詳細化』

研究代表者 朝日航洋株式会社 受託研究及び奨学寄付金『道路台帳を活かした道路アセットマネジメントに関する研究』

研究代表者 株式会社帝国データバンク 受託研究 『空間情報と大規模企業データを用いた事業所間取引構造に関する研究』

研究代表者 一般社団法人 三幸オフィス基金 奨学寄付金 『オフィス賃貸マーケットに関する研究』

研究分担者 内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 委託研究費 『戦略的イノベーション創造プログラム 道路インフラマネジメントサイクルの展開と国内外への実装を目指した統括的研究』(代表：前川宏一)

◆ 著書・論文等：

査読付き論文

- 1) 吉田崇紘・堤盛人：「人口構成比の観点からみた将来の日本の縮図：組成データ解析の適用」, 『GIS—理論と応用』, Vol.25, No.2, pp.23-33, 2017.
- 2) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi: On the effects of spatial relationships in spatial compositional multivariate models. *Letters in Spatial and Resource Sciences*, Volume 11, Issue 1, pp 57–70, March 2018.
- 3) Keisuke Takano, Morito Tsutsumi and Yasuaki Kikukawa, “Spatial Modeling of Industrial Location Determinants in Japan: Empirical Analysis Using Spatial Econometric Approach”, *Review of Urban and Regional Development Studies*, Vol.30, No.1, pp.26–43, March 2018.

◆ 学会発表等：

- 1) 山口真理沙・吉田崇紘・堤盛人：「過去日本の縮図の探索：五歳階級別人口構成比の観点から」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.55, (CD-ROM 講演番号：10-02). (土木学会第55回土木計画学研究発表会（春大会）, 愛媛大学, 6月10日～11日, 2017.)
- 2) 湯本崇・堤盛人：「市町村における道路の維持管理業務の支援方策の検討」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.55, (CD-ROM 講演番号：105-11)
- 3) 宇田俊亮・瀬谷創・塚井誠人・堤盛人：「日本における工業地の分譲価格の分析」, 『土木計画学研究・講演集』, Vol.55, (CD-ROM 講演番号：45-05) (土木学会第55回土木計画学研究発表会（春大会）, 愛媛大学, 6月10日～11日, 2017.)
- 4) Takahiro Yoshida, Rim Er-Rbib, and Morito Tsutsumi (2017): The epitome of the future world from the perspective of demographic composition. The 7th International Workshop on Compositional Data Analysis (June 5–9, 2017; Parco Museo Minerario, Abbadia San Salvatore, Siena, Italy), ID: P3-6. [poster]
- 5) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi (2017) Spatial regression model for compositional data in discrete space with spatial auto-correlation and spatial cross-correlation. The 7th International Workshop on Compositional Data Analysis (June 5–9, 2017; Parco Museo Minerario, Abbadia San Salvatore, Siena, Italy), ID: ENV-2-1.
- 6) Keisuke Takano and Morito Tsutsumi, “Spatial Analysis of Inter-prefectural Industrial Relocation Flow: Evidence from Japan,” 11th World Conference of the Spatial Econometrics Association, Singapore (Singapore), June 13–15, 2017.
- 7) Rim Er-Rbib, and Morito Tsutsumi: Measuring Industrial Agglomeration and Coagglomeration: An Exploratory Spatial Analysis Approach Applied to Japan, 11th World Conference of the Spatial Econometrics Association, Singapore (Singapore), June 13–15, 2017.

8) Takahiro Yoshida and Morito Tsutsumi (2017) Compositional multivariate conditionally autoregressive (CMCAR) model with spatial cross-correlation for discrete space. Spatial Statistics 2017 (July 4–7, 2017; Lancaster University, UK), ID: OC15.

9) Yasuaki Kikukawa, Keisuke Takano and Morito Tsutsumi, “Detection of Economic Areas in Japan Using Inter-firm Transaction Data,” 57th ERSA Congress, Groningen (Netherlands), 29 August–1 September, 2017.

10) Yasuaki Kikukawa, Keisuke Takano and Morito Tsutsumi, “Detection of Functional Regions based on a Transaction Network of Business Establishments: Evidence from Miyagi Prefecture,” The 7th Asian Seminar in Regional Science, Taipei (Taiwan), 8–9 September, 2017.

11) 堤 盛人・古川 誠・那須 清吾 (2017) : 全国の橋梁に係る将来の費用推計の試み, 土木学会論文集F4 (建設マネジメント) Vol.73, No.4, 第35回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会講演集, pp.102-105 (CD-ROM, 講演番号:26) . (第35回 建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会, 土木学会, 2017年12月5日.)

◆ その他 :

i) 寄稿

1) 堤盛人 : 「技術者へのエール」, 『朝日航洋技術報』, p.4, 2017.

2) 堤盛人 : 「全国の橋梁に係る将来の費用推計の試みについて」, 月刊『建設』, 2018年2月号, pp.4–5, 2018.

ii) 講演

1) 「地理空間データを活用した空間計量分析と自治体業務支援の可能性」, 朝日航洋株式会社 平成29年度社内技術発表会 特別講演, 2017年7月21日, 朝日航洋株式会社 空間情報事業本社 6階大会議室 (川越市) .

2) 「空間計量経済学の手法を用いた分析例の紹介」, 日本経済学会 2017年度春季大会, チュートリアル・セッション 『時空間計量経済学 その現況と今後の展望』(座長 東北大学 矢島美寛 教授), 2017年6月24日, 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス.

iii) 新聞・テレビ等での紹介

1) NHK 総合 NHK ニュース おはよう日本 平成29年12月2日土曜日 6時9分頃

2) 日本経済新聞 平成29年12月4日月曜日 34面, 産経新聞 同日 26面, 茨城新聞 同日2面, その他 中国新聞, 富山新聞, 佐賀新聞 等 同日

3) 日刊建設工業新聞, 平成29年12月5日火曜日 (第19319号), 1面

4) 建設通信新聞, 平成30年3月15日, 11面 インタビュー記事

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献 :

特になし

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

社会工学専攻：カリキュラム委員会委員長・論文委員会委員

社会工学類：1年生担任・社工 SFT 対応 WG メンバー

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動（役員/委員，論文査読等）

1) 一般社団法人日本写真測量学会 評議員

2) 日本不動産金融工学学会 評議員

3) 応用地域学会 論文編集委員・同委員長

4) 査読委員/査読者：応用地域学研究，土木計画学研究・論文集 Vol.34，土木学会論文集 D3（土木計画学），土木学会論文集 F3（土木情報学），日本不動産学会誌

◆ 社会的活動

1) 総務省 『政策評価審議会』 専門委員

2) 国土地理院 『総合評価委員会』 委員

3) 国土地理院 『平成 29 年度測量士・測量士補試験考査委員会』 委員

4) 国土交通省 『地域道路経済戦略検討会』 委員

5) 茨城県 『河川整備計画検討委員会』 委員

6) 公益社団法人日本測量協会 『地理空間情報専門技術委員会』 委員

◆ その他兼業

株式会社タス 非常勤顧問

氏名	Phung Duc Tuan	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、サービス工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	応用確率過程, 計算機・通信・サービスシステムのモデル化と性能評価		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目 :
 応用確率過程 (秋)
 プログラミング実習 (秋)
 計算機科学 (分担, 秋)
 社会工学のための数学 (分担, 春)
- ◆ 指導学生数 :
 卒論生 : 1 名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要 :
 2017 年 8 月～2018 年 3 月 : 筑波大学研究基盤支援プログラム (Aタイプ) 「起動時間を有するシステムの理論解析と省エネ型データセンター性能評価への応用」 (代表)
- ◆ 著書・論文等 :

<編集国際会議の会議録>

Phung-Duc, T. and Dimitriou, I. and Vatamidou, E. Eds., Proceedings of Symposium on Stochastic Models: Methods and Applications (SAMMA 2017 within the ICNAAM 2017, 25-30 September 2017, Thessaloniki, Greece.), to appear in *AIP Conference Proceedings*.

<査読付き専門書の一章として掲載論文>

Phung-Duc, T. (2017), "Retrial Queueing Models: A Survey on Theory and Applications," to appear in *Stochastic Operations Research in Business and Industry* (eds. by Tadashi Dohi, Katsunori Ano and Shoji Kasahara), World Scientific Publisher.

<査読付き学術論文誌に掲載論文>

Yajima, M. and Phung-Duc, T., "Batch Arrival Single Server Queue with Variable

Service Speed and Setup Time,” *Queueing Systems*, Vol. 86, Nos. 3-4, pp. 241--260, 2017. [DOI: 10.1007/s11134-017-9533-2]

Fiems, D. and Phung-Duc, T., “Light-Traffic Analysis of Random Access Systems without Collisions,” Published Online First in *Annals of Operations Research*, 2017. [DOI: 10.1007/s10479-017-2636-7]

Phung-Duc, T. and Kawanishi, K., “Multiserver Retrieval Queue with Setup Time and its Application to Data Centers,” to appear in *Journal of Industrial and Management Optimization*, 21 pages, 2017. [DOI: 10.3934/jimo.2018030]

<査読付き国際会議論文>

Dragieva, V. and Phung-Duc, T., “Two-Way Communication M/M/1/N Retrieval Queue,” Proceedings of 24th International Conference on Analytical & Stochastic Modelling Techniques & Applications (ASMTA 2017), Newcastle-upon-Tyne, UK, 10-12 July, 2017, Thomas N., Forshaw M. (eds), *Lecture Notes in Computer Science*, LNCS 10378, pp. 81-94, 2017. [DOI: 10.1007/978-3-319-61428-1_6]

Nazarov, A., Phung-Duc, T. and Paul, S. (2017), “Heavy Outgoing Call Asymptotics for MMPP/M/1/1 Retrieval Queue with Two-Way Communication,” In A. Dudin et al. (Eds.) Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Applications, ITMM 2017, *Communications in Computer and Information Science*, Vol. 800, pp. 28-41, Springer, Cham. [DOI: 10.1007/978-3-319-68069-9_3]

Dragieva, V. and Phung-Duc, T., “Two-Way Communication M/M/1/1 Queue with Server-Orbit Interaction and Feedback of Outgoing Retrieval Calls,” In A. Dudin et al. (Eds.) Information Technologies and Mathematical Modelling. Queueing Theory and Applications, ITMM 2017, *Communications in Computer and Information Science*, Vol. 800, pp.243-255, Springer, Cham. [DOI: 10.1007/978-3-319-68069-9_20]

Yajima, M., Phung-Duc, T. and Masuyama, H., “The stability Condition of the BMAP/PH/ ∞ Queues,” *Proceedings of the 12th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2017)*, pp. 82--85, Yanshan University Qinhuangdao, China, August 21-23, 2017.

Phung-Duc, T. and Dragieva, V., “Stability Analysis of Multiserver System with Servers-Orbit Interaction and Feedback,” *Proceedings of 15th International*

Conference of Numerical Analysis and Applied Mathematics (Stochastic Models: Methods and Applications), to appear in *AIP Conference Proceedings*, Thessaloniki, Greece, September 25-30, 2017.

Dimitriou, I. and Phung-Duc, T., “A Riemann-Hilbert Boundary Value Problem for Single Server Systems with Two Orbits for Blocked and Feedback Customers,” *Proceedings of 15th International Conference of Numerical Analysis and Applied Mathematics (Stochastic Models: Methods and Applications)*, to appear in *AIP Conference Proceedings*, Thessaloniki, Greece, September 25-30, 2017.

Aissani, A. and Phung-Duc, T., “Profiting the Idleness in Single Server System with Orbit-Queue,” *Proceedings of the 11th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools*, Venice, Italy, December 5-7, 2017.

◆ 学会発表等：

牛垣 龍一，フンドック トゥアン，河西 憲一，Yuan-Cheng Lai, Ying-Dar Lin, フロー到着とクロストラフィックを考慮した SDN の待ち行列モデルとその解析，第 34 回（2017 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」，予稿集，pp. 61-70，大阪大学会館 アセンブリーホール（大阪府豊中市），2018 年 01 月，17-19 日。

日出山 慎人，フンドック トゥアン，サーバブロックの起動時間を持つデータセンターの待ち行列モデルによる性能解析，第 34 回（2017 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」，予稿集，pp. 135-144，大阪大学会館 アセンブリーホール（大阪府豊中市），2018 年 01 月，17-19 日。

矢島 萌子，フンドック トゥアン，増山 博之，マルコフ型集団到着過程と裾の軽いサービス分布を持つ無限サーバ待ち行列の安定性の十分条件，第 34 回（2017 年度）待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」，予稿集，pp. 145-152，大阪大学会館 アセンブリーホール（大阪府豊中市），2018 年 01 月，17-19 日。 待ち行列研究部会・研究奨励賞

◆ その他：解説論文等

フンドック トゥアン， ``第 33 回 2016 年度待ち行列シンポジウムルポ” ，オペレーションズ・リサーチ，Vol.62 No.7, pp, 458-459, 2017.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
TGSW 実行委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
広報委員会メンバー
大学院入試委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
学術論文誌の編集員

Editor of KSII Transactions on Internet and Information Systems (Korean Society for Internet Information) from January 2013 ~ present

Editor of Journal of Platform Technology (ICT Platform Society) from November 2013 ~ present

Editorial Board of International Journal of Applied & Experimental Mathematics (IJAEM) from December 2015 ~ present

Guest Editor of Special Issue of Annals of Operations Research on Queueing Theory and Network Applications, from October 2016 ~ present

Associate Editor of Queueing Models and Service Management (QMSM) from May 2017

Editorial Board of The Open Statistics and Probability Journal from December 2017

国際会議の委員等

Technical Programme Committee Member of The Thirteenth International Conference on Networking and Services (ICNS 2017), 21-25 May 2017 - Barcelona, Spain.

Technical Programme Committee of the 24th International Conference on Analytical and Stochastic Modelling Techniques and Applications (ASMTA'17). Newcastle, UK,

10-12 July 2017.

Technical Programme Committee of the 12th International Conference on Queueing Theory and Network Applications (QTNA2017). Qinhuangdao, China, 21-23 August 2017.

Technical Programme Committee of the 11th EAI International Conference on Performance Evaluation Methodologies and Tools (Valuetools 2017). Venice, Italia, 5-7 December 2017. [Website]

国内学会・研究集会の委員

日本オペレーションズ・リサーチ学会 庶務幹事
第 34 回 (2017 年度) 待ち行列シンポジウム「確率モデルとその応用」 実行委員

社会貢献

特になし

氏名	中村 豊	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	意思決定理論、理論経済学、数理心理学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類 微積分 I、意思決定論
大学院 意思決定理論
- ◆ 指導学生数：
社会工学類 5名
社会工学専攻 1名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤 C「多属性後悔理論の構築と実験による妥当性の研究」（研究協力者）
投稿論文 2 件の改訂作業
- ◆ 著書・論文等：
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学類入試実施委員
社会工学域分野人事世話人

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動：意思決定研究所（早稲田大学）研究協力者

氏名	八森 正泰	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻、社会工学学位プログラム 専任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	離散数学、組合せ論、トポロジー的組合せ論		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 情報リテラシー・演習／情報技術実験／社会工学特設講義 (LaTeX 入門) ／囲碁で
培う思考力／フレッシュマンセミナー

大学院 離散数理

◆ 指導学生数：

社会工学類 2 人／社会工学専攻 (前期課程) 4 人／社会システム・マネジメント専攻 1 人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究 (C) 「部分構造への等質性を基軸とする単体的複体の構造解析」 (代表)

基盤研究 (B) 「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」 (分担、代表：繁野麻衣子)

基盤研究 (B) 「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」 (分担、代表：吉瀬章子)

◆ 著書・論文等：

Masahiro Hachimori, Optimization problems on acyclic orientations of graphs, shellability of simplicial complexes, and acyclic partitions, to appear in a research monograph ‘Mathematical Programming and Game Theory’, Springer-Verlag.

Hikoe Enomoto, Masahiro Hachimori, Shun Nakamura, Maiko Shigeno, Yuya Tanaka and Masaaki Tsugami, Pure-strategy Nash equilibria on competitive diffusion games, to appear in Discrete Applied Mathematics.

◆ 学会発表等：

Symposium on Operations Research and Game Theory: Modeling and Computation, Indian Statistical Institute, Delhi Centre (Delhi, India), 2018 年 1 月 9-11 日, “Partitioning simplicial complexes and their h-triangles” (invited).

Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA-2017)・離散数学とその応用研究集会 2017, 熊本大学工学部, 2018 年 8 月 17-19 日, 「Nonpure な単体的複

体におけるマトロイド構造の考察」

- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
社会工学類等専門計算機システム仕様策定委員、外国語センター学類代表
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
学類 コンピュータ委員、1年次クラス担任
大学院 論文委員、コンピュータ委員

学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
Graphs and Combinatorics 誌 Managing Editor
日本数学会応用数学分科会委員
応用数学合同研究集会（日本数学会応用数学分科会主催，応用数理学会，龍谷大学理工学部協賛）世話人
組合せ数学セミナー（COMA ゼミ）幹事
国際会議 Japanese Conference on Combinatorics and its Applications (JCCA2018) 実施委員
JCCA メーリングリスト&ホームページ管理

氏名	原田 信行	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 専任		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	中小企業経済学、計量経済学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 統計 I / 金融論

大学院 企業評価論

◆ 指導学生数：

社会工学類 3名

社会工学専攻 (前期) 2名

社会工学専攻 (後期) 1名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費補助金 基盤研究 (C) 「中小企業の雇用・技術と日本経済の再生」 (研究代表者)

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

筑波大学 資金運用委員会委員

筑波大学 教育図書委員会委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：

社会工学類 カリキュラム委員会委員

社会工学類 卒業生連絡委員会委員

社会工学類 SF ターム検討ワーキンググループ委員

氏名	藤井さやか	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻 専任 環境科学専攻 兼任		
担当学類	社会工学類		
研究分野	都市計画、まちづくり法制、住環境整備		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 総合科目都市・地域・環境を探るⅠ・Ⅱ・Ⅲ／土地利用・地区整備計画／
現代まちづくりの理論と実践／住環境計画実習／都市計画事例講義及び実習／
設計演習Ⅰ・Ⅱ

大学院 プレイスメイキング／住環境計画論／社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学
ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ (国際交流ワークショップA・B／
まちづくりワークショップファシリテーター研修)

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／ 社会工学専攻 8人／ 研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

- 平成29年度筑波大学研究基盤支援プログラム (Bタイプ) 「カナダにおける社会的包摂プログラムを内包した住宅再整備手法の実態と課題」 研究代表者
- 2017年度筑波大学・社会工学commons・データバンクプロジェクト「国際交流ワークショップ・都市開発プロジェクトデータベース」 研究代表者
- UDCTak (アーバンデザインセンター高島平) 奨学寄附金「花壇活動を通じた「居場所」づくりとネットワーク形成」 研究代表者

◆ 著書・論文等：

- 星卓志, 野澤康, 藤井さやか, 渡邊一成: 住環境の維持, 向上に資する都市計画提案制度の活用方策に関する研究, 日本建築学会計画系論文集, 82(737), pp.1757-1764, 2017. (査読有)
- 藤井さやか: シュリンキングとコミュニティ・プランニング, 伊藤守・小泉秀樹他編『コミュニティ事典』, pp.100-101, 春風社, 2017-07.

◆ 学会発表等：

- 「つくばでのチャレンジ」からの疑問」日本建築学会 PD・地域文脈デザインの貢献のフィールドを招く. 2017年9月2日. 広島大学.

◆ その他：

- 大学院講義プレイスメイキングと連動した奨学寄附金：関彰商事株式会社奨学寄附金「つくばセンター地区土地活用提案に対する助成」研究代表者

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

- 外国語センター学類代表
- 研究科企画室室員

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 専攻：カリキュラム委員会委員
- 学類：SF ターム検討 WG 委員／建築士受験資格運営委員会委員

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動：

- 日本不動産学会事業企画委員会 委員
- 日本都市計画学会 都市計画法 50 年・100 年企画特別委員会 委員
- 日本建築学会創造的地域文脈小委員会筑波研究学園都市 WG 委員

◆ 学術指導・講師等：

- つくば市学園地区市街地振興室 中心市街地活性化に関するオープンハウスアドバイザー
- つくば市都市計画課 まちづくり専門家
- 2017 年度学術指導契約 つくば市学園地区市街地振興室「中心市街地大型店舗撤退に伴う利用者動向調査に関する学術指導」研究代表者
- 2017 年度学術指導経費 守谷市企画課「みずき野地区の長期ビジョン策定に向けた検討と実践に関する学術指導」研究分担者（研究代表者・雨宮護）
- パネリスト、「暮らしやすさの視点から考えるアセットマネジメント」八潮市アセットマネジメントシンポジウム，2017 年 6 月 12 日，八潮メセナ。
- コメンテーター、「つくばセンター地区で何が起きているか？」第 4 回里山資本主義フォーラム・まちはだれのもの？，2017 年 11 月 12 日，筑波大学。
- 講師。「コミュニティガーデンの始め方・広げ方」UDCTak（アーバンデザインセンター高島平）平成 29 年度第 4 回デザインスクール，2017 年 11 月 11 日，UR 高島平団地
- パネリスト。「茨城県まちづくりシンポジウム・パネルディスカッション」，2017 年 11 月 25 日，石岡市市民会館。

◆ 高大連携活動：

- 出前講義 2017 年度高大連携ワークショップ「常総を元気にする拠点づくり：多様な人が支え合う拠点づくり」2017 年 8 月 6 日 常総市役所。

◆ 学外委員：

- 内閣府総合特別区域の専門家評価検討会委員
- 国立研究開発法人建築研究所研究評価委員会住宅・都市分科会委員
- 国土交通省国土技術政策総合研究所技術提案評価審査会委員
- 長野県都市計画審議会委員
- 長野県都市計画ビジョン等検討委員会委員
- 茨城県リサイクル認定製品審査会委員
- 茨城県県南生涯学習センター大学等地域連携委員会委員
- 千葉県柏都市計画事業柏北部中央地区一体型特定区画整理審議会委員
- 埼玉県大規模小売店舗審議会委員
- 埼玉県景観審議会委員
- 墨田区都市計画審議会委員
- 墨田区都市計画審議会高度地区特例の認定及び許可に係る専門部会専門委員
- 墨田区都市計画マスタープラン策定委員会委員
- 墨田区建築審査会委員
- 板橋区都市計画審議会委員
- 板橋区都市計画マスタープラン改訂部会委員
- 板橋区緑の基本計画策定委員会・WG 委員
- 板橋区老朽建築物等対策協議会委員
- つくば市立地適正化計画策定委員会委員
- 土浦市建築審査会委員
- 石岡市景観調査委員会委員
- 守谷市景観審議会委員
- 下妻市庁舎建設検討市民会議副委員長
- かすみがうら市空家等対策協議会委員
- 八潮市公共施設マネジメント推進委員会副委員長
- 市川市都市計画審議会委員
- 常陽地域研究センター・2019 茨城県生活行動圏調査研究会委員
- 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター 専門調査員

氏名	藤川 昌樹	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻（専任）、生命環境科学研究科持続環境学専攻（兼担）		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻社会工学学位プログラム（専任）、地域未来創生教育コース・コースリーダー、生命環境科学研究科持続環境学専攻（兼担）		
担当学類	社会工学類（専任）		
研究分野	日本建築史・都市史、保全型都市計画		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学 類 都市計画の歴史／都市・地域・環境を探る／住環境計画実習／設計演習 II
 - 大学院 都市形成史（環境計画史）/社会工学 WS I・II
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 1人
 - 社会工学専攻 12人
 - 社会工学専攻研究生 8人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - ・科学研究費・戦略的萌芽研究「在来産業の近代化と都市形成の対応に関する日中比較研究」（代表）
 - ・石岡市「石岡市歴史的景観及び里山景観調査研究」（代表）
 - ・科学研究費 基盤研究(A)「被災・破損を起因とする建設の技術革新と建築様式に関する歴史的研究」（分担）
 - ・科学研究費 基盤研究(C)「近代和風建築の形成：橋本市中心市街地における建築調査を通して」（分担）
- ◆ 著書・論文等：
 - ・藤川昌樹「景観を守ることは、地域のアイデンティティを守ること」（『広報石岡』282、p.3、2017年7月）
 - ・藤川昌樹・藤川滯子・安藤邦廣・居島真紀「座談 古民家の文化に寄り添う暮らし」（『住宅建築』464、pp.94-97、2017年8月）
 - ・YU Siqi, FUJIKAWA Masaki “The spatial composition of Wutai Mountain in the Late Qing Dynasty(1840-1912AD)” (International Conference on East Asian Architectural Culture, 1-3B-2, Tianjan University, China, 2017.10)

・杉本 峻佑・藤川 昌樹・川村 大悟・谷口 守「ソーラー充電システムを活用した 駐車場集約の可能性 -重伝建地区(真壁・吹屋)を対象として-」(『第 56 回土木計画学研究発表会』、2017 年 11 月)

・藤川昌樹「魅力が磨かれた吉良川：重伝建選定 20 周年に寄せて」(『室戸市吉良川町 まちなみ保存のあゆみ』、p.2、室戸市教育委員会、2017 年 11 月)

・藤川昌樹「隠棲の都：近世前・中期京都における大名屋敷の一側面」(藤井恵介先生献呈論文集編集委員会編『建築の歴史・様式・社会』、pp. 263-278、中央公論美術出版、2018 年 1 月)

・藤川昌樹・嶋村明彦・福塚正浩・江島祐輔・長谷川智郁・横内基・木村智史・寺崎大貴「震災復旧の経験から日常の備えを考える」(全国伝統的建造物群保存地区協議会桜川市大会実行委員会編・発行『平成 29 年度全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会の記録』pp.14~22、2018 年 1 月)

◆ 学会発表等：

・余思奇・藤川昌樹「『西巡盛典』から見る嘉慶 16 年の五台山」『日本建築学会大会学術講演梗概集』都市計画、pp.869-870、2017 年 8 月

・徐暢・藤川昌樹「石岡市旧市街地における歴史的建造物の残存状況：石岡市における看板建築に関する基礎的研究 その 3」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.59-60、2017 年 8 月

・大井菜摘・藤川昌樹「旧和泉屋戸田邸の建築的特徴：石岡市における看板建築に関する基礎的研究 その 4」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.61-62、2017 年 8 月

・秋葉正美・藤川昌樹「明治 35 年の真壁町の住居における屋根葺材と平面の関係(その 2) - 「家屋台帳」による検討 -」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.331-332、2017 年 8 月

・今井文字・藤川昌樹「養蚕と結城紬の生産が鬼怒川流域の民家建築に与えた影響 結城紬生産地域における民家建築の特徴 その 1」『日本建築学会大会学術講演梗概集』建築史・意匠、pp.349-350、2017 年 8 月

◆ 講演ほか：

・「第 39 回全国伝統的建造物群保存地区協議会担当者会議」(藤川昌樹 [司会]、嶋村明彦 (亀山市)・福塚正浩 (金沢市)・江島祐輔 (文化庁)・長谷川智郁 (倉吉市)・横内基 (小山高専)・寺崎大貴 (桜川市)・木村智史 (同)、桜川市真壁福祉センター2017 年 5 月 25 日)

・「復興 100 年を目指したまちづくり～20 世紀初頭の都市復興遺産を活用して～」

(全国看板建築サミット、月舘敏栄 (前八戸工業大学教授)・荒牧澄多 (全国町並み保

存連名)・松井敏代(豊岡まちなみ連名)・林勤(兵庫ヘリテージ機構 H₂O)・三村昌暉(上諏訪商店街振興組合)・五味光一(すわまちくらぶ運営協議会)・島田哲(茨城県建築士会)・劉思遠・呂夢琦(筑波大学)・藤川昌樹 [コーディネーター]、石岡市民会館) ※参加者 550 名, 2017 年 7 月 16 日

- ・「過去から未来を見る：まちづくりにとって歴史とは何か？」(藤川昌樹、つくばみらい市・筑波大学高大連携プロジェクト 2017、筑波大学) 2017 年 8 月 3 日
- ・「百年名家：様式を自在に遊ぶ不思議な館—霞ヶ浦の千拓王が造った「大日苑」2017 年 11 月 12 日 (旅人：八嶋尚人・牧瀬里穂、案内人：野口幸徳・藤川昌樹、BS 朝日)
- ・「近代化遺産の保存と活用」(第 40 回全国町並みゼミ、高木備太郎(ちくさ・文化の里づくりの会)・森本アリ(旧グッゲンハイム邸)・関由有子(雁木のまち再生)、本多義忠(名古屋スリバチ学会)、藤川昌樹 [PD コーディネーター]、相応寺 [名古屋市]) 2017 年 11 月 18 日
- ・「インフラとしての高質な景観・デザイン」(講演)(藤川昌樹 [講演]、まちづくりシンポジウム 2017「景観とデザインのまちづくり」、石岡市民会館) 2017 年 11 月 25 日
- ・「景観とデザインのまちづくり」(藤川昌樹 [PD コーディネーター]、藤井さやか(筑波大学)、日下良二(石岡商工会議所)、久保田吉文(茨城県建築士会)、大重雄暉(石岡市地域おこし協力隊)、今泉文彦(石岡市長)、) 2017 年 11 月 25 日
- ・「まちの魅力を発見し創出する—地域資源を活用したまちづくり事例を通じて—」(藤川昌樹、地域づくり・まちづくりシンポジウム(地域連携サロン Vol.5)「魅力あるまちづくりを創出し発信する」、東北工業大学一番町ロビー) 2017 年 12 月 5 日
- ・石岡市歴史景観及び里山景観調査研究報告「市街地班」(藤川昌樹ほか大学院生 8 名。石岡市役所・旧近清書店、石岡市景観調査委員会) 2018 年 2 月 6 日・24 日
- ・「看板建築を活かしたまちづくり」(藤川昌樹、平成 29 年度茨城県自治会連合会情報交換会、国民宿舎つくばね) 2018 年 2 月 8 日
- ・「幕末期京都における大名屋敷の構成」(藤川昌樹、第 35 回平安京・京都研究集会「幕末京都の大名屋敷」、京都機関紙会館) 2018 年 2 月 11 日
- ・「薪ストーブの暮らしとその景観」(藤川昌樹、第 2 回つくば市・社会工学域情報交換会、吾妻交流センター大会議室) 2018 年 3 月 14 日

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - ・特になし
- ◆ 専攻組織の業務への貢献(委員会等)：
 - ・社会工学専攻/社会工学類 施設委員長

4. 学外の社会貢献

- ◆ 学会活動

- ・ 建築史学会編集委員長・常任委員
- ・ 日本建築学会災害本委員会委員
- ◆ 学外から委嘱された委員
 - ・ 室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（高知県）
 - ・ 茨城県まちづくりアドバイザー
 - ・ 史跡真壁城跡整備検討委員会委員（桜川市）
 - ・ 桜川市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 - ・ つくば市都市景観審議会委員
 - ・ 土浦市都市計画審議会会長
 - ・ 桜川市歴史的風致維持向上推進協議会会長
 - ・ 茨城県景観審議会委員
 - ・ 土浦市文化財保護審議会委員
 - ・ つくば市文化財保護審議会会長
 - ・ 笠間城跡調査指導委員会委員（笠間市）
 - ・ スーパープロフェッショナルハイスクール運営指導委員（栃木県立宇都宮工業高等学校）
 - ・ 熊本地震被災文化財建造物復旧支援事業企画選定委員
 - ・ 石岡市景観調査委員会委員長
 - ・ 下妻市庁舎建設検討市民会議座長

氏名	松原 康介	職名	准教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	国際総合学類 社会工学類 (兼担)		
研究分野	中東・北アフリカ地域の都市計画史、国際協力		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類：都市文化共生計画/都市計画の思想史/
 - 大学院：都市形成史/中東・北アフリカ研究特講 I
- ◆ 指導学生数：
 - 国際総合学類 11/社会工学類 1/社会工学学位 P (前期) 11/社会工学学位 P (後期) 4

2. 研究

- ◆ 著書・論文等：
 - 松原康介「歴史都市アレppoにおける 1973 年の旧市街空間整備計画」都市計画論文集、2017年11月、52-3号、945-952頁
 - 松原康介「国際交流組織 ATBAT の結成と変容 -ATBAT (建造者アトリエ) の国際・地域交流活動の歴史的経緯に関する研究 その1-」日本建築学会計画系論文集、2017年12月、742号、3239-3249頁
 - Melissa Wangui Wanjiru and Matsubara Kosuke, “Slum Toponymy in Nairobi, Kenya”, *Urban and Regional Planning Review*, 4, pp.21-44, 2017.
- ◆ 学会発表等：
 - 学会発表等：
- ◆ その他：
 - Kosuke Matsubara “Using Historical Heritage For the Revival of Aleppo”, *Saving the Syrian Cultural Heritage for the Next Generation: Palmyra. A Message from Nara*、招待講演、2017-07.
 - Kosuke Matsubara “A research on the historical landscape in Djerba island, Tunisia”, *TJASSST 2016 in Tsukuba, Japan: The Tunisia-Japan Symposium on Science, Society and Technology*, 2017-11-24--2017-11-26
 - 松原康介「アルジェ・植民都市計画の変遷 モダニズムの地域性」2017年度都市史学会大会シンポジウム「植民地と都市そして地域」、招待講演、東京理科大学、2017-12-10

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
地中海・北アフリカ研究センター 兼任准教授
筑波大学北アフリカ研究センター 運営委員
筑波大学ボルドー事務所 運営委員
筑波大学タシケント事務所 運営委員
筑波大学アルマトイ事務所 運営委員

- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻入試実施委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
東北大学大学院国際文化研究科 非常勤講師
つくばみらい市総合計画審議会 副会長

JAABE (Journal of Asian Architecture and Building Engineering), Field Editor
(Architectural/Urban Design)
日本建築学会 アジア建築交流委員会委員 (プログラムリーダー)
日本建築学会 図書委員会・文献抄録小委員会・第5部会 (都市計画) 委員
日本都市計画学会 国際委員
日仏東洋学会 広報担当幹事

- ◆ 受賞
筑波大学システム情報系教育貢献賞

氏名	三崎 広海	職名	助教
専攻 (博士後期課程)	リスク工学専攻 専任		
専攻 (博士前期課程)	リスク工学専攻 専任 社会工学専攻 協力		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	統計学、計量経済学、計量ファイナンス、大規模データ解析		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
 - 学類 計量時系列分析／国際・公共システム演習
 - 大学院 金融リスク解析／リスク工学専攻演習／リスクマネジメント序論／リスク工学基礎
- ◆ 指導学生数：
 - 社会工学類 2人
 - リスク工学専攻 1人／社会工学専攻 7人

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
 - 公益財団法人野村財団・社会科学研究助成「高頻度データによる資産価格の分散・共分散推定」(代表)
- ◆ 著書・論文等：
 - Misaki, H., “An Empirical Analysis of Volatility by the SIML Estimation with High-Frequency Trades and Quotes,” 10th International Conference on Intelligent Decision Technologies, KES Smart Innovation Systems and Technologies, *forthcoming*.

3. 学内運営

- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - リスク工学専攻 M2 学年主担当／「リスク工学専攻演習」担当／表彰選考委員会／「リスク工学基礎」担当／「リスクマネジメント序論」担当／入試委員会／大塚キャンパス対策委員会／達成度評価実施委員会

氏名	繆 瑩	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	組合せ論、情報セキュリティ、情報通信、グループ検査		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
学類：線形代数 II/情報ネットワーク/シミュレーション/社工専門英語
大学院：電子商取引
- ◆ 指導学生数：社会工学類 0 人/社会工学専攻（前期）2 人/社会工学専攻（後期）5 人/研究生 3 人
- ◆ 学生の受賞：顧玉杰 研究科長賞

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：
科学研究費基盤研究（C）「デジタル指紋及びグループ検査に共通する組合せ構造とアルゴリズムに関する研究」（代表）
- ◆ 著書・論文等：
[1] Y. Gu and Y. Miao, Bounds on traceability schemes, IEEE Transactions on Information Theory 64 (2018), 3450–3460.
[2] C. Shanguan, X. Wang, G. Ge and Y. Miao, New bounds for frameproof codes, IEEE Transactions on Information Theory 63 (2017), 7247–7252.
[3] H. Cai, Z. Zhou, X. Tang and Y. Miao, Zero-difference balanced functions with new parameters and their applications, IEEE Transactions on Information Theory 63 (2017), 4379–4387.
- ◆ 学会発表等：
- ◆ その他：

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
全学：中国北京事務所運営委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

大学院：留学生支援委員/学生相談室委員
学類：入試実施委員長/就職委員/クラス担任
域：経営工学人事世話人

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

Editor: Graphs and Combinatorics, Springer, April 2002 - present.

Editor: Journal of Combinatorial Designs, John Wiley & Sons, January 2004 - present.

Editor: Journal of the India Society of Agricultural Statistics, August 2009 - present.

Editor: Bulletin of the Institute of Combinatorics and its Applications, January 2017 - present.

Organizer: Mini-symposium “Coding Theory and Cryptography”, in
“Japanese Conference on Combinatorics and its Applications”, Kumamoto
University, August 17, 2017 - August 19, 2017.

氏名	村上 暁信	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類		
研究分野	緑地計画，ランドスケープ・デザイン，都市農村計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市緑地計画，都市計画マスタープラン策定実習，社会工学実習，都市環境評価論，現代まちづくりの理論と実践

大学院 Landscape Planning，ランドスケープ・デザイン・スタジオ

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会工学専攻 1人（前期課程）／社会工学専攻 2人（博士後期）／環境科学専攻 2人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「量から質へのシフトを実現するための緑地の計画制度・設計手法・運用方法の研究」(代表)

科学研究費 挑戦的萌芽研究「津波で失われた景観のデジタル再現と記憶の分析によるコミュニティが共有する場の解析」(代表)

一般財団法人 住総研 研究・実践助成「昭和三陸津波後に高台移転した地域における東日本大震災後の復興－津波被災前の3Dデジタルモデルを用いた分析」(代表)

委託事業 宮城県岩沼市「津波被災前の景観再現モデルを活用したVRシステム等作成業務」(代表)

学術指導 東海村「東海村「神楽沢近隣公園整備計画」の策定検討に向けた現況の調査及び設計に関する学術指導」(代表)

NHK 特集番組「特集 明日へ つなげよう～震災から7年～ 第三部 岩手編「よみがえれ “青春列車”」(2018.03.11 放送) の制作，出演

◆ 著書・論文等：

Hara, Y., Ohsugi, T., Tsuchiya, K., Murakami, A., Palijon, A.M. : Post-disaster recovery linked with pre-disaster land development and damage density of Typhoon Yolanda: Toward better land-use planning in Tacloban City, the Philippines. Journal of Environmental Information Science, Vol. 2017(2), 1-12, 2017 (査読有)

瀬島由実加, 村上暁信, 有田智一: 民有地緑化誘導における協議調整プロセスの実態と課題. 日本都市計画学会都市計画論文集, 52(3), 1256-1261, 2017 (査読有)

Guillen, V. P., Murakami, A., Dynamics of house state consolidation in Lima Metropolitan area : a cellular automata approach. Journal of the Japanese Institute of Landscape Architecture, 80(5), 657-662, 2017 (査読有)

村上暁信: 環境保全的視点からの都市農村一体的整備の必要性. (財団法人日本都市センター『超高齢・人口減少時代の地域を担う自治体の土地利用行政のあり方』, 111-121), 財団法人日本都市センター, 2017 (著書)

◆ 学会発表等:

◆ その他:

村上暁信: 縮退する都市郊外における地域制緑地制度の活用と課題. グリーン・エージ, 531, 4-7, 2018

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献:

全学学群教育課程委員

◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等):

社会工学類カリキュラム委員長, 社会工学類将来設計WGメンバー,

4. 学外の社会貢献

◆ 政府・地方自治体・独立行政法人等の座長・会長・委員:

日本学術会議連携会員

守谷市都市計画審議会委員

東京都港区緑と水の委員会委員

横浜市エキサイトよこはま 22 環境検討部会委員

三鷹市景観審議会委員

山梨県都市計画マスタープラン委員会委員

◆ 学会活動:

日本造園学会学術委員会委員

日本都市計画学会国際委員会委員

環境情報科学センター理事

農村計画学会評議員

氏名	山本 幸子	職名	准教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻 専任 持続環境学専攻 兼担		
専攻（博士前期課程）	環境科学専攻 専任 社会工学専攻 兼担		
担当学類	社会工学類 専任		
研究分野	ストック活用計画，住宅計画，地域計画		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類： 設計演習Ⅰ／住環境計画実習／設計演習Ⅱ／住まいと居住環境の計画／総合科目Ⅲ
／現代まちづくりの理論と実践

大学院：住環境計画論（環境科学専攻）／

社会工学ワークショップⅠ・Ⅱ／社会工学ファシリテーター育成プログラムⅠ・Ⅱ／

社会工学ファシリテーター育成プレプログラムⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

◆ 指導学生数：

社会工学類 2名、社会工学専攻 3名

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

基盤研究 C：「地域特性に対応した包括的移住支援システムのパターン展開」（代表）

基盤研究 C：「小学校存続活動を契機とした持続的居住支援システムの有効性と課題」（分担）

基盤研究 B：「過疎地域における廃校・空き家を活用した地域主導型福祉サービスネットワークの構築」（分担）

受託研究（石岡市）：「石岡市看板建築及び里山景観等調査研究」（分担）

共同研究（長野県）：「木曾漆器産地の活性化に関する研究」（分担）

学術指導（守谷市）：「みずき野地区の将来を見据えた長期ビジョン作成のための住民アンケートの実施に関する学術指導」（分担）

◆ 著書・論文等：

1) 大野銀河，山本幸子：農山村地域における移住者主体による空き家を転用したゲストハウスの改修内容・手法と経営形態，日本建築学会技術報告集，第24巻，第56号，pp.409-413，2018.2

2) 山本幸子：古民家の風土になじむ次世代へのつなぎ方を考える一つくば市の集落を対象として－：JOYO ARC，pp.11-16，2018.2

- 3) 河野裕美, 山本幸子: 自治会運営による高齢者集住用住宅の設置経緯と空間構成—極小規模集落の移転・集住による集落再編に関する研究—, 日本建築学会住宅系研究報告会論文集, 2017.12
- 4) 伊藤優里, 山本幸子, 中園真人: 民家を活用したひろば型子育て支援施設「地域型つどいの広場」の使われ方—山口市における既存建築を再利用した子育て支援施設整備に関する研究—, 日本建築学会計画系論文集, 第82巻, 第734号, pp.867-876, 2017.4
- 5) Sachiko MISHIMA, Nodoka SIOMI, Mahito NAKAZONO, Sachiko YAMAMOTO, Shoken KOH : Construction Process of Regional Nucleus Facility and Small-scale Day Care Facilities Converted a Traditional Timber House and Abolished School in Rural Area, Proc. of 11th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, pp.79-83, Southeast University, Nanjing, 9-11 January, 2018
- 6) Tian TIAN, Sachiko MISHIMA, Nodoka SIOMI, Mahito NAKAZONO, Sachiko YAMAMOTO, Shoken KOH : The Supply method of Elderly Welfare Facilities by Social Welfare Councils in Mountainous Areas, Proc. of 11th International Symposium on City Planning and Environmental Management in Asian Countries, pp.79-83, Southeast University, Nanjing, 9-11 January, 2018
- 7) Sachiko MISHIMA, Mahito NAKAZONO, Shoken KOH, Sachiko YAMAMOTO : Estimation of Service Utilization and Occupancy Rate of Day Care Facility in Yamaguchi Prefecture, The International Research Symposium on Engineering and Technology 2017, pp.283-294, M hotel, Singapore, 20-21 December, 2017
- 8) Riho AKIYAMA, Yuki UTASHIMA, Sachiko MISHIMA, Mahito NAKAZONO, Sachiko YAMAMOTO : Change of the Number of Young Children and Nursery Schools in Yamaguchi Prefecture (1960-2015), The International Research Symposium on Engineering and Technology 2017, pp.283-294, M hotel, Singapore, 20-21 December, 2017
- 9) Sachiko MISHIMA, Mahito NAKAZONO, Shoken KOH, Sachiko YAMAMOTO : Estimation of Day Care Facility Demand in Yamaguchi Prefecture, Annual Conference on Engineering and Applied Science 2017, pp.281-289, Hotel Okura Fukuoka, Japan, 6-9 November, 2017
- 10) Kaori KURASHITA, Saori OHASHI, Sachiko MISHIMA, Mahito NAKAZONO, Sachiko YAMAMOTO, Shoken KOH : The Supply Process and Use Sphere of Day Care Facilities for the Elderly in Suo Oshima Island, Annual Conference on Engineering and Applied Science 2017, pp.281-289, Hotel Okura Fukuoka, Japan, 6-9 November, 2017

◆ 学会発表等：

- 1) 福田由美子, 山本幸子, 下倉玲子, 石垣文, 小林文香：山村留学家族方式による移住促進の可能性に関する研究 受け入れ地域の取り組みと実績, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1 分冊, pp.1207-1208, 2017.8
- 2) 河野裕美, 山本幸子：基幹集落への移転による生活環境の変化：広島県 X 町を対象として極小規模過疎集落から基幹集落への移転, 集住に関する研究 その 1, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.105-106, 2017.8
- 3) 大野銀河, 山本幸子：タイトル:移住者主体による空き家を転用したゲストハウスの経営形態とパーソナルネットワーク構造, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.121-122, 2017.8
- 4) 平井元貴, 山本幸子：石岡市八郷地区の里山景観における果樹農家看板の設置形態と課題, 日本建築学会大会学術講演梗概集, E-2 分冊, pp.187-188, 2017.8
- 5) 山本幸子：地方自治体による近居支援事業の運用実態, 日本建築学会大会学術講演梗概集, F-1 分冊, pp.57-58, 2017.8

◆ その他：

3. 学内運営

◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：

◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：

- 社会工学類 カリキュラム委員会：委員
社会工学類 建築士受験資格運営委員会：委員
社会工学専攻 入試委員会：委員
社会工学専攻 施設委員会：委員
環境科学専攻 就職委員会：委員

4. 学外の社会貢献

◆ 各種活動：

- 1) 潮来市振興計画審議会委員
- 2) 土浦市空家等対策協議会委員
- 3) つくば市空家等対策協議会委員
- 4) 利根町空家等対策協議会委員長
- 5) 石岡市空家等対策協議会委員
- 6) 大学等地域連携委員会委員（茨城県）
- 7) 石岡市都市計画審議会委員

- 8) 城里町まち・ひと・しごと創生有識者会議委員
- 9) 利根町まち・ひと・しごと創生推進協議会委員
- 10) つくば市ホテル等建築審議会委員

氏名	吉瀬 章子	職名	教授
専攻 (博士後期課程)	社会工学専攻		
専攻 (博士前期課程)	社会工学専攻		
担当学類	社会工学類		
研究分野	数理最適化, オペレーションズ・リサーチ, サービス工学		

1. 教育

- ◆ 担当授業科目：
- ◆ 学類 問題発見と解決／数理最適化法
- ◆ 大学院前期課程 数理最適化理論／ファシリテーター育成プログラム
- ◆ 指導学生数：計19名
システム情報工学研究科
社会工学専攻・社会工学学位プログラム 5名
社会工学専攻・サービス工学学位プログラム 9名
理工学群社会工学類 5名

2. 研究

- ◆ 当該年度の研究活動概要：数理最適化の理論と応用に関する研究を行った。理論に関しては錐最適化問題に対するアルゴリズムの開発とその検証, 応用に関しては, 数理最適化を用いたモビリティ・イノベーションあるいはサービス・イノベーションにおける事業分析などに取り組んだ。
- ◆ 科学研究費 挑戦的研究(萌芽)「半正定値基を用いた錐最適化問題の近似解法の開発」(代表)
科学研究費 基盤研究(B)「錐最適化技術の実社会における利活用を加速させる基礎理論の整備と深化」(代表)
社会連携講座「地域未来地域未来創生共同研究講座」(代表)
共同研究(トヨタ自動車株式会社)「次世代社会システムとモビリティの新価値研究」(共同代表)
科学研究費 基盤研究(B)「肝臓・肺生体交換移植ネットワークの構築」(分担)
科学研究費 基盤研究(B)「ネットワーク上の時間軸をもった最適化問題とその応用」(分担)
科学研究費 基盤研究(C)「実用的な微分フリー最適化アルゴリズムの開発」(分担)
- ◆ 著書・論文等：論文
 - ◇ Masaki Yamada, Masashi Kimura, Naoki Takahashi and Akiko Yoshise. "Optimization-based analysis of last-mile one-way mobility sharing," Discussion

Paper Series No. 1353, Department of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, 投稿中.

- ◇ Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise. "LP-based tractable subcones of the semidefinite plus nonnegative cone," *Annals of Operations Research*, pp.1-28, DOI: <https://doi.org/10.1007/s10479-017-2720-z>, 査読有.
- ◇ 寿名賀寛, 木村雅志, 高原勇, 川本雅之, 吉瀬章子. 「水素ステーションの最適配置を求める 計算効率に優れたモデルと 茨城県南部の自動車交通量データを用いた計算機実験」, 応用地域学研究, 印刷中, 査読有.
- ◇ 成島大悟, 田中彰浩, 吉瀬章子. 「半正定値基底を用いた錐最適化問題の近似について」 *日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集* pp.168-169, 査読無.
- ◇ 高橋直希, 木村雅志, 山田匡規, 吉瀬章子. 「ワンウェイ型ラストマイルモビリティシェアリングのオペレーション最適化及び新規戦略の検討」, *日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会アブストラクト集* pp.88-89, 査読無.
- ◆ 学会発表等：
 - ◇ 成島大悟, 田中彰浩, 吉瀬章子. 「半正定値基底を用いた錐最適化問題の近似について」 *日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会*, 東海大学, 東京.
 - ◇ 高橋直希, 木村雅志, 山田匡規, 吉瀬章子. 「ワンウェイ型ラストマイルモビリティシェアリングのオペレーション最適化及び新規戦略の検討」, *日本オペレーションズ・リサーチ学会春季研究発表会*.
 - ◇ Daigo Narushima, Akihiro Tanaka and Akiko Yoshise, "Inner and outer approximations of the semidefinite cone using SD Bases and their applications to some NP-Hard problems," *SIAM Optimization*, Vancouver, Canada.
- ◆ その他：
 - ◇ 吉瀬章子. 「成功するサービスへ向けた『サービス工学』の新しい潮流」, *JOYO ARC*, no.581, pp.11-16.
 - ◇ 吉瀬章子. 「第 29 回 RAMP シンポジウム 特集にあたって」, *オペレーションズ・リサーチ*, vol.63, no.3, pp.126-127.
 - ◇ 吉瀬章子, 田中未来. 「国際会議 ICCOPT2016 Tokyo 開催の経験と教訓 (4)」, *オペレーションズ・リサーチ*, vol.62, no.3, pp.198-202.

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
 - (全学) 保育施設委員会委員
- ◆ 専攻組織の業務への貢献 (委員会等)：
 - (専攻) 社会工学専攻長, 施設委員会委員

(学類) 卒業生連絡委員会委員長

4. 学外の社会貢献

◆ 学会活動 (役員/委員、論文査読等)

Pacific Journal of Optimization, Editorial Board

国際会議 ICOTA 2019 実行委員長

日本オペレーションズ・リサーチ学会 副会長

日本オペレーションズ・リサーチ学会 表彰委員長

日本オペレーションズ・リサーチ学会数理計画研究部会 (RAMP) 運営委員

第 29 回 RAMP シンポジウム 実行委員長

論文査読 : Mathematical Programming, SIAM Optimization, Journal of Computational and Applied Mathematics, Optimization Letters, 等

◆ 学外から委嘱された委員、兼業など

日本学術会議 連携会員

茨城県 情報通信事業者雇用促進事業者補助金審査会委員

科学技術振興機構 竜ヶ崎第一高等学校 SSH 運営指導委員会 委員長

氏名	渡辺 俊	職名	教授
専攻（博士後期課程）	社会工学専攻		
専攻（博士前期課程）	社会工学専攻・環境科学専攻（生命環境科学研究科）		
担当学類	社会工学類		
研究分野	建築計画、都市計画、空間情報科学、デザイン科学		

1. 教育

◆ 担当授業科目：

学類 都市空間の計画とデザイン／都市計画情報実習／
基本製図／住環境計画実習／設計演習Ⅰ／設計演習Ⅱ
大学院 空間情報科学／地域データ解析

◆ 指導学生数：

社会工学類 3人／社会システム工学専攻 8人／研究生 1人

2. 研究

◆ 当該年度の研究活動概要：

科学研究費 基盤研究(B)「デザイン思考における記号操作の意味的構造と実践的役割に着目するデザイン知の探求」(分担)

◆ 著書・論文等：

松林道雄、渡辺俊：BIM データ化された設計図書を用いた施設管理の効率化、日本建築学会計画系論文集 第82巻 第734号、1125頁～1133頁、2017年4月

川邊晃大、渡辺俊：多核性に関する指標を用いた都市圏中心核の形態分析 —人口減少時代を迎えるわが国の都市圏の形態変化に関する研究（その1）—、日本建築学会計画系論文集 第83巻 第743号、137頁～144頁、2018年1月

◆ 学会発表等：

大村清美、渡辺俊：大学図書館におけるラーニング・コモンズ空間の整備実態と学生の利用動向、2017年度日本建築学会大会（中国）、2017年8月31日～2017年9月3日、広島工業大学

桑原由貴、渡辺俊：民間企業での子連れ出勤にみる空間構成と子どもの交流に関する研究、2017年度日本建築学会大会（中国）、2017年8月31日～2017年9月3日、広島工業大学

川邊晃大、渡辺俊：人口減少時代を迎えるわが国の都市圏の形態変化に関する研究 多核性に関する指標を用いた都市圏中心核の形態分析、2017年度日本建築学会大会（中国）、2017年8月31日～2017年9月3日、広島工業大学

渡辺俊：デジタル・モデュロール2、日本建築学会・第40回 情報・システム・利用・技

術シンポジウム, 2017年12月8日～2017年12月9日, 建築会館

川邊晃大、渡辺俊：土地利用の混在指標を用いたわが国の都市圏の形態分析 —埼玉県東部を対象とした Metropolitan Form Analysis— Land-Use Mix の適用—、日本建築学会・第40回 情報・システム・利用・技術シンポジウム, 2017年12月8日～2017年12月9日, 建築会館

長谷川準、川邊晃大、渡辺俊：都市の Walkability に関する研究 —Urban Network Analysis を用いた評価指標計算に向けて—、日本建築学会・第40回 情報・システム・利用・技術シンポジウム, 2017年12月8日～2017年12月9日, 建築会館

◆ その他：

デザイン・コンピューティング入門—Python による建築の形態と機能の生成・分析・最適化（日本建築学会編）コロナ社

Shun Watanabe：Combination and Permutation in Design, Design Science Seminar, Singapore University of Technology and Design, 2017年9月11日～2017年11月12日, SINGAPORE

渡辺俊：デザイン科学教育方法シンポジウム, 2017年11月10日～2017年11月11日, 東京工業大学

3. 学内運営

- ◆ 研究科や全学組織等の業務への貢献：
教育社会連携推進室長
サービス工学学位プログラムリーダー
- ◆ 専攻組織の業務への貢献（委員会等）：
社会工学専攻 運営委員、コンピュータ委員
社会工学類 運営委員、コンピュータ委員、教育用計算機仕様書策定委員

4. 学外の社会貢献

- ◆ 各種活動
国土技術総合研究所技術提案評価審査会委員
日本建築学会情報システム利用技術本委員会委員
日本建築学会デザイン科学教育方法研究小委員委員
日本建築学会情報システム利用技術シンポジウム論文WG委員
他